関西医科大学卒後臨床研修センター
KANSAI MEDICAL UNIVERSITY CLINICAL TRAINING CENTER

魅力あるキャリア形成　専門研修プログラム2027

関西医科大学

魅力あるキャリア形成
専門研修プログラム2027

Attractive Career Development Specialized Training Program 2027

関西医科大学
KANSAI MEDICAL UNIVERSITY

魅力あるキャリア形成

Attractive Career Development

INDEX

01 学長挨拶
02 センター長挨拶
03 TOPICS
04 附属病院　概要
06 総合医療センター　概要
08 香里病院　概要
09 くずは病院　概要
10 枚方キャンパス
12 シミュレーションセンター（KMUSC）
13 介護福祉部門
14 がん診療連携拠点病院としての取り組み（がんセンター）
15 緩和ケアセンター
16 専門研修プログラム募集要項
18 専門研修支援システム
20 オール女性医師キャリアセンターのご案内
22 関西医科大学におけるキャリア形成
● 高度医療人育成制度
● 大学院医学研究科進学

24 1）内科専門研修プログラム
26 （1）第一内科（血液腫瘍内科　呼吸器・感染症内科　リウマチ・膠原病科）
30 （2）第二内科（循環器内科　腎臓内科　内分泌代謝内科）
34 （3）第三内科（消化器肝臓内科）
36 （4）呼吸器腫瘍内科
38 （5）心療内科
40 （6）脳神経内科
42 2）外科専門研修プログラム
46 （1）上部消化管外科
48 （2）下部消化管外科
50 （3）肝臓外科
52 （4）胆膵外科
54 （5）小児外科
56 （6）乳腺外科
58 （7）心臓血管外科
60 （8）呼吸器外科
62 3）精神神経科専門研修プログラム
64 4）小児科専門研修プログラム
66 5）脳神経外科専門研修プログラム
68 6）整形外科専門研修プログラム

70 7）リハビリテーション科専門研修プログラム
72 8）形成外科専門研修プログラム
74 9）皮膚科専門研修プログラム
76 10）泌尿器科専門研修プログラム
78 11）眼科専門研修プログラム
80 12）耳鼻咽喉科・頭頸部外科専門研修プログラム
82 13）放射線科専門研修プログラム
84 14）産婦人科専門研修プログラム
86 15）麻酔科専門研修プログラム
88 16）救急医学科専門研修プログラム
90 17）臨床検査医学科専門研修プログラム
92 18）病理専門研修プログラム
94 19）総合診療専門研修プログラム

学長挨拶

飛躍に向けて

学長
木梨 達雄

この冊子をご覧になっている皆さんは、臨床研修から専門研修に向けて、自分がありたい医師像を思い描きながら、医師としてみずからの方向性を決める重要な時期にさしかかっていると思います。医学部入学から臨床研修にかけて長い勉学と研修を経て、自らの適性を見定めることができたでしょうか?医師として本格的に活躍するには、自分を信じ、確かな知識と技術を習得するために不断に精進することが大事です。どの分野に進んでも、病める患者に寄り添い、よりよい治療をめざす、豊かな人間性と探究心を合わせもつ医師を目指してください。

臨床研修においては若い感性で医療の現場を経験し、医師としての資質を確認する重要な期間ですが、医師としての将来像を実現していくためには、専門研修はさらに重要な意味を持つことになるでしょう。本学は、4つの附属病院と関連施設を備え、新専門医制度で定められた19の基本領域の研修が受けられる体制が整っています。3~4年間の専門研修後に特定の専門医を取得し、さらに関連する専門医の取得を目指す人や、大学院への進学、医学研究や海外留学など、各専門分野で最先端の研究を学ぶことに興味を持っている人もいるでしょう。このようなキャリアアップをめざす人にも本学は魅力ある最新施設と充実したプログラムを備えています。

本学の大学院博士課程の医学専攻は、がん、免疫・アレルギー、神経、ゲノム医学、再生医学、医学統計・データサイエンスなど最新医学に必須の科目と手技を学ぶことができ、専門研修期間からも履修可能になっています。ライフ・ワークバランスを考慮し、年限内に学位取得ができる体制を整え、社会人コースや、オール女性医師キャリアセンターによる支援も用意されています。さらに、トリノ工科大学やベネチア大学との間で医工連携など学際的な研究を行うダブルディグリー制度を設けました。提携校で1年間研究し、医学博士ともう一つの学位が取得可能です。共同研究施設は最先端機器が整備され、臨床に特化した臨床綜研を含め、最新の設備と技師が研究をサポートします。国際化推進センターが関医タワーに開設され、国際大学院留学生のサポートのほか、皆さんの海外研修や留学を支援します。本学ではがん研究に力を入れています。次世代の光免疫療法を開発する光免疫医学研究所を設立し、新たながん免疫治療研究の世界的拠点を目指しています。また、がん新薬の早期開発を行う国際がん新薬開発センターを附属病院に設置し、さらに米国有数の治験企業と日本初の合同会社を設立して、がん新薬の治験第1相試験を行う協同体制を整えました。日本が抱えるドラッグ・ラグやドラッグ・ロスの解消に貢献します。

本学は、専門研修を行う皆さんが、その後も医師として大きく飛躍できるよう、全力で応援します。

専門研修は圧倒的な診療実績と充実した指導体制のある関西医大へ！

卒後臨床研修センター長
伊藤　量基

《どこで専門研修を行うかを検討中の皆さんへ》

この冊子を手に取っている皆さん、忙しいながらも楽しく研修をされていることと思います。皆さんの中には、臨床研修修了後、どのような分野・領域（科）を専門とするか、すでに決めている方もいれば、まだ迷っている方もいるかと思います。いずれの分野の専門医になるにしても、まずは専門研修を受けなければいけません。専門研修の場所は、将来のキャリアと専門知識の発展に大きな影響を与えます。まず考慮すべき点は、教育環境とその質です。専攻医として成長するためには、優れた指導医や施設が必要です。その場所が専門分野において評判が高く、充実した教育プログラムが提供されているかを確認してください。

関西医科大学附属病院は、19の基本領域専門研修プログラムについて、すべて承認を受けています。つまりどの基本領域の専門医になることもできます。卒後臨床研修センターHPでは、各診療科（講座）の特徴や魅力を紹介する動画コンテンツ「講座紹介ムービー」を配信しており、皆様の興味のある診療科の雰囲気や指導医の熱意に触れることができます。

専門研修では、指定された疾患の必要症例数を経験して、専門的知識・技能を身に付けることが求められています。当附属病院は、先進的で専門化された52の診療科と高度救命救急センター、総合周産期母子医療センター、ハートセンター、脳卒中センターなどの集学的治療・診断にあたる体制を整えています。また、地域がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院、アレルギー疾患拠点病院、難病診療拠点病院、災害拠点病院であり、一般疾患はもとより高難易度の症例を数多く経験することができます。

専攻医として研修する期間は、臨床研修にも増して医師としての大事な成長期です。本学では、臨床研修の先生方のみならず、専門研修中の先生方に対しても様々な支援をしています。「オール女性医師キャリアセンター」を設置して、すべての女性医師が安心してキャリアを継続できるよう環境整備に取り組んでいます。また、最先端の診療技術や診療体制を修得するために、国内外の医療施設に留学する「高度医療人育成（スーパードクター）制度」を当センター内に構築しており、ご自身の環境や成長に合わせた幅広い選択肢の中から、将来を決定することができます。研修先を迷っているあなた、圧倒的な診療実績と充実した指導体制があり、アフターケアも完備した関西医大で専門研修を行ってみてはいかがでしょうか？将来の成長とキャリアの発展にとって意義のある場所であることを保証いたします。

TOPICS 1

枚方キャンパス敷地内に、附属病院の別館を建設中

附属病院本館に隣接して、地上7階、地下1階建ての別館の新築を進めています。別館と本館とは1~4階を渡り廊下で接続。新規の病床や手術室、内視鏡室の整備、感染症対応病棟や画像診断装置の増設などの診療機能拡大により、患者さんの利便性を改善します。また、当直室や診療教授室などの医師の居室も整備して、就業環境向上を図ります。

TOPICS 2

スポーツ医学センター開設

2025年度、スポーツ障害や外傷の治療に特化したセンターが新設されました。整形外科を背景とした、スポーツ診療に卓越したスポーツ医と理学療法士、アスレティックトレーナーで構成されています。スポーツ愛好家からプロレベルの選手まで、競技やレベルを問わず、スポーツに関係する障害や外傷の治療を専門としています。手術療法のみならず、リハビリテーションを中心とした保存療法も理学療法士やアスレティックトレーナーと共に一元的に治療します。

TOPICS 3

「国際がん新薬開発センター」「新薬開発科」稼働

大学病院では国内初の「がん新薬開発に特化した」治験治療センター・診療科として開設されました。専任スタッフに加えて、複数の診療科から専門的スタッフが参画し、がん新薬を治験薬として世界で初めて当院で使用できる体制を構築。患者さんごとに適した新薬を迅速に臨床使用することを目指しています。2025年11月5日には、附属病院新薬開発科で、世界第一症例目となる患者さんへの治験薬の投与を行いました。

附属病院 Kansai Medical University Hospital

病院長
松田 公志

病院の理念

慈仁（めぐみ）を心の鏡とした、
安全であたたかい医療を提供します。

基本方針

1. 患者の意思を尊重し、個々の患者に最適な医療を行います。
2. 感染対策に注力し、安全な医療に最善をつくします。
3. 医療人の責任と自覚を持って、チーム医療を行います。
4. 地域の医療機関との連携を深め、地域社会に貢献します。
5. 先進的な医学研究にとりくみ、最新の医療を提供します。
6. 医育機関として人間性ゆたかな優れた医療人を育成します。

医療機関の認定・指定

特定機能病院
高度救命救急センター
地域がん診療連携拠点病院
総合周産期母子医療センター
地域災害拠点病院
大阪府アレルギー疾患医療拠点病院
大阪府難病診療連携拠点病院
がんゲノム医療連携病院
エイズ治療拠点病院
大阪府小児中核病院
小児がん連携病院
日本医療機能評価機構認定病院
大阪府外国人患者受入地域拠点医療機関
基幹型臨床研修病院
卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定病院
外国人患者受け入れ医療機関

施設概況 （令和8年4月1日）

病院長	松田 公志
副病院長	谷川 昇、長沼 誠、海堀 昌樹
開設年月日	平成18年1月1日
教員数	492人
職員数	1,522人
診療科	52診療科 血液腫瘍内科、呼吸器・感染症内科、リウマチ・膠原病科、循環器内科、腎臓内科、内分泌内科、糖尿病科、消化器内科、肝臓内科、呼吸器腫瘍内科、心療内科、総合診療科、脳神経内科、精神神経科、小児科、上部消化管外科、下部消化管外科、肝臓外科、胆膵外科、小児外科、乳腺外科、心臓血管外科、血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、脳血管外科、脳血管内治療科、小児脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、形成外科、皮膚科、腎泌尿器外科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、画像診断科、放射線治療科、核医学科、血管造影IVR科、産科、婦人科、婦人科内視鏡外科、麻酔科、救急医学科、病理診断科、スポーツ医学科、健康科学科、臨床腫瘍科、臨床検査医学科、新薬開発科、歯科・口腔外科
センター・診療支援部	28部門 臨床検査医学センター、総合周産期母子医療センター、高度救命救急センター、がんセンター、緩和ケアセンター、総合リハビリテーションセンター、スポーツ医学センター、健康科学センター、内視鏡センター、生殖医療センター、臨床遺伝センター、国際がん新薬開発センター、歯科・口腔外科・口腔ケアセンター、ハートセンター、脳卒中センター、小児医療センター、腎センター、アレルギーセンター、難病センター、痛みセンター、糖尿病センター、認知症予防センター、光免疫療法センター、ロボット手術推進センター、術中脳・脊髄・神経モニタリングセンター、医用工学部、治験管理部、医療倫理部
介護福祉部門	訪問看護ステーション、ケアプランセンター、デイケアセンター
病床数	797床
外来患者数	（1日平均）2,181人
入院患者数	（1日平均）786人
平均在院日数	10.2日
年間手術件数	13,093件

総合医療センター Kansai Medical University Medical Center

病院長
杉山　隆

病院の理念

慈仁（めぐみ）を心の鏡とした
患者さん本位の病院

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、患者さん中心の全人的医療を実践します。
2. 常に安全に配慮した医療環境のもとで、高い水準の医療を提供します。
3. 地域の基幹病院（地域医療支援病院、災害拠点病院）として、救急医療、急性期医療に取り組みます。
4. 地域の医療機関や介護施設と連携を深め、医療と介護の充実を図ります。
5. 人間性豊かな医療人を養成し、チーム医療を推進します。
6. 職員の働き方に配慮し、働きがいのある職場環境づくりを推進します。

医療機関の認定・指定

三次救急告示医療機関
大阪府災害拠点病院
大阪府肝疾患診療連携拠点病院
大阪府がん診療拠点病院
日本医療機能評価機構認定病院
大阪府外国人患者受入地域拠点医療機関
DPC特定病院群
地域医療支援病院
大阪府アレルギー疾患医療連携協力病院
基幹型臨床研修病院
卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定病院
大阪府難病医療協力病院

施設概況 （令和8年4月1日）

病院長	杉山　隆
副病院長	菅 俊光、成子 隆彦、福長 洋介、島谷 昌明
開設年月日	昭和7年4月9日
教員数	242人
職員数	1,052人
診療科	38診療科 血液腫瘍内科、リウマチ膠原病内科、呼吸器アレルギー内科、呼吸器腫瘍内科、総合診療科、循環器内科、腎臓内科、内分泌代謝内科、健康科学科、消化器肝臓内科、脳神経内科、精神神経科、小児科、上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆膵外科、乳腺外科、血管外科、心臓外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、リウマチ外科、形成外科、皮膚科、腎泌尿器外科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、歯科・口腔外科、放射線科、産婦人科、麻酔科、ペインクリニック・緩和医療科、臨床検査医学科、病理診断科、救急医学科、リハビリテーション科
センター	41部門 がん治療・緩和ケアセンター、ゲノム解析センター、救命救急センター、外傷センター、EMセンター、血栓止血センター、神経難病センター、精神疾患・身体合併症センター、認知症予防センター、こころと育ちの支援センター、糖尿病センター、プレストセンター、下肢救済センター、心臓血管病センター、不整脈治療センター、骨盤機能センター、胆膵疾患センター、脳卒中センター、脊椎神経センター、人工関節センター、手外科センター、褥瘡・創傷ケアセンター、スキンキャンサー治療センター、腹部ヘルニア・機能外科センター、結石治療センター、網膜硝子体センター、甲状腺外科センター、アレルギーセンター、リハビリテーションセンター、デイケアセンター、予防医療センター、化学療法センター、健康科学センター、透析センター、肝臓病センター、内視鏡センター、ロボット支援手術センター、臨床工学センター、治験管理センター、患者支援センター、臨床倫理・合意形成支援センター
介護福祉部門	訪問看護ステーション、ケアプランセンター、デイケアセンター
病床数	477床
外来患者数	（1日平均）1,156人
入院患者数	（1日平均）420人
平均在院日数	10.8日
年間手術件数	7,297件

香里病院 Kansai Medical University Kori Hospital

病院長
岡崎　和一

病院の理念

慈仁心鏡を礎に
地域とともに歩む病院

基本方針

1. 地域医療機関と本学関連病院との連携を生かし、地域住民に寄与する病院を目指します。
2. 患者さんを中心とした、あたたかく思いやりのある病院を目指します。
3. 感染対策、医療安全に注力し、安全で安心な医療を提供します。
4. 職員が働きやすく、働き甲斐のもてる職場とします。
5. 環境にやさしい施設を目指します。
6. 全人的医療のできる医療人の育成を目指します。

施設概況 （令和8年4月1日）

病院長	岡崎 和一
副病院長	石丸 裕康、吉田 良、上田 祐輔
開設年月日	平成22年6月1日
教員数	62人
職員数	414人
診療科	18診療科 総合診療科、内科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、皮膚科、腎泌尿器外科、眼科、耳鼻咽喉科、婦人科、形成外科、リハビリテーション科、麻酔科、放射線科、病理診断科、歯科、歯科口腔外科
センター	10部門 腎臓病センター、乳腺センター、骨粗鬆症センター、医用工学センター、アレルギーセンター、化学療法センター、糖尿病センター、予防医療センター、内視鏡センター、ERセンター
介護福祉部門	訪問看護ステーション、ケアプランセンター、デイケアセンター
病床数	199床
外来患者数	（1日平均）654人
入院患者数	（1日平均）166人
平均在院日数	10.8日
年間手術件数	2,719件

くずは病院 Kansai Medical University Kuzuha Hospital

病院長
髙山　康夫

病院の理念

慈仁心鏡慈仁（めぐみ）を
心の鏡とした、安全で安心な医療・
介護を提供します。

基本方針

1. 地域の医療機関、介護施設と連携し、最良で最善の医療・介護を提供します。
2. 患者さん中心の、温かく、思いやりのある医療・介護を提供します。
3. 住み慣れた街、住み慣れた家へ一日でも早く帰れる医療・介護を提供します。
4. 多職種の職員が一丸となって働き甲斐のある職場にします。
5. 常に新しい技術に挑戦し、質の高い医療人の育成を行います。

施設概況 （令和8年4月1日）

病院長	髙山 康夫
副病院長	角田 智彦、岩田 聡子
開設年月日	平成30年1月1日
教員数	13人
職員数	223人
診療科	11診療科 内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科
センター	1部門 リハビリテーションセンター
介護福祉部門	デイケアセンター、ケアプランセンター、訪問看護ステーション、訪問リハビリテーションセンター
病床数	94床
外来患者数	（1日平均）190人
入院患者数	（1日平均）87人
平均在院日数	【地域包括医療】10.7日 【回復期リハ】42.2日
年間手術件数	933件

枚方キャンパス Hirakata Campus

枚方キャンパスの3階に附属病院とスカイウェイでつながるメインストリートがあり、病院に近いこのフロアにはシミュレーションセンター（P.12）、図書館、歴史資料室、学生食堂等が配備されています。

「グリーン＆エコ」のコンセプトで建てられた枚方キャンパスは、隣接する附属病院との調和を保っています。

キャンパス敷地面積は25,000㎡で、延べ床面積42,000㎡、建屋は3階建て（一部4階）の南棟、8階建ての北棟、13階建ての中央棟からなり、三棟が中庭を取り囲む「コの字」状に配置されています。また、南棟と北棟は空中回廊で結ばれ、動線にも配慮。隣接の附属病院とはスカイウェイで連結しています。正面玄関前にはオベリスクがそびえ立ち、敷地内には学園の森やテニスコート、屋外活動用多目的スペースが確保されています。さらに、カフェテリアと北棟3階図書館横の2カ所には屋上庭園があり、北棟屋上にはソーラーパネルが設置されています。

1階正面玄関を入ると吹き抜けのエントランスホールが広がります。地下1階から1階に続く300人収容の加多乃講堂（体育館兼用）、1階には試験・実習室、1学年の講義室などが配置されています。2階には2~4学年の講義室、教養系教室の居室・研究室、セミナー室、3階には附属病院と接続するスカイウェイ、学生食堂（280席）、シミュレーションセンター、図書館、学生セミナー室などがあります。基礎社会講座、臨床講座の居室と研究室は5階以上に設けられています。共同研究を推進する臨床系綜合研究施設も設置しました。共同利用研究施設は北棟の5・6階に設置しています。また、令和4年4月には北棟4階に光免疫医学研究所を開設しました。さらに同年6月には、附属病院を受診される患者さんや付き添いのご家族のための宿泊施設や、留学生のための居室を備える関医タワーが枚方キャンパス敷地内にオープンしました。

図書館

最新の医学関連書籍・雑誌はもちろん一般教養書、基礎医学、社会医学、臨床医学に関連した図書・雑誌を所蔵しています。また、データベース、オンラインジャーナル、オンラインテキストブックなどの様々な電子資料を整備し、大学の教育、研究、診療基盤を支える大きな役割を担っています。

歴史資料室

枚方キャンパスの3階にある歴史資料室。98年に及ぶ本学の歴史と伝統を節目ごとに区分し、その時代の貴重な資料を展示しています。大阪女子高等医学専門学校から始まる本学の永い歴史に触れることの出来る空間です。

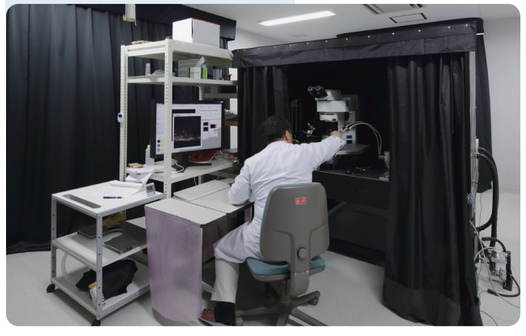
食堂

テーブル席や窓際のカウンター席を設ける食堂は、最大280名が収容可能という広さで、栄養バランスの良い日替り定食のほか、麺類やカレーといった定番メニューを取り揃えています。三方に窓が配置され、明るい陽光が差し込む空間でゆったりと休憩時間を楽しむことができます。

カフェテリア

食堂と階段でつながる4階のカフェテリアは、高さのあるガラス面が印象的な空間。休憩用のいすやテーブルが配置されており、ゆったりと休憩時間を楽しむことができます。休憩スペースの奥には、淀川に臨む屋上庭園が広がっています。

綜合研究施設



汎用から最新まで幅広い機器を備えた共同実験施設。共焦点顕微鏡や電子顕微鏡を含む各種イメージング機器、フローサイトメトリー系機器、オートシークエンサー、質量分析器、プレートリーダー、次世代シークエンサー、3Dプリンター、P3実験室などを保有。9名のスタッフが配置されています。

光免疫医学研究所

最新のがん根治療法「光免疫療法」を研究する国内初の研究所で、所長には同療法の生みの親である小林久隆特別教授（米国NIH国立衛生研究所主任研究員）が就任。光免疫療法に関する基礎研究と臨床治療のサポートを行います。

シミュレーションセンター（KMUSC）

KMUSCは知識・技能・態度の秀でた医療人の育成のため、
基本から専門分野まで、テクニカルからノンテクニカルまで、幅広く学習できる環境を整備しています。
令和7年度からオンラインでどこからでも予約が可能となりました。

POINT 1 365日24時間 いつでも利用可能！

POINT 2 充実の保有機器で 多彩な体験学習を実現！

POINT 3 学部学生や学内外の 医療従事者まで幅広く利用可能！

POINT 4 345㎡の余裕あるスペース 模擬病室も完備！

内視鏡ゾーン

内視鏡手術支援ロボットや上下部消化管内視鏡、胸腔鏡、腹腔鏡など実臨床と同じ各種内視鏡（尿管鏡、関節鏡）を設置。

Lap Mentor

腹腔鏡

Robotix Mentor

分娩ゾーン

周産期医療の学習が可能。

血管治療ゾーン

バーチャルで血管インターベンションができるVISTを設置。

血管インターベンション

肝臓血管内治療

模擬病室

4床のベッドとメディカルコンソールを設置し、病室内を再現。

急変対応シミュレーション

大部屋ゾーン

身体診察、CVC、ルンバールなど、診断・治療・処置の様々なタスクトレーニング、集合研修や個人学習など目的に合わせて活用。

セミナー

院内BLS講習会

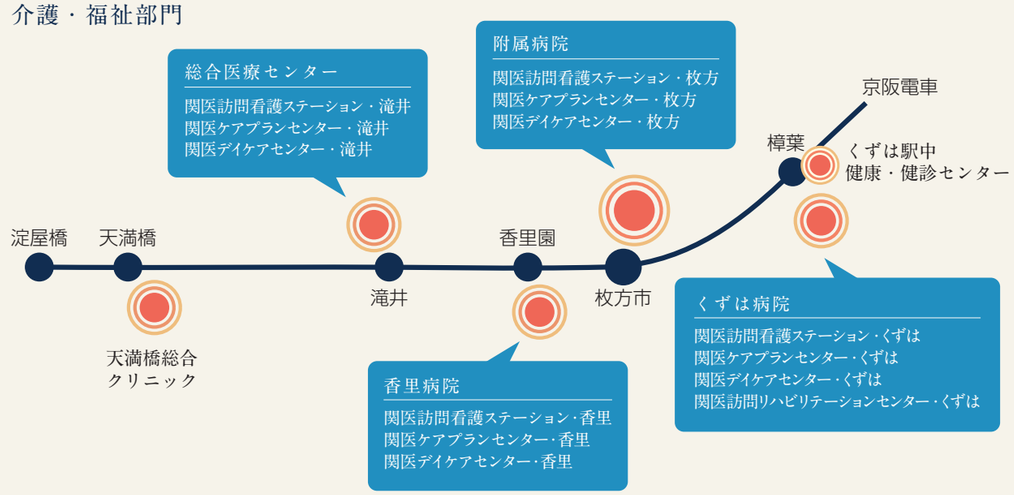
CVC勉強会

介護福祉部門

急性期～回復期～慢性期～生活期に至るまで、
大阪府北河内二次医療圏をシームレスに支える医療サービス群

超高齢社会への対応、地域包括ケアシステムの整備、学生の実践教育の場の形成まで、様々な使命を果たすべく本学は介護・福祉部門の強化を図ってきました。本学附属4病院全てに整備した訪問看護ステーション、ケアプランセンター、デイケアセンターを機能的に連携させることで大阪府北河内二次医療圏、そして京阪沿線の急性期医療から生活期に至るまで、診療科、職種、病院の垣根を超え、地域の方々の健康とくらしをシームレスに支えます。

関西医科大学附属医療機関
介護・福祉部門



〔関医訪問看護ステーション〕

住み慣れた地域や自宅で安心して療養生活を送っていただけるよう、看護師、療法士（理学・作業・言語）が自宅を訪問し、大学病院クオリティの看護やリハビリテーションを提供し、退院後の在宅療養を支援しています。

〔関医訪問リハビリテーションセンター〕

理学療法士や作業療法士、または言語聴覚士が自宅を訪問し、普段の生活の場において運動療法や環境調整、介助方法の助言を行っています。

〔関医ケアプランセンター〕

ケアマネージャーが要介護者の生活習慣や環境に適したケアプランを作成し、訪問看護ステーションと情報共有・連携をしながら支援をします。

〔関医デイケアセンター〕

全国的に珍しい大学病院が運営するリハビリ特化型施設で、リハビリテーション医学講座における最新の医学研究や知見、附属病院・総合医療センターでのリハビリ医療データを積極的にフィードバックするほか、作業療法士、理学療法士が密接に連携し、要支援者・要介護者の方を対象にリハビリを提供しています。

がん診療連携拠点病院としての取り組み：附属病院

がんセンタースタッフについて

センター長	倉田宝保（呼吸器腫瘍内科 教授）	教育部門長	村川知弘（呼吸器外科 教授）
センター教授	金井雅史（がんセンター センター教授）	研究部門長	海堀昌樹（肝臓外科 教授）
副センター長	中村聡明（放射線治療科 診療教授）	看護部門	坂口ひとみ（摂食嚥下障害看護認定看護師）
診断部門長	内田克典（病理診断科 診療教授）		坂口恵子（がん薬物療法看護認定看護師）
治療部門長	金井雅史（がんセンター センター教授）		
がんゲノム医療部門長	金井雅史（がんセンター センター教授）		
診療支援部門長	高田正泰（乳腺外科 教授）		

北河内二次医療圏における がん診療連携拠点病院

当院は平成22年に厚生労働省から「がん診療連携拠点病院」に指定されました。

「がん診療連携拠点病院」とは、がん診療に関する地域の拠点病院のことで、専門的ながん医療の提供、地域のがん診療の連携協力体制の構築、がん患者に対する相談支援及び情報提供等を行っています。国は、全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、全国にがん診療連携拠点病院などを指定しています。

都道府県がん診療連携拠点病院	51病院
地域がん診療連携拠点病院	340病院
地域がん診療連携拠点病院（特例型）	12病院
特定領域がん診療連携拠点病院	1病院
がん診療拠点病院（大阪府指定）	46病院

（令和7年11月現在）

小児・AYA世代の患者についても、全人的な質の高いがん医療及び支援を受けることができるよう、全国に小児がん拠点病院を15箇所、小児がん中央機関を2箇所指定しています（令和5年4月1日現在）。当院においても、令和4年8月にAYA世代支援チームを立上げ、積極的に小児・AYA世代への支援に取り組んでいます。

がんゲノム医療の推進

さらに、ゲノム医療を必要とするがん患者が、全国どこにいても、がんゲノム医療を受けられる体制を構築するため、全国にがんゲノム医療中核拠点病院などを指定しており、当院は、エキスパートパネル実施可能がんゲノム医療連携病院の指定を受けており、他院よりゲノム医療を希望される方を受け入れる体制も構築されております。

当院は、北河内二次医療圏における基幹病院として、専門的ながん医療の提供のみならず高度先進医療に取り組み、がん患者の予後向上に全力で取り組んでいます。

化学療法センターの現状

平成18年1月に開設。各科当番医師のもと化学療法が行われ、看護師13名、薬剤師3名が勤務。落ち着いた環境で安全に治療が受けられるようにスタッフ一同心掛けています。ベッド12床、リクライニングチェア25床があり、患者さんが安心して治療を受けられるよう、医師、看護師、薬剤師が治療や日々の生活に対する疑問や不安にお答えしています。化学療法のレジメンについては薬物療法委員会で審査し、エビデンスレベルの高いものを承認し、質の高い治療を実施しています。診察室は8室あり、化学療法前診察用に6室、緩和ケア外来用に2室の割り当てとなっています。特色の一つとして、すぐに隣の緩和ケア外来を受診することが可能な環境となっています。

これまで入院して行わなくてはならなかった抗がん剤治療の多くが、治療や副作用への対処法の進歩により外来通院で行えるようになりました。外来で通院しながら治療を行うことにより、患者さんの生活のベースに合わせて治療を行うことができます。外来化学療法患者は1,750件/月に達しています。

また、緊急時には外来診察室に専従医師（薬物療法専門医）が常駐しており対応がすぐに行えること、大学病院の特性を生かし、すべての診療科があることから多様化するがん治療の副作用対策も可能となっており、入院管理もすぐに行える環境となっています。また、病棟と当センターとの垣根もなく、医療スタッフによるオリエンテーションを行うことにより、スムーズに入院治療から外来治療への移行もできます。新薬を扱う治験も積極的に導入しており、国立がん研究センターや、国内外の臨床研究グループと連携し、多数の臨床試験に参加しています。

北河内がん診療 ネットワーク協議会の設立

北河内二次医療圏には1つの「地域がん診療連携拠点病院」と4つの「大阪府がん診療拠点病院」があり、これに6医師会、4保健所、そして7市のがん検診担当課を加え、ホスピス、在宅診療所、訪問看護ステーションで構成される「北河内がん診療ネットワーク協議会」を設置しています。

目的は、それぞれの役割分担を明確にして、地域のがん患者の包括支援システムの構築とがん診療連携体制の強化及びがん医療水準の向上を図ることで、現状の課題について鋭意検討を重ねています。

緩和ケアセンター

緩和ケアセンタースタッフ

センター長	蓮尾英明（心療内科 教授）	薬剤部門	打谷和記（専任薬剤師）
緩和医療担当	富山尚（消化器肝臓内科 病院准教授）		藤井良平（専任薬剤師）
	仲井えり（循環器内科 助教）	看護部門	佐久間博子（がん看護専門看護師）
	佃万里（精神神経科 助教）		小西知子（がん看護専門看護師）
	岡本敬司（心療内科 診療講師）		北田絵美（専任看護師）
	島津真理子（心療内科 助教）	心理士	後藤あかり（公認心理師、臨床心理士）
	和田秀之（心療内科 病院助教）	医療ソーシャルワーカー	牧田崇史（社会福祉士）

がん診断時から終末期までの 緩和ケアと非がんの緩和ケア

当院は、国の指定を受けたがん診療連携拠点病院としてこれまで10年以上活動してきた緩和ケアチームをベースとして、2019年に緩和ケアセンターを設立致しました。センター化によって専従の看護師の増員とともに、公認心理師といった他職種との連携が充実したことから、これまでのがん領域の緩和ケア（診断時から終末期まで）に専門外来（超音波下ブロック治療外来、精神腫瘍外来、リンパ浮腫外来、家族・遺族ケア外来）を加え、さらには非がんの慢性疼痛、慢性心不全、摂食障害などの非がん領域の緩和ケアも提供しています。また、緊急時の緩和ケアセンター病床も有しています。

リンパ浮腫に対する集学的理学療法

緩和ケアセンターの現状

当院緩和ケアチームは、主科の医師・看護師が対応に難渋した場合に依頼を受け、患者・家族・プライマリーチームと協働して問題解決を図っています。実践内容は、身体・精神症状の調整、支持療法、意思決定支援、カウンセリング、家族・遺族ケア、スタッフサポート、地域連携など多岐にわたります。年間新規依頼数は平均916件（がん拠点病院平均209件）と、直接介入型の緩和ケアチームとしては全国屈指の活動を誇っています。がんセンターやがん診療科とはもちろん、循環器科（慢性心不全ケア）、小児科・婦人科（AYA世代支援チーム）、心療内科（慢性疼痛ケア・摂食障害ケア）との連携も強化しています。

関連病院

●国立病院機構近畿中央呼吸器センター 心療内科・緩和ケア科 ●堺市立総合医療センター 心療内科・緩和ケアチーム ●脳神経リハビリ北大路病院 心療内科・緩和ケア科 ●神戸赤十字病院 心療内科・緩和ケアチーム ●三菱神戸病院 内科・心療内科・緩和ケア科 ●奈良県立医科大学附属病院 緩和ケアセンター ●日本赤十字社和歌山医療センター 心療内科・緩和ケアチームなど（連携病院：国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科）

令和9年度専門研修プログラム募集要項

本学では臨床研修修了者が各専門領域における高度な診療能力と学術水準を習得するための専門研修プログラムを有しています。つきましては、以下の要領で募集します。

1 応募資格

- 令和8年3月末までに臨床研修を修了した方
- 令和9年3月末に臨床研修を修了予定の方

2 募集人員

研修領域により異なります

3 研修科目

19領域

- 内科専門研修プログラム
  （1内科、2内科、3内科、呼吸器腫瘍内科、心療内科、脳神経内科）
- 精神神経科専門研修プログラム（総合医療センター）
- 小児科専門研修プログラム
- 外科専門研修プログラム
  （上部消化管外科、下部消化管外科、肝臓外科、胆膵外科、小児外科、乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科）
- 脳神経外科専門研修プログラム
- 整形外科専門研修プログラム
- リハビリテーション科専門研修プログラム
- 形成外科専門研修プログラム
- 皮膚科専門研修プログラム（附属病院、総合医療センター）
- 泌尿器科専門研修プログラム
- 眼科専門研修プログラム
- 耳鼻咽喉科・頭頸部外科専門研修プログラム
- 放射線科専門研修プログラム
- 産婦人科専門研修プログラム
- 麻酔科専門研修プログラム
- 救急医学科専門研修プログラム
- 臨床検査医学科専門研修プログラム
- 病理専門研修プログラム
- 総合診療専門研修プログラム（香里病院）

4 応募締め切り

日本専門医機構の専攻医採用スケジュールに準ずる

5 試験・面接

領域ごとに行います

6 提出書類

（1）以下の書類を卒後臨床研修センターへ提出してください。

- 専門研修プログラム申込書（所定）
- 履歴書（所定）　写真（横30㎜×縦40㎜）の裏に氏名を明記の上、1枚貼付してください。
- 医師免許証の写し（本学研修医は不要）A4サイズ
- 臨床研修修了登録証の写し又は修了見込み証明書（本学研修医は不要）

（2）一度受理した応募書類は、いかなる理由があっても返却いたしません。
また、応募書類上の個人情報は、当センターの事業以外の目的には一切使用いたしません。

7 採用通知

採用決定後、決定通知書を送付します

処遇

（1）身　　分	正職員
（2）給　　与	平均月給支給額 520,000円　＊超過勤務時間及び日宿直回数により異なります。
（3）専攻医勤務手当	学外兼務をせずに本学附属の病院で研修に専念する人には、毎月10万円、学外兼務をする人にも毎月5万円を支給します。
（4）基準内手当	通勤手当、住宅手当
（5）基準外手当	超過勤務手当、日宿直手当、救命救急手当、待機手当等
（6）賞　　与	年2回（基本給の1カ月分×2回）
（7）平均年収	約670万円（超過勤務時間及び日宿直回数により異なります。）
（8）保険制度	日本私立学校振興・共済事業団（年金・健康保険）、労災保険、雇用保険
（9）宿　　舎	なし
（10）期　　間	専門研修プログラムにより異なる。およそ3年間

問い合わせ先

プログラム内容等につきましては、それぞれのプログラムにお問い合わせください。

〒573−1191
大阪府枚方市新町2−3−1
関西医科大学
卒後臨床研修センター

TEL　072−804−2847（直通）
FAX　072−804−2952
E-mail　sotugori@kmu.ac.jp

Instagram配信中!

各講座の紹介動画もYouTube上でご覧いただけます

Instagram

Introduction Video

専門研修支援システム

1 専門研修の年度ごと目標設定と大学としての評価体制

専門研修は専門医を目指して研修が行われます。そこでは、一定年数の間に経験すべき症例、習得すべき知識と技術が細かく設定されています。

本学ではさらに、すべてのプログラムにおいて、専門研修の年度ごとの具体的目標が設定されており、その目標が達成できるように各診療科で研修計画が策定されます。

本学には、個々の専攻医の研修進捗状況を把握、評価の上、問題があれば改善を勧告する専門研修支援システムがあります。

すなわち、研修を段階的にスムーズに進捗させるために、大学として万全の専門研修支援体制を整えています。

2 専攻医サポート体制

専門研修の中で、時に、研修が困難な状況や人間関係の悩みなどを感じることもあるかもしれません。それらの多くは、診療科の指導医や、部長、科長と相談することで解決できると思いますが、すべての専攻医が順調に研修を受け、専門医資格を取得できるように、本学は大学としてサポートチームを整えています。万一、所属の診療科で解決が難しい問題があればご相談ください。以下のサポートチームが相談に乗り、適切に対応します。

関西医科大学
専門研修支援システム

- 各診療科での研修進捗状況の把握と評価・勧告
- 専門研修支援チーム：個別に相談できる体制

支援
評価

各診療科

専門研修プログラム

本学の各科が定める
年度ごとの研修目標と計画

※本学での臨床研修を修了した専攻医も対象です。専門研修を行う中でお困りのことがあればskcteam@kmu.ac.jpまでご相談ください。

3 専門研修支援チーム

専門研修支援チーム
チーフリーダー
放射線科 教授
谷川 昇

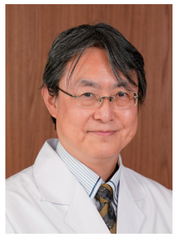
専門研修に専念できる環境を提供します。

関西医科大学には充実した専門研修を行えるように専攻医をサポートする専門研修支援チームがあります。わたくしたち専門研修支援チームのメンバーは皆様が充実した研修を行い専門医になれるようにお手伝いするとともに、専攻医の抱えるさまざまな悩み、諸問題を解決するため誠心誠意サポートします。

専門研修支援チーム
サブリーダー　副学長
小児科 教授
金子 一成

ときには親のように、ときには先輩のように、専門医への道のりをサポートします。

専門研修支援チームは、厳しい専門研修（専攻医研修）を受けるあなたたちを温かく見守る「親」のような存在であり、時には、あなたたちの相談相手となって優しくアドバイスする部活の「先輩」のような存在でもあります。是非、私たちとともに専門医への階段を昇っていきましょう！



第一内科
教授
伊藤 量基

本学では、専攻医の方々一人ひとりの専門研修を、大学全体でサポートする仕組みを整えております。専門研修支援チームは10年にわたり存在し、その期間中、皆さんが安心して専門研修を続けられるよう、環境の向上に力を注いでまいりました。近年においては、若い世代であり皆さんと年齢の近い医師たちが協力し合うチームも形成され、支援体制が一段と強化されております。本学は全国的にも豊富な臨床症例を有し、その中で専門医の取得に向けての経験を積むことができます。ぜひとも皆さんには本学での専門医取得を目指していただきたいと願っております。

第三内科
教授
長沼 誠

専門研修支援チームは、外科、内科をはじめ各領域のスペシャリストによるチームです。皆さんの思い描くキャリアを実現することができるよう、精一杯サポートいたしますので、専門研修を進める上でお困りのことがあれば、ぜひ私たちのチームを頼ってください。関西医科大学の専門研修プログラムは先進的な診療と地域医療を学べるバランスのよい大学です。本学でぜひ一緒に仕事をしましょう。まずは、お気軽にご連絡ください。

病理診断科
学長特命教授
植村 芳子

本学では「オール女性医師キャリアセンター」を設置して、多様化する女性医師の働き方に対してワーク・ライフ・バランスの推進や離職後の復帰支援など、全ての女性医師がキャリアを継続していける環境整備に取り組んでいます。医療人としての将来展望を胸に、この専門研修期間が充実したものとなるよう、専門研修支援チームの一員として皆さんを応援しています。

肝臓外科
教授
海堀 昌樹

専門医の取得、大学院への進学、豊富な症例数など、関西医科大学では医師として広い視野を持つことができる環境が整っています。関西医科大学での専門研修は医師としての専門領域だけではなく、大学病院として診療に必要不可欠な研究も含めたより長期に渡るキャリア形成をサポートし、医療の様々な分野において活躍できるすぐれた人材の育成を目指しています。

オール女性医師キャリアセンターのご案内

オール女性医師キャリアセンターは女性医師の就業を応援しています。

近年の女性医師比率の高まりや、女性医師に求められる役割の広がりを受け、本学では令和2年4月にオール女性医師キャリアセンターを設置しました。女性医師が安心してキャリアを継続できる環境を整備することが、将来的に男女を問わず全ての医師の環境整備に繋がると考え、多方面に取り組みを実践しています。

オール女性医師
キャリアセンター

＊CCFDとは Career Center for Female Doctorsの略です。

センター長挨拶

オール女性医師キャリアセンターでは、全ての女性医師が様々なライフイベントを迎えながら、本学で安心して働き、医師としてのキャリアを継続していくことができるよう、様々な取り組みを進めています。最近では、他大学とも情報交換をしながら、皆さんにとってより良い制度構築、環境整備ができるよう活動の幅を広げ、広報活動にも力を入れています。皆さんが、自身のキャリアパスやライフワークバランスに悩んだとき、是非、センターを思い出してください。センターは、皆さんを応援しています。

オール女性医師キャリアセンター長　植村 芳子

センターについて

医　師

要望・相談 ↓　↑ 支援

オール女性医師キャリアセンター 主な活動

- **キャリアアップ支援**
  - ●研究支援
  - ●卒前・卒後教育の充実
  - ●ネットワーク形成
- **相談窓口**
  - ●キャリアサポート
  - ●キャリア形成
  - ●ハラスメント対策など
- **職場環境の充実**
  - ●保育所・病児保育などの充実
  - ●施設・設備の充実
- **復職支援**
  - ●女性医師復帰支援プログラム
- **啓発活動**
  - ●講演会、交流会などの開催
  - ●ニュースレターの発行

意見・サポート ←

オール女性医師キャリアセンター運営委員会

連携 ↕　連携 ↕

診療科　／　法人内関係部署

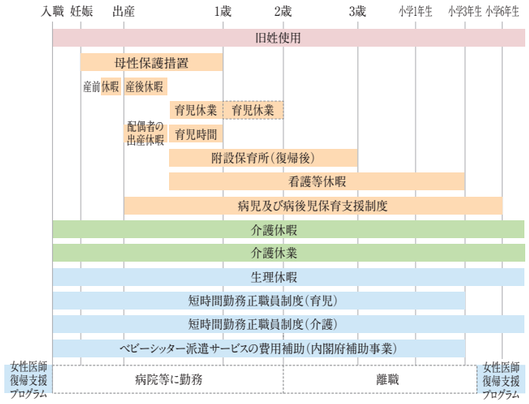
センターは教職員数名が兼務しているほか、各診療科内に女性医師キャリア形成支援担当者（医師）を配置し、各診療科での取り組みやセンターの活動内容を共有しています。

学内各種支援制度

1 短時間勤務正職員制度

育児又は介護を行う教員（医師及び研究者）について臨床・研究業務の継続ができるよう制定された制度です。1日の就業時間を短縮する一般的な育児・介護短時間勤務制度とは異なり、より柔軟な働き方ができます。

- 週当たりの勤務日は2日以上6日未満の範囲内で選択可能
- 半日勤務や6時間就業で始終業時間を個別設定することが可能
- 就業時間を4時間以上7時間15分の範囲で設定可能



（本学での勤務年数などにより、利用できる制度が異なりますので、詳細は担当部門までお問い合わせください。）

2 出産・育児について

- 産前・産後休暇：産前6週間（多胎妊娠の場合は14週間）、産後8週間
- 育児休業（無給）：原則として子が1歳になるまで
- 配偶者の出産休暇：特別休暇を2日取得可（正職員に限る）

3 附設保育所（附属病院では病児保育室を開室しています。）

	附属病院＊1	総合医療センター
定員	30名	20名
保育年齢	生後57日目~2歳児	生後57日目~未就学児
定時保育（臨時保育あり）	平日　7:30~18:00　　第1・3・5土曜日　7:30~13:30（18:00＊2）	平日　7:30~18:00　　土曜日　7:30~18:00
保育料	月額27,500円（税込）	月額27,500円（税込）
備考	延長保育あり　夜間保育あり	延長保育あり　夜間保育あり

（＊1香里病院勤務者は、附属病院附設保育所に預けることができます。＊2病棟勤務者等）

4 ベビーシッター派遣サービス費用補助（内閣府補助事業）

ベビーシッター派遣事業割引券（1枚当たり2,200円）を発行し利用料金の一部を補助します（本学独自に利用上限を設ける場合があります）。

5 病児及び病後児保育支援制度

地域の病児保育施設、ベビーシッターなどの病児保育により保育事業者などに支払った保育料金のうち、子ども1人につき、1回あたり1万円を上限に実費を補助します。

6 女性医師専用当直室の充実（附属病院のみ）

附属病院3階の女性医師専用当直室の運用を当センターが担っています。事前予約サイトをホームページに掲載し、利便性、快適性の向上に努めています。

7 女性医師復帰支援プログラム

出産や育児、介護などにより一旦離職した女性医師の復職に向けて、臨床現場に復帰し易いように、各講座で復帰支援プログラムを作成しています。検査や治療の手技、外来や病棟診療における種々の業務内容について、独立して就業できるまでのおおよその研修期間を設けています。プログラムの内容は個人のキャリアやブランク期間によって柔軟に対応いたします。

キャリア形成支援制度の詳細や、先輩女性医師の応援メッセージはホームページでご覧いただけます。

キャリア形成に役立つ情報が満載です。ぜひ一度開いてみてください。

関西医科大学 オール女性医師キャリアセンター

関西医科大学におけるキャリア形成

高度医療人育成制度

目指せ!スーパードクター!
世界に通用する技術を持った医師を育成します

目的

国内外の医療施設に留学することにより、最先端の診療技術や、診療体制を習得し、世界で通用する医師を育成するとともに、本学の診療レベル向上を目的とする。

留学期間

- 原則として、出発日より1年以内とする。
- 期間延長を希望する場合には別途申請のうえ、審議されることとなるが、出発日より起算して2年を超えることはできない。

条件

- 本学の臨床系講座・診療科に所属する専任教員（助教以上）のうち、専門医を取得している者とする。
- 本学に復帰後、5年以上勤務し、習得した診療技術・診療体制により、本学の診療レベルの向上に寄与しなければならない。

審査

- 書類審査　履歴・業績、応募までに習得している診療技術。本学への貢献度。
- 面接審査　優れた人間性を有し、将来を期待できると判断される者。

待遇

- 留学期間中の基本給、家族手当及び住宅手当が支給される。
- 上記に加えて、海外の施設に留学する場合、50万円の旅費が支給される。
- 留学後は、留学前と同等の身分で本学に復帰できる。

実績

年度	診療科名	職位	留学期間	臨床留学先・施設名称
令和元年度	神経内科	講師	令和元年4月1日～令和2年3月31日	アメリカ・ロサンゼルス Ronald Reagan UCLA Medical Center
	外科	助教	令和元年4月1日～令和3年9月30日	ドイツ・アーヘン University Hospital RWHT Aahen
令和４年度	麻酔科	助教	令和４年４月１日～令和5年２月28日	カナダ・トロント Tronto Western Hospital, Women's College Hospital
	精神神経科	助教	令和４年４月４日～令和6年２月29日	オーストラリア・シドニー New South Wales University Black Dog Institute, Ramsay Northside Clinic,　St. George Hospital
令和５年度	産婦人科	診療講師	令和５年４月１日～令和6年３月31日	日本公益財団法人がん研究会
	耳鼻咽喉科	講師	令和５年８月１日～令和5年11月30日	アメリカ・スタンフォード Stanford　Medicine
令和６年度	麻酔科	助教	令和６年５月７日～令和8年３月31日	オーストラリア・ビクトリア The Florey Institute of Neuroscience and Mental Health, The University of Melbourne
	救急医学科	助教	令和６年12月３日～令和7年２月28日	アメリカ・オレゴン Oregon Health & Science University Hospital
	第三内科	助教	令和６年５月21日～令和8年５月20日	アメリカ・カリフォルニア University of California San Diego
令和７年度	整形外科	講師	令和７年９月19日～令和8年８月11日	アメリカ・カリフォルニア University of California San Francisco
令和８年度	皮膚科	講師	令和８年４月21日～令和8年11月30日	ドイツ・ベルリン Charité -Universitätsmedizin Berlin
	第三内科	助教	令和８年６月１日～令和９年５月31日	アメリカ・カリフォルニア University of California San Diego

高度医療人育成制度については、ホームページをご覧ください。

大学院医学研究科進学

大学院医学研究科からのお知らせ

博士課程で学位を取得して さらなるキャリアアップを目指しましょう!

- 大学院進学のタイミングは臨床研修修了後や専門研修修了後など自由に選べます。
- 「専門医」と「博士号」も両立できるキャリアパスを用意しています。

研究が初めてでも大丈夫…

医学研究科では、研究が初めての方でも基本的な知識から学べるカリキュラムを用意しています。また、最先端の機器を備えた綜合研究施設や実験動物飼育共同施設を有している他、臨床研究支援センターも設置しており、基礎研究だけでなく臨床研究も進めやすい環境が整っています。

診療に従事しながら大学院生に…

学内外を問わず、病院等に勤務する臨床医や開業医の皆さんは、社会人学生として在籍することで、働きながら大学院で学ぶことができます。修業年限は、4年制の通常コースと5年制の長期履修コースを自由に選択することが可能です。一部の講義はオンラインでも受講でき、業務多忙な方でも計画的に履修が可能です。

修業年限内に学位を取得するために…

修業年限内（通常コースは4年、長期履修コースは5年）の学位取得を支援するために、「プレ研究中間発表」、「研究中間発表」を学年の進行に応じて実施しています。また、毎年度末に研究活動の進捗状況を指導教員と大学院で共有しており、大学院全体で、研究活動の推進と修業年限内の学位取得を支援しています。

なお、一定の条件を満たすと授業料が免除となる制度があります（研修医も授業料免除の申請対象となります）。

大学院入学試験の概要は、ホームページをご覧ください。

関西医科大学内科専門研修プログラム

「関西医科大学内科専門研修プログラム」は基幹施設として附属病院（大阪府枚方市）、連携施設として他の2つの附属病院〔総合医療センター（大阪府守口市）、香里病院（大阪府寝屋川市）〕を含めた29病院、合計30の病院により構成される内科専門研修プログラムです。3年間で内科専門医としての基本的かつ総合的な臨床能力獲得はもちろんのこと、地域医療に関する研修や、内科各領域のSubspecialty研修など多様な研修により内科専門医の育成をおこないます。内科専門医取得に必要な症例数が以前（内科認定医取得に必要な症例数）より少し多いですが、それ以外にはこれまでの制度（内科認定医を取得し、さらにSubspecialtyの専門医を取得する）と大きな違いはありません。専門研修期間中にSubspecialtyの専門研修が可能ですので、Subspecialty専門医取得までの最短年数も従来と同じです。原則いずれかの講座に入局して研修を受けていただくことになりますが、研修プログラムの具体的な内容については個人の希望や状況に応じて対応いたします。

1 専門研修の目標

「関西医科大学内科専門研修プログラム」での専門研修の目標は、指導医の適切な指導の下で、カリキュラムに定めた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能を修得することです。

2 専門研修修了後に得られる資格

あらかじめ定められた数の症例を経験し、病歴要約を提出することにより、内科専門医の受験資格が得られます。

3 専門研修プログラム概要

基幹施設（附属病院）で1~2年、連携施設で1~2年、合計3年間の研修をおこない、あらかじめ必要と定められた症例数を経験します。附属病院では、第一内科（血液腫瘍、呼吸器・感染症、リウマチ・膠原病）、第二内科（循環器、腎臓、内分泌代謝）、第三内科（消化器）、呼吸器腫瘍内科、心療内科、神経内科から適宜選択して研修をおこないます。

4 専門研修プログラムでの関連病院の数と症例数

基幹施設（附属病院）における内科11分野と救急をあわせた症例数と疾患群充足度を以下に示します。疾患群充足度は62/70で、内分泌・アレルギー・感染症がやや少なめですが、外来診療患者を含めれば十分な症例数を経験することが可能であり、連携施設での研修もあわせて修了に必要な56疾患群160症例を問題なく経験できるものと思います。

	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
入院症例数	928	1028	28	172	177	501	252	200	10	56	3	168
疾患群充足度	9/9	9/10	4/4	5/5	6/7	5/8	3/3	8/9	2/2	2/2	2/4	4/4

基幹施設（附属病院）および連携施設29病院を以下に示します。

【基幹施設】

病院名	病床数	指導医数
附属病院	797	57

【連携施設】

	病院名	病床数	指導医数		病院名	病床数	指導医数
1	総合医療センター	477	25	16	京都桂病院	551	28
2	香里病院	199	10	17	国立循環器病研究センター	550	43
3	伊賀市立上野総合病院	281	2	18	堺市立総合医療センター	487	28
4	上山病院	189	1	19	静岡市立静岡病院	506	19
5	大阪医療センター	605	25	20	住友病院	496	26
6	大阪急性期・総合医療センター	865	30	21	青樹会病院	78	2
7	大阪けいさつ病院	650	24	22	大和病院	163	2
8	大阪府済生会泉尾病院	440	7	23	宝塚病院	131	2
9	大阪府済生会中津病院	570	29	24	天理よろづ相談所病院	715	32
10	大阪府済生会野江病院	400	22	25	市立東大阪医療センター	520	10
11	大阪ろうさい病院	678	14	26	東大阪病院	255	4
12	大手前病院	401	12	27	兵庫県立西宮病院	400	22
13	交野病院	208	3	28	大和郡山病院	182	2
14	河内総合病院	322	6	29	りんくう総合医療センター	388	14
15	北野病院	685	33				

5 専門研修後の進路

- 関連病院または大学病院でさらに専門性を高めた形の研修をおこないます。
- 大学院に入学して臨床研究・基礎研究をおこなうこと、さらに、大学院修了後に国外留学も可能です。

6 臨床研修でローテートが望ましい診療科目

内科全般

7 評価・支援制度

- 基幹施設では指導医および施設責任者が専攻医の評価をおこないます。
- 連携施設では連携施設研修管理委員会が専攻医の評価をおこないます。
- 内科専門医の取得に必要な症例を経験できるようにします。
- Subspecialty研修の内容については個人の希望に応じて対応します。

8 プログラム管理委員会

「関西医科大学内科専門研修プログラム」では附属病院にプログラム管理委員会をおき、プログラム全体を管理します。さらに基幹施設と連携施設にそれぞれ施設研修委員会をおき、各施設における研修を統括します。各施設の指導医数は「4.専門研修プログラムでの関連病院の数と症例数」に示した通りです。プログラム管理委員会の構成を以下に示します。

プログラム管理委員会委員	伊藤 量基	内科学第一講座・教授
プログラム管理委員会委員	林田 健太郎	内科学第二講座・教授
プログラム管理委員会委員・プログラム統括責任者・研修管理委員会委員長	長沼 誠	内科学第三講座・教授
プログラム管理委員会委員	倉田 宝保	呼吸器腫瘍内科学講座・教授
プログラム管理委員会委員	蓮尾 英明	心療内科学講座・教授
プログラム管理委員会委員	藥師寺 祐介	神経内科学講座・教授

第一内科

血液腫瘍内科
呼吸器・感染症内科
リウマチ・膠原病科

内科学第一講座は、本学創立2年後に開講した歴史ある内科学教室です。現在当講座は、附属病院の診療科として血液腫瘍内科、呼吸器・感染症内科、リウマチ・膠原病科を担当しています。総合医療センターでは、血液腫瘍内科、呼吸器膠原病内科として診療にあたっています。

各専門分野を深く追求することや、内科分野を広くカバーした開業を目指すことも可能です

血液腫瘍内科

近隣の医療機関に血液内科が少ないため、診療圏のほぼすべての血液疾患患者を受け入れており豊富な症例数を誇ります。血液悪性腫瘍に対しては化学療法を主体として、輸血・細胞療法部との強力な連携体制のもとに造血幹細胞移植（骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植）や、CAR-T療法も積極的に行っています。

呼吸器・感染症内科

呼吸器領域の感染症、アレルギー、自己免疫疾患、呼吸器疾患の専門的診療を学べます。また、単に呼吸器疾患の診療だけでなく、呼吸器疾患を切り口として、いまだに診断が確定していない症例の内科領域疾患全般を初診時点からの問診、理学所見、臨床検査、画像検査などを駆使して鑑別する総合内科的アプローチを研修できます。

リウマチ・膠原病科

- 関節リウマチや全身性エリテマトーデスなど多くの難治性疾患を担当し、生物学的製剤などによる最新治療も提供し、大阪府下随一の症例数を誇ります。地域連携パスも積極的に導入し、地域の医療機関と密接な連携をとりながら長期に患者フォローをしています。
- 特に全身性疾患である膠原病を専門とする医師の育成には、広い範囲の知識の習得が必要であるため、感染症や内科学全般に対しての教育も積極的に行っています。

このように内科学第一講座は血液・呼吸器・膠原病の3診療部門を担当し、いずれも全身性疾患を対象にした内科の中の内科であり、将来各専門分野を深く追求することや、内科分野を広くカバーした開業を目指すことも可能です。
また、研究室は、血液・呼吸器・膠原病の各診療部門が治療目標に掲げている生体防御機構の修復を研究テーマの根幹としています。第一内科における対象疾患は、腫瘍、感染症、免疫疾患を扱っていますが、その3診療部門をつなぐキーワードが「生体防御・免疫」です。すなわち、これらの疾患を理解し、治療していく上で研究テーマとして“免疫学”が、必要不可欠です。現在、抗癌剤や抗生物質といった外的因子を用いて行う治療戦略は限界にきている感があります。従って今後は“免疫学”を単なる基礎学問としてだけではなく、臨床疾患へリンクして、新たな治療戦略の確立につなげることが重要と思っています。当教室では、研究テーマとして、免疫システムを統御する「樹状細胞」を対象とした「ヒト樹状細胞を用いた臨床的及び基礎的研究」を行っています。さらに制御性T細胞や、移植免疫に関する研究へと発展させていく予定です。

血液腫瘍内科、呼吸器・感染症内科、
リウマチ・膠原病科研修指導責任者
内科学第一講座 教授

伊藤 量基

平成４年 関西医科大学 卒業
関西医科大学附属病院 内科 入局
平成15年 MD Anderson Cancer Center, Department of Immunology, post-doctral fellow
令和４年 関西医科大学 内科学第一講座 教授
主要な専門領域：血液疾患

講座サイトはこちら

血液腫瘍内科

1 研修の目標

近隣の医療機関に血液内科が少ないため、診療圏のほぼすべての血液疾患患者を受けいれており、豊富な症例数を誇ります。当科で扱う疾患は造血器悪性腫瘍が主体です。抗がん剤治療、抗体療法、放射線治療、そして細胞免疫療法、造血細胞移植からなる多数のtoolを組み合わせて治癒を目指した集学的治療を実践しています。さらに、分子標的療法、CAR-T療法などを含めた最先端医療、および新規治療薬を積極的に取り入れ、常に新しいエビデンスに基づいた治療を行うことができる体制を整えています。患者の全身管理をはじめoncologist、感染症の知識も要求されますので細分化された医療だけではなく、generalistとしても大成することを目標としています。

2 研修修了後に得られる資格

- 本院は日本血液学会の認定施設にも指定されており、内科専門医はもちろんのこと、血液専門医、造血細胞移植認定医の取得が可能な施設です。
- 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
- 日本血液学会専門医
- 日本造血細胞移植学会認定医

3 研修プログラム概要

	卒後３年目～５年目	６年目～
研修施設	附属病院または総合医療センターでの内科研修（うち1年は関連病院での研修）	附属病院又は関連病院での専門研修、大学院入学
学 会	各学会での発表、内科学会認定内科医取得 → 症例報告等の論文作成	関連学会の専門医取得
研修体制	指導医による1対1の指導体制 → 独立した主治医として患者を担当（診療チームに上級医が参加・指導）	
研修目標	担当医としての基本的態度の習得 → 主治医としての独り立ち → 後輩の指導	
	基本的な内科疾患の診断と治療の習得 → 基本的疾患の診療プラン立案、臨床試験への参加 → 各疾患診療の最新知見の習得	

4 研修後の進路

- 大学院入学（学位取得）
- 関連病院での研修
- 国内・国外留学

5 評価・支援制度

- 専門分野は基本的には希望ですが、多科横断的な研修を希望する場合は研修指導責任者（教授）と相談の上研修プログラムを決定し、各専門分野の学会専門医研修プログラムに沿った症例を経験するように支援します。
- 女性医師復帰支援プログラムもあり、産休・育休後の臨床復帰もスムーズに行うことができます。

6 研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	伊藤 量基	教 授	血液 免疫	日本内科学会認定内科医・指導医・総合内科専門医、日本造血細胞移植学会認定医 日本血液学会認定血液専門医・指導医、日本輸血・細胞治療学会細胞治療認定管理師、日本リウマチ学会専門医
指導医	附属病院	佐竹 敦志	准教授	血液	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本造血細胞移植学会認定医 日本血液学会認定血液専門医・指導医、日本医師会認定産業医
指導医	附属病院	藤田 真也	講 師	血液	日本血液学会認定血液専門医・指導医、日本造血細胞移植学会認定医 日本内科学会認定内科医・指導医・総合内科専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
指導医	附属病院	堀田 雅章	診療講師	血液	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本造血・免疫細胞療法学会認定医 日本血液学会認定血液専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
指導医	附属病院	吉村 英晃	助 教	血液	日本内科学会認定医・総合内科専門医、日本造血・免疫細胞療法学会認定医、日本血液学会認定血液専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
指導医	総合医療センター	石井 一慶	診療教授	血液	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本血液学会認定血液専門医・指導医、日本医師会産業医、日本造血幹細胞移植学会造血細胞移植認定医 日本感染症学会インフェクションコントロールドクター、日本輸血細胞治療学会認定医・細胞治療認定管理師
指導医	総合医療センター	岡田 昌也	病院教授	血液	日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本血液学会近畿支部評議員、日本内科学会近畿支部評議員 日本造血・免疫細胞療法学会評議員・造血細胞移植認定医、日本血液学会評議員・血液専門医・指導医 日本医師会産業医
指導医	香里病院	宮地 理彦	病院准教授	血液	日本内科学会認定内科医、日本臨床腫瘍学会暫定指導医、日本血液学会認定血液専門医、がん薬物療法専門医

総合医療センター
血液腫瘍内科 診療教授

石井 一慶

平成元年 高知医科大学 卒業
平成５年 WHO 感染症部 インターン
平成７年 Rockefeller大学
医科ウイルス学講座 留学
平成26年 関西医科大学
血液腫瘍内科 診療教授
主要な専門領域：造血器腫瘍
造血細胞移植

- 近年iPS細胞で脚光を浴びている再生医療ですが、それと密接に関連している細胞治療は血液内科診療としては既に確立した治療法です。高齢者、臓器障害を有した患者でも可能なミニ移植（骨髄非破壊的同種造血細胞移植）、ほぼ全ての患者に供給可能なさい帯血バンクの普及などにより移植適応も拡大され、支持療法（感染症、免疫抑制剤などの合併症治療）の発展により治療成績も大きく向上しています。加えて、分子標的治療、2重抗体療法、そしてCAR-T細胞療法など先進医療も年々新薬が登場しています。もはや、血液腫瘍を含めた血液疾患は治せる時代となっています。
- 関西医大が位置する北河内地域は人口197万人の大きな医療圏でありながら、入院可能な血液内科病院はわずか6施設しかありません。よって、血液腫瘍内科を擁する本学附属病院、および総合医療センターには必然的に多くの患者さんが紹介されています。両院とも造血器腫瘍を集学的に治療していますが、附属病院は同種造血細胞移植、ならびにCAR-T細胞療法を、総合医療センターは抗がん剤、抗体療法の初期導入を主体にしています。造血器腫瘍では日和見感染症の合併も多くみられます。血液腫瘍内科では抗がん剤、抗体療法の習熟に加え、輸血療法、感染症治療の研鑽も求められます。

呼吸器・感染症内科

1 研修の目標

内科診断学に基づいた内科全体の研修を通じて、広い知識と視野を持ち合わせた内科医育成を目指します。

2 研修修了後に得られる資格

- 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
- インフェクションコントロールドクター（ICD）
- 日本感染症学会感染症専門医
- 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医
- 日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医
- 日本呼吸器学会呼吸器専門医
- 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医
- 日本喘息学会専門医
- 日本アレルギー学会専門医

3 研修プログラム概要

	卒後3年目	4年目	5年目	6年目
研修施設	附属病院または総合医療センターでの専門研修	関連病院での専門研修	大学附属病院又は関連病院での専門研修、大学院入学	
学会	各学会での発表、内科学会認定内科医取得		各学会での発表、症例報告等論文執筆	各学会での発表、症例報告等論文執筆、各学会専門医取得
研修体制	指導医と1対1の指導体制	独立した主治医として患者を担当（診療チームに上級医が参加・指導）		
研修目標	担当医としての基本的態度の習得	主治医として独り立ち	後輩の指導を担当	
	基本的な疾患の診断と治療の習得	基本的な疾患の治療立案、臨床試験への参加	新規臨床試験の立案・運営	

4 研修後の進路

- 大学院入学（学位取得）
- 関連病院での研修
- 国内・国外留学

5 評価・支援制度

- 専門分野は基本的には希望ですが、多科横断的な研修を希望する場合は研修指導責任者（教授）と相談の上研修プログラムを決定し、各専門分野の学会専門医研修プログラムに沿った症例を経験するように支援します。
- 女性医師復帰支援プログラムもあり、産休・育休後の臨床復帰もスムーズに行うことができます。

6 研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導医	附属病院	宮下 修行	診療教授	呼吸器感染症	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本結核病学会結核・抗酸菌専門医・指導医・幹事 日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医、日本化学療法学会抗菌化学療法専門医・指導医・理事 日本呼吸器学会専門医・指導医・代議員、インフェクションコントロールドクター 日本感染症学会専門医・指導医・評議員・理事
指導医	附属病院	尾形 誠	講　師	呼吸器感染症	日本内科学会認定内科医、日本呼吸器学会専門医
指導医	附属病院	福田 直樹	病院助教	呼吸器感染症	
指導医	総合医療センター	石浦 嘉久	診療教授	呼吸器	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医 日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医・代議員、日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 日本咳嗽学会理事・評議員、日本結核病学会結核・抗酸菌認定医・指導医、日本喘息学会専門医・評議員・指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医・暫定教育医、日本アレルギー学会認定医・専門医・指導医・代議員 日本肺がんCT検診認定医、日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医・代議員、インフェクションコントロールドクター

呼吸器・感染症内科
診療教授

宮下 修行

平成元年 川崎医科大学 卒業
平成9年 Washington大学 病原微生物学教室 留学
平成31年 関西医科大学 呼吸器・感染症内科 診療教授
主要な専門領域：咳嗽診療

- 日常診療で経験する呼吸器の4大疾患は、肺炎や結核などの感染性疾患、喘息などのアレルギー疾患、COPDや間質性肺炎などの換気障害、肺癌などの腫瘍性疾患です。呼吸器・感染症・アレルギー内科は腫瘍性疾患を除く、良性呼吸器疾患を診療しています。感染症に対する考え方は、この十数年で大きく変化しており、とくに平成28年の薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン以降は抗菌薬の適正使用が強調されています。私は、気道感染や肺炎など「呼吸器感染症に関するガイドライン」の作成に携わっています。正しい抗菌薬の使い方、使い分け、次の一手、裏ワザ、などを一緒に勉強しましょう。
- 呼吸器疾患で最も頻度の高い症状は「咳嗽」です。加えて、患者が医療機関を受診する動機として頻度の高い症状のひとつです。しかし、医療機関を受診したにも関わらず咳嗽が遷延し、ドクターショッピングをする代表的な症候です。このため、各国で「咳嗽診療ガイドライン」が公表され、私は日本の「咳嗽・喀痰診療ガイドライン」の作成に携わっています。原因は多岐にわたりますが、理論的な「謎解き」を一緒に楽しみましょう。

総合医療センター
呼吸器腫瘍アレルギー内科
診療教授

石浦 嘉久

平成元年 鳥取大学 卒業
平成9年 金沢大学大学院医学系研究科 修了
平成29年 関西医科大学 呼吸器腫瘍アレルギー内科 診療教授
主要な専門領域：難治性咳嗽

- 呼吸器腫瘍アレルギー内科は総合医療センターにあり腫瘍性疾患を含む呼吸器疾患一般を広く扱っていますが、専門としては気道のアレルギーによる疾患、すなわち気管支喘息や慢性難治性咳嗽に強いのが特色です。咳嗽は主訴として頻度も多く慢性難治性となることも多く対応が重要です。近年のアレルギー学の進歩はこの慢性難治性咳嗽にアレルギーが深く関与することを明らかとしました。アレルギー疾患の増加は近年の生活様式の変化に伴っているため今後ますます増加するものと考えられています。
- アレルギー疾患の有症率は気管支喘息が5~10%、スギ花粉症が30%であり、多くの人々が自分もしくは近い親族にアレルギー疾患を抱えている現状であり、まさに国民病とも言えます。平成26年6月にはアレルギー性疾患対策基本法が公布され国を挙げたアレルギー対策が期待されていますが、アレルギー学会の専門医はまだまだ少ないのが現状です。当院では他科とも連携しつつアレルギー疾患を含む各種呼吸器領域疾患の幅広い臨床を担当し各種専門医の取得が可能な研修を行います。

リウマチ・膠原病科

1 研修の目標

リウマチ性疾患の診断に必要な身体所見を理解し、その修得が可能となります。また、自己免疫疾患と炎症性疾患の基礎医学的な側面を含めた理解を深め、関節エコーに関しては、指導のもとで技術の習得を行います。基礎医学および各疾患に関しては、週1回のレクチャーを連続的に行い、その理解を助けます。

2 研修修了後に得られる資格

- 日本内科学会認定内科医・内科専門医
- 日本リウマチ学会リウマチ専門医
- 日本リウマチ財団リウマチ登録医
- 日本リウマチ学会登録ソノグラファー

3 研修プログラム概要

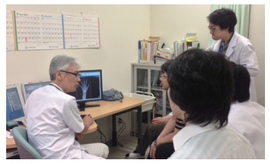
	卒後3年目	4年目	5年目	6年目
研修施設	附属病院または総合医療センターでの専門研修	関連病院での専門研修	大学附属病院又は関連病院での専門研修、大学院入学	
学会	各学会での発表、内科学会認定内科医取得		各学会での発表、症例報告等論文執筆	各学会での発表、症例報告等論文執筆、各学会専門医取得
研修体制	指導医と1対1の指導体制	独立した主治医として患者を担当（診療チームに上級医が参加・指導）		
研修目標	担当医としての基本的態度の習得	主治医として独り立ち	後輩の指導を担当	
	基本的な疾患の診断と治療の習得	基本的な疾患の治療立案、臨床試験への参加	新規臨床試験の立案・運営	

4 研修後の進路

- 大学院入学（学位取得）
- 関連病院での研修
- 国内・国外留学

5 評価・支援制度

- 専門分野は基本的には希望ですが、多科横断的な研修を希望する場合は研修指導責任者（教授）と相談の上研修プログラムを決定し、各専門分野の学会専門医研修プログラムに沿った症例を経験するように支援します。
- 女性医師復帰支援プログラムもあり、産休・育休後の臨床復帰もスムーズに行うことができます。



症例カンファレンス

6 研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導医	附属病院	尾崎 吉郎	診療教授	膠原病	日本内科学会認定内科医・認定教育指導医 日本内科学会・近畿地方支部評議員 日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員 日本リウマチ学会近畿リウマチ支部運営委員
指導医	附属病院	田中 晶大	診療講師	膠原病	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本リウマチ学会専門医・指導医、近畿支部学術集会プログラム委員
指導医	総合医療センター	安室 秀樹	病院准教授	膠原病	日本内科学会認定内科医・認定教育指導医 日本内科学会・総合内科専門医 日本リウマチ学会専門医・指導医
指導医	総合医療センター	西澤 徹	講　師	膠原病	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本リウマチ学会専門医 日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 日本救急医療学会ICLSコースディレクター 日本内科学会JMECCディレクター

リウマチ・膠原病科 診療教授

尾崎 吉郎

平成5年 関西医科大学 卒業
令和7年 関西医科大学 リウマチ・膠原病科 診療教授
主要な専門領域：リウマチ膠原病

- 膠原病・リウマチ性疾患は、学生時代の印象では「ややこしい」「比較的稀」といったものではないでしょうか？確かにとっつきにくい分野ではありますが、非常にやりがいのある分野でもあります。一つには、研究分野として未知の部分も多いという点で、疾患の病態解明でも治療に関するものでも、まだまだやることが多いということ。二つ目に、臨床分野としても、ガイドラインに沿った治療のみでは解決できない患者さんへの対応では、医師としてのスキルが要求される分野でもあり。Bench to Bedという言葉があります。研究で得られた新しい知見が臨床に生かされるという意味になります。研究結果から新薬が開発され市場に出てくるまでには、やはり十年単位の時間が必要ですが、研究の根幹をなす知識が目の前の患者さんの治療薬選択に役立つことは多々あります。まさしく医師のスキル（知識）の有無で患者さんの予後が変わってしまうのです。この分野では勉強家かつ後輩へ教えるのが好きな医師が多いのもそのせいかもしれません。皆さんの将来に良い環境を提供しますので、ぜひ仲間になってください。
- 北河内二次医療圏は大阪市に次ぐ大きな人口を要する医療圏ですが、膠原病の重症病態に対応できる医療施設は当院および本学総合医療センター以外にほとんどありません。しかし関節リウマチのような非常にCommonな疾患を診ることができる診療所・クリニックは他の地域に比べて多く存在しています。これらの状況はアンバランスではありますが、当科では病診連携を密にすることにより、入院を要する膠原病患者さんやCommonではあるものの難治である関節リウマチ患者さんの事例などをスムーズに診療しています。Commonな疾患から重症患者さんまで、幅広く勉強することができます。

第二内科

循環器内科
腎臓内科
内分泌代謝内科

内科学第二講座は、循環器・腎臓・内分泌代謝という、いずれも生命予後に直結する重要な3つの領域を担っています。これらの疾患は「心腎代謝連関」に象徴されるように互いに深く関わっており、さらに高齢化が進む現代社会において、その重要性は年々高まっています。近年の内科医療は、従来の「診断中心の医療」から、低侵襲カテーテル治療やデバイス治療など、より積極的に「治す医療」へと大きく進化しています。我々は、こうした最先端医療を実践しながら、患者さん一人ひとりに寄り添った全人的な医療を大切にしています。また当講座では、弁膜症、冠動脈疾患、不整脈、心不全、腎疾患、内分泌・代謝疾患といったそれぞれの専門分野において、日本のみならず世界で活躍できる医師の育成に力を注いでいます。高度な専門性を身につけながらも、内科医としての幅広い視野と総合力を養うことができるのが、当講座の大きな特徴です。さらに、将来は基幹病院で中核を担う医師、あるいは地域医療を支える実地医家として活躍できる人材を多数輩出していきます。「専門性」と「人間性」の両方を大切にしながら、皆さんと共に学び、成長できる講座でありたいと考えています。
これから専門を決める研修医・学生の皆さんには、ぜひ一度、私たちの医療現場を実際に見て、雰囲気を感じていただきたいと思います。皆さんと一緒に、次世代の医療を築いていけることを、心より楽しみにしています。

循環器内科、腎臓内科、内分泌代謝内科研修指導責任者
内科学第二講座 教授
林田 健太郎

平成12年　慶應義塾大学 卒業
平成21年~24年　パリ南心臓血管研究所(ICPS) 留学
令和７年　慶應義塾大学 循環器内科 病院長特命教授
令和８年　関西医科大学 内科学第二講座 教授
主要な専門領域:弁膜症、冠動脈疾患に対する低侵襲カテーテル治療

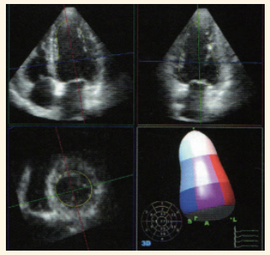
講座サイトはこちら

高齢化社会が進むにつれ、増すその重要性

循環器部門

循環器領域では、虚血性心疾患、弁膜症、不整脈、心不全を主な対象疾患として、急性・慢性心不全に対する薬物治療から、カテーテル治療、ペースメーカーなどのデバイス治療まで、幅広い診療を行っています。また、超音波、CT、MRI、RIなどの画像診断は、診断および治療方針決定に不可欠であり、循環器診療の大きな特色の一つです。近年、循環器診療は、特に低侵襲カテーテル治療とデバイス治療の急速な進歩により、大きな転換期を迎えています。本プログラムでは、冠動脈や心臓弁膜症に対するカテーテル治療、不整脈に対するカテーテル焼灼術、デバイス治療に加え、それらを支える画像診断まで、最先端の循環器医療を実臨床の中で体系的に学ぶことができます。診断から治療戦略の立案、周術期管理に至るまでを総合的に修得し、将来、全国さらには世界で活躍できる循環器医の育成を目指しています。
入局後は、大学病院のみならず関連施設も含めて、循環器全般について幅広く研修していただきます。その後は、個々の希望に応じて、冠動脈、弁膜症、不整脈、心不全、画像診断などの専門分野において、より高度な研鑽を積むことが可能です。循環器専門医の取得はもちろんのこと、多くの医局員がいずれかのSubspecialtyに関する認定医・専門医資格を取得し、それぞれの専門性を生かして第一線で活躍しています。

ハイブリッド手術室での大動脈弁カテーテル治療(TAVI)の様子



3D心エコー法による心機能評価

腎臓部門

腎臓領域では慢性腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎臓病(CKD)などが主な対象疾患です。腎臓疾患は慢性の経過をたどることが多く、診断・治療からその後の経過観察まで、長期にわたり継続的な治療をおこなっています。また、急性腎不全に対する透析療法、慢性腎不全に対する腹膜透析や血液透析の導入、さらに総合医療センター・香里病院では外来慢性維持透析もおこなっています。入局後は腎臓病学全般について研修をしていただき、さらに腎炎や透析などSubspecialtyに関するより専門的な研修も可能です。多くの医局員が腎臓病学会や透析医学会の専門医資格を取得しています。

内分泌代謝部門

内分泌代謝部門では、本邦で患者数が多い、甲状腺・下垂体・副腎疾患などの内分泌疾患、および糖尿病・肥満症・脂質異常症などの代謝疾患の診療をおこなっています。これらの疾患は様々な診療科でも診察しますが、一般病院で診療することが少ない、免疫関連有害事象としての内分泌代謝疾患や高度肥満症など、治療が難しい症例を多く研修することが可能です。糖尿病診療では、患者さんの状態に適した血糖マネジメントを構築するだけではなく、合併症の管理も他診療科と連携し全身管理を研修します。また糖尿病合併妊娠などの研修から、代謝疾患の基盤となる栄養療法についても学びます。内分泌疾患においても画像診断から放射線治療まで身につけます。研修修了後、多くの医局員が糖尿病学会・内分泌学会の学会専門医と機構認定専門医を取得します。

循環器内科

1 研修の目標

- 虚血性心疾患・不整脈・心不全について診断および治療方針の決定ができる。
- 超音波、CT、RIなど循環器画像診断を習得する。
- 冠動脈造影・経皮的冠動脈形成術などの侵襲的な検査・治療手技を習得する。

2 研修修了後に得られる資格

- 日本内科学会専門医
- 日本循環器学会専門医

3 研修プログラム概要

- 卒後3年目：大学病院で専攻医として研修を行い、内科専門医取得に必要な症例を経験する。
- 卒後4年目~6年目：大学病院または関連施設で研修を行い、内科専門医取得に必要な症例を経験するとともに、循環器内科のSubspecialty研修をおこなう。
- 卒後6年目に内科専門医試験を受験する。

	卒後３年目	４年目	５年目	６年目以降
研修施設	大学病院	大学病院または関連施設		
研修目標	内科全般について研修する	内科疾患全般について研修する		専門医試験
		循環器疾患全般について研修する 画像診断や心臓カテーテルの手技を習得する		

4 研修後の進路

- 関連病院または大学病院でさらに専門性を高めた形の研修をおこなう。
- 大学院に入学して臨床研究・基礎研究をおこなう。大学院修了後に国外留学も可能。

5 評価・支援制度

- 内科専門医・循環器専門医の取得に必要な症例を経験できるようにします。
- 研修内容については個人の希望に応じて対応します。

6 研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	林田 健太郎	教　授	循環器	総合内科専門医、循環器専門医、CVIT専門医 TAVI指導医、MTEER指導医
指導医	附属病院	宮坂 陽子	病院教授	循環器	内科認定医・専門医、循環器専門医、超音波専門医
指導医	附属病院	藤井 健一	准教授	循環器	内科認定医、循環器専門医、CVIT専門医
指導医	附属病院	吉田 進	病院准教授	循環器	内科認定医、循環器専門医、不整脈専門医
指導医	総合医療センター	高木 雅彦	診療教授	循環器	内科認定医、循環器専門医、不整脈専門医
指導医	総合医療センター	朴 幸男	准教授	循環器	内科認定医・専門医、循環器専門医、CVIT専門医
指導医	総合医療センター	楊 培慧	診療講師	循環器	内科認定医・専門医、循環器専門医

（上記に加えて内科認定医/循環器専門医を有する助教８名が指導にあたります）

総合医療センター 不整脈担当 診療教授
高木 雅彦

平成元年　大阪市立大学 卒業
平成９年~12年　国立循環器病センター
内科心臓部門(不整脈)国内留学
平成29年　関西医科大学 内科学第二講座 不整脈担当
診療教授 総合医療センター 不整脈治療センター長
主要な専門領域:臨床不整脈学

不整脈治療はいまだに進化し、発展しています。今までは治らなかった不整脈がカテーテル治療やペースメーカーや除細動器などの植え込み型機器により治療可能になってきています。最先端の医療を一緒に学びましょう。

腎臓内科

1 研修の目標

- 慢性腎炎・ネフローゼ症候群・慢性腎臓病について診断・治療方針の決定ができる。
- 腎生検を施行し、組織診断ができる。
- 血液透析・腹膜透析の導入・維持ができる。

2 研修修了後に得られる資格

- 日本内科学会専門医
- 日本腎臓学会専門医
- 日本透析医学会専門医

3 研修プログラム概要

- 卒後3年目：大学病院で専攻医として研修を行い、内科専門医取得に必要な症例を経験する。
- 卒後4年目~6年目：大学病院または関連施設で研修を行い、内科専門医取得に必要な症例を経験するとともに、腎臓内科のSubspecialty研修をおこなう。
- 卒後6年目に内科専門医試験を受験する。

	卒後3年目	4年目	5年目	6年目以降
研修施設	大学病院	大学病院または関連施設		
研修目標	内科全般について研修する	内科疾患全般について研修する		専門医試験
		腎臓疾患全般について研修する 腎生検・透析の手技を習得する		

4 研修後の進路

- 関連病院または大学病院でさらに専門性を高めた形の研修をおこなう。
- 大学院に入学して臨床研究・基礎研究をおこなう。大学院修了後に国外留学も可能。

5 評価・支援制度

- 内科専門医・腎臓専門医の取得に必要な症例を経験できるようにします。
- 研修内容については個人の希望に応じて対応します。

6 研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	谷山 佳弘	診療教授	腎臓	内科認定医・専門医、腎臓専門医、透析専門医
指導医	附属病院	今田 崇裕	病院准教授	腎臓	内科認定医、腎臓専門医、透析専門医
指導医	総合医療センター	菊池 早苗	診療講師	腎臓	内科認定医・専門医、腎臓専門医、透析専門医
指導医	香里病院	塚口 裕康	病院准教授	腎臓	内科認定医、腎臓専門医、透析専門医

腎臓内科担当 診療教授

谷山 佳弘

平成6年 東北大学 卒業
平成12年 エモリー大学 留学
令和2年 関西医科大学 内科学第二講座
腎臓内科担当 診療教授
主要な専門領域：腎疾患、高血圧、透析療法

腎臓病を理解するには腎臓病学だけではなく、循環器・代謝・膠原病・感染症などの内科一般はもとより、生理学・病理学など広範な基礎医学知識が必要とされます。臨床研修期間中に習得した知識・技術に専門性を加えながら、あらゆる腎臓病患者の治療方針を立てられ実施できることを目標に研修していただきます。

内分泌代謝内科

1 研修の目標

- 1型・2型糖尿病・糖代謝異常合併妊娠・膵疾患などその他の糖尿病の診断、治療方針の構築、合併症の管理ができる。
- 甲状腺・副腎・下垂体疾患などの内分泌疾患の診断、治療ができる。
- 肥満症、脂質異常症などの代謝異常症の診断、治療ができる。

2 研修修了後に得られる資格

- 日本内科学会（認定内科医、総合内科専門医）
- 日本糖尿病学会専門医
- 日本肥満学会専門医
- 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医（内科）
- 日本専門医機構内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医

3 研修プログラム概要

- 卒後3年目：大学病院で専攻医として研修を行い、内科専門医取得に必要な症例を経験する。
- 卒後4年目~6年目：大学病院または関連施設で研修を行い、内科専門医取得に必要な症例を経験するとともに、内分泌代謝内科のSubspecialty研修をおこなう。
- 卒後6年目に内科専門医試験を受験する。

	卒後3年目	4年目	5年目	6年目以降
研修施設	大学病院	大学病院または関連施設		
研修目標	内科全般について研修する	内科疾患全般について研修する		専門医試験
		内分泌代謝疾患全般について各種負荷試験、治療法を研修する 内分泌代謝疾患の急性期治療を研修する 糖代謝異常合併妊娠の栄養療法・インスリン療法を研修する 持続皮下インスリン注入療法などの手技を取得する 肥満症治療について外科治療を含めて研修する	

4 研修後の進路

- 関連病院または大学病院でさらに専門性を高める研修をおこなう。
- 大学院に入学して臨床研究・基礎研究をおこない学位を取得する。卒業後は国内外の施設に留学も可能。

5 評価・支援制度

- 日本内科学会総合内科専門医、内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医、糖尿病学会・内分泌学会認定専門医の取得に必要な症例を研修可能です。
- 研修内容については個人の希望に応じて調整します。

6 研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	入江 潤一郎	診療教授	内分泌代謝・糖尿病内科	内科認定医、総合内科専門医、糖尿病学会専門医・指導医 内分泌学会専門医・指導医、肥満学会肥満症専門医・指導医
指導医	総合医療センター	豊田 長興	病院教授	内分泌代謝・糖尿病内科 甲状腺疾患	内科認定医、糖尿病学会専門医・指導医 内分泌学会専門医・指導医、甲状腺学会専門医

糖尿病科・内分泌内科担当 診療教授

入江 潤一郎

平成8年 慶應義塾大学 卒業
平成15年~18年 米国Pittsburgh大学 留学
令和6年 関西医科大学 内科学第二講座
糖尿病科担当 診療教授
主要な専門領域：糖尿病、肥満症、内分泌疾患

糖尿病の診療では、腸管や肝臓、骨格筋など多くの臓器が関わる全身の糖エネルギー代謝を深く理解し、それらの情報に基づき、患者さんの状態と生活様式に適した治療を構築することが重要です。多くの疾患を合併する糖尿病について学び、適切にマネジメントする能力を研修しましょう。内分泌疾患では、高血圧症や糖尿病、肥満症を合併していることも多く、正しく診断する力が必要です。頻度の高い疾患から希少疾患まで、多彩な疾患の診断と治療を学ぶことが可能です。当科の研修で、全身を診療できる力を身につけましょう。

第三内科

消化器肝臓内科

先進的医療と基本的な診断・治療法を同時に学べる数少ない施設です 勤務医・開業医・研究者、どの分野に進むにも役に立つ診療科です

第三内科は消化器内科単科で構成されている医局です。本学消化器内科の特徴は大学病院でありながら北河内の基幹病院であり、基本的疾患から他病院では診療困難な高度の診療を研修できる点が利点です。また将来勤務医、研究者、開業医など幅広い分野に対応できる診療科と言えます。入局後は内科専攻医プログラムに沿って内科専門医を目指すとともに、Subspecialtyとしての消化器肝臓内科の研修を初期段階では主に附属病院と総合医療センターにておこない、消化器と肝臓の疾患の診断・治療法を修練することができます。大学病院での1~2年間の修練が終了すると、2~3年間、教室関連病院に出向して、第一線の消化器内科診療の修練後、内科専門医・消化器病学会専門医を取得しています。その後、Subspecialistを目指して各専門分野での診療と研究を行い、卒後10年頃をめどに消化器内視鏡学会、肝臓学会等の各専門医や指導医資格と医学博士の学位を併せて取得することを目標としています。基幹病院での研修を早期より希望する先生は入局後関連病院に出向して実地医療・内視鏡手技などを取得し、その後大学附属病院へ帰室し高度の診断・治療法を習得することもできます。また厚生労働省難治性疾患の各研究班の分担研究施設として、潰瘍性大腸炎、クローン病、重症膵炎、劇症肝炎、自己免疫性肝疾患等の難治性疾患に対し、病態の解明や新しい治療法を積極的に開発・実践しています。

附属病院ではcommon diseaseから高度な技術を要する内視鏡治療や難病の診療などの研修が可能

- 附属病院では食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・肝臓・胆膵疾患の症例がバランスよく存在し、消化器悪性腫瘍、消化管出血、胆嚢炎、膵炎など基本的な疾患の診療を取得できるとともに、早期消化管がんの内視鏡治療、バルーン小腸内視鏡・カプセル小腸内視鏡、進行がんの化学療法など高度な診療にも触れることができます。内視鏡の質・量ともに充実した研修ができます。
- 胆膵領域においても緊急ERCPを含めてERCP関連検査処置、EUS関連処置、PTCD関連検査処置に積極的に参加するとともにERCP関連検査処置、EUS関連処置の介助を目標。専修医は年間数百例におよぶ各内視鏡検査を主施行医として経験できます。
- 潰瘍性大腸炎・クローン病の診療については2020年に本学難病センターに診療部門を創設し、近隣の難治例の受け皿になるとともに治療法の開発にも取り組んでおり、難治例の診療や簡単な臨床研究に参加することができます。

胆道内視鏡の実際

カンファレンスでの専攻医の発表

総合医療センターでは、消化器内視鏡診療などの高度な研修が可能

- ダブルバルーン内視鏡（DBE）を用いた小腸内視鏡検査技術を応用した胃切除後の胆膵内視鏡（DB-ERCP）では、全国的に有名であり、高度な内視鏡診療に触れることができます。
- 内視鏡検査・治療も豊富で、わが国でもトップクラスの研修が可能。

癌と炎症・自己免疫性疾患・消化器内視鏡をテーマにした消化器肝臓領域の研究

- 潰瘍性大腸炎・クローン病の治療開発に関する研究
- 新規内視鏡的検査・治療法の開発と臨床応用
- 消化管の炎症・腫瘍疾患の豊富な症例を基盤とした分子疫学的研究
- 消化器疾患と腸内細菌叢との関連に関する研究
- 肝線維化、肝発癌あるいは自己免疫性肝疾患の機序の解明
- 肝癌局所治療の開発
- 各種肝疾患の臨床データを用いた研究
- 膵癌の早期診断バイオマーカー開発に関する研究
- 自己免疫性・慢性膵炎の病態生理・治療法の研究

消化器肝臓内科研修指導責任者
内科学第三講座 教授

長沼 誠

平成４年　慶應義塾大学 卒業
平成15~18年　米国バージニア大学 留学
令和２年　関西医科大学 内科学第三講座 教授
主要な専門領域：消化器病学、消化器内視鏡学
大腸肛門病学、消化器免疫学
炎症性腸疾患の治療開発

講座サイトはこちら

消化器肝臓内科
診療教授

下田 慎治

平成元年　九州大学 卒業
令和５年　関西医科大学 附属病院 消化器肝臓内科 診療教授
主要な専門領域：肝疾患

エコー検査で主な腹部スクリーニングが簡潔に施行できるようになる研修です。肝臓は癌と炎症に加え線維化についても診療の中でいつも考える必要がある臓器であり、手を動かしながらも考える習慣が身につきます。

総合医療センター
消化器肝臓内科 診療教授

島谷 昌明

平成７年　関西医科大学 卒業
令和２年　関西医科大学 総合医療センター 消化器肝臓内科 診療教授
主要な専門領域：胆膵疾患・消化器内視鏡

総合医療センターでは、上部・下部・小腸内視鏡から胆膵内視鏡まで様々な内視鏡検査・治療が修練できる環境が整っています。新規開発した胆膵内視鏡治療は全国でもトップレベルの症例数を誇っています。

1 研修の目標

どの領域もまず患者さんをきちんと診ること、そして考える力を身につけることを大事にします。その上で内視鏡検査や多くの手技を習得するように心がけています。

上部・下部消化管疾患の診療

●上部・下部消化管疾患の病棟治療 ●上部・下部消化管内視鏡検査 ●色素内視鏡や超音波内視鏡、特殊光観察 ●上部・下部消化管造影検査 ●消化管出血に対する内視鏡的止血術や早期食道・胃ポリープ・胃癌に対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）や内視鏡的粘膜下層剥離（ESD）、ステント留置術など。●外科的手術不能な食道・胃癌・大腸癌に対する化学療法・緩和治療 ●潰瘍性大腸炎・クローン病に対する集約的治療

肝疾患の診療

●肝細胞癌に関しては、外科、放射線科と合同カンファレンスを行い治療方針を決めています。肝疾患に関する手技は肝生検と肝癌の局所治療 ●腹部エコーは消化器疾患の診断において簡便で非侵襲的な検査法です。最初の1年目で腹部エコーが確実にできるようにします。その後RFAなどの局所治療の介助を通じて、2年間で肝疾患の診断、治療方針を判断できる能力を身につけるようにします。

胆膵疾患の診療

●急性膵炎、膵癌、胆管炎・胆嚢炎、胆道癌などのガイドライン、画像診断の理解を中心に、多くの症例を経験 ●ERCP関連検査処置、EUS関連処置、PTCD関連検査処置の介助（造影剤注入、ガイドワイヤー操作EST ナイフ操作、ENBD挿入、EML操作、チューブステント、FNA針の操作） ●挿入困難であった術後再建腸管を有する胆膵疾患に対する内視鏡診療

小腸疾患の診療

●カプセル内視鏡とダブルバルーン内視鏡による全小腸の詳細な内視鏡観察、組織採取による確定診断および内視鏡治療

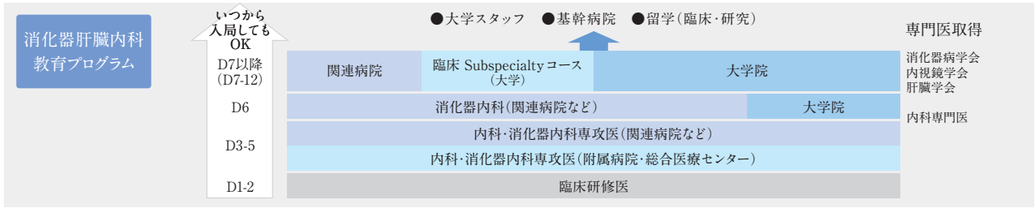
2 研修修了後に得られる資格

消化器肝臓内科に入局すると消化器系専門医の資格が複数取得できる！

●日本内科学会内科専門医 ●日本消化器病学会消化器病専門医 ●日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 ●日本肝臓学会肝臓専門医 ●日本消化管学会認定胃腸専門医 ●日本超音波医学会超音波専門医（消化器領域） ●日本がん専門医機構の専門医資格が取得可

3 研修プログラム概要

	卒後３年目	４年目	５年目	６年目	７年目
研修施設	附属病院または総合医療センターでの専門研修	大学附属病院または関連病院での専門研修	関連病院での専門研修		大学院入学または臨床研修継続
学　会	日本内科学会に研修開始宣言	日本消化器学会・内視鏡学会・肝臓学会の研修開始定められた症例数・手術数を経験		日本内科学会専門医試験	日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会・日本肝臓学会の専門医試験受験
研修体制	指導医と１対１の指導体制	独立した主治医として患者を担当（診療チームに上級医が参加・指導）			消化器肝臓内科の中で専門性を高める研修
	疾患によって専門医の指導				
研修目標	担当医としての基本的態度の習得	主治医として独り立ち	後輩の指導を担当		Subspecialityの決定
	基本的な疾患の診断と治療の習得 消化器内視鏡検査・肝臓診療術者として修練		消化器内視鏡診療・肝臓診療の術者として独り立ち		より高度な消化器内視鏡診療・肝疾患診療の習得



研修のために参加する学会　●日本内科学会 ●日本消化器病学会 ●日本消化器内視鏡学会 ●日本肝臓学会 ●日本消化管学会 ●日本超音波医学会

4 研修後の進路

●大学院入学
●大学附属病院または関連病院での専門性を高める研修
●国内他施設での研修実績多数あり
●大学の高度医療人育成制度による臨床留学
●日本がん治療認定医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医、肝臓専門医、胃腸専門医、超音波専門医などを目指す

5 評価・支援制度

●日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医、日本消化管学会専門医、日本超音波医学会研修プログラムに沿って、求められる症例を経験できるようにする。
●年に１回以上、研修責任者（教授）と面談。進路や研修内容について協議する。
●大学の専門研修医支援チームと連携

6 研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	長沼 誠	教　授	消化器内科、消化器内視鏡、大腸疾患 小腸疾患、炎症性腸疾患	日本内科学会指導医、日本消化器病学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医 日本大腸肛門病学会指導医、日本消化管学会胃腸科指導医 日本炎症性腸疾患学会指導医
指導医	附属病院	下田 慎治	診療教授	消化器内科、肝疾患	日本内科学会指導医、日本消化器病学会指導医、日本肝臓学会指導医 日本感染症学会指導医
指導医	附属病院	池浦 司	病院教授	消化器内科、消化器内視鏡 胆道・膵臓疾患	日本内科学会指導医、日本消化器病学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医 日本膵臓学会指導医、日本がん治療認定医
指導医	附属病院	山敷 宣代	准教授	消化器内科、肝疾患	日本内科学会指導医、日本消化器病学会指導医、日本肝臓学会指導医 日本がん治療認定医、日本移植学会移植認定医
指導医	総合医療センター	島谷 昌明	診療教授	消化器内科、消化器内視鏡、胆膵疾患 小腸疾患	日本内科学会指導医、日本消化器病学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医 日本胆道学会指導医、日本消化管学会胃腸指導医 日本カプセル内視鏡学会指導医
指導医	香里病院	深田 憲将	准教授	消化器疾患、消化器内視鏡 大腸疾患、小腸疾患、炎症性腸疾患	日本内科学会指導医、JMECCインストラクター、日本消化器病学会指導医 日本消化器内視鏡学会指導医、日本消化管学会指導医 日本カプセル内視鏡学会指導医、日本炎症性腸疾患学会指導医

呼吸器腫瘍内科

呼吸器腫瘍内科学講座は令和4年に開講しました。我が国初の原発性肺がんを中心とした胸部腫瘍の診療を担当する教室です。がんゲノム診療を推進しつつ、希少がんの診療を含めた腫瘍内科としての役割も担います。また、内科学第一講座(呼吸器感染症内科)と連携し呼吸器疾患の診療に携わります。世界に通ずる呼吸器腫瘍内科学講座であり、より専門に特化した呼吸器内科医・腫瘍内科医も目指せます。地域貢献のための開業も目指すことが可能です。

関西医科大学のがん診療を牽引し、世界に向けて発信していきましょう!

- 呼吸器腫瘍内科は、原発性肺がん、悪性胸膜中皮腫および胸腺腫などの胸部腫瘍に対する化学療法を中心に、診断から緩和ケアに至るまでの診療を行っています。呼吸器腫瘍に対する化学療法は近年目覚ましい発展をとげており、分子標的薬剤と免疫チェックポイント阻害剤の開発は多くの患者様に治療の恩恵をもたらしました。また、これらの治療薬の台頭は個別化医療への推進となり、診断の時点でそれぞれの患者様のがんの特徴(遺伝子の変化等)を把握し、その特徴に合致した治療を行うことが標準的治療となりました。がんの特徴を知る上で呼吸器腫瘍の診断の重要性が以前より増しており、気管支鏡検査をはじめとする診断のための検査に当科は力を注いでおります。治療についても我が国のガイドラインを遵守するのみならず、新薬の治験や多施設共同の臨床試験に参画することで最新の治療も取り入れています。
- 当院では年間300例以上の呼吸器腫瘍の症例を経験することができ、地域がん拠点病院にふさわしい体制を整えているとともに、様々なエビデンスを発信しています。また、がんゲノム医療も積極的に推進しています。

総合医療センター 呼吸器腫瘍内科 診療教授
本津 茂人

平成11年 奈良県立医科大学 卒業 第二内科学講座入局
平成14年 東京大学大学院医学系研究科 特別研究生
平成17年 星ヶ丘厚生年金病院(現 星ヶ丘医療センター)呼吸器科
平成19年 奈良県立医科大学 内科学第二講座
平成20年 奈良県立医科大学 放射線腫瘍医学
平成26年 奈良県立医科大学 内科学第二講座
平成30年 奈良県立医科大学 呼吸器内科学講座(名称変更)
令和7年 関西医科大学 総合医療センター 呼吸器腫瘍内科 診療教授
主要な専門領域:肺がん、呼吸器疾患全般

呼吸器疾患全般の診療経験があり、特に肺がんを専門的に診療して参りました。高齢化に伴い併存症を含め、社会環境など患者さんが抱えている問題は多様化しています。一人ひとりの患者さんに最適な治療を届けるため、一緒に頑張っていきましょう。

医局員集合写真

気管支鏡検査

呼吸器腫瘍内科研修指導責任者
呼吸器腫瘍内科学講座 教授
倉田 宝保

平成2年 広島大学 卒業
平成25年 関西医科大学 呼吸器腫瘍内科 診療教授
令和4年 関西医科大学 呼吸器腫瘍内科学講座 教授
主要な専門領域:肺癌化学療法、臨床腫瘍学

講座サイトはこちら

1 研修の目標

内科診断学に基づいた内科全体の研修を通じて、広い知識と視野を持ち合わせた内科医育成を目指します。その上でSubspecialtyとして肺がん診療を中心に呼吸器内科医、腫瘍内科医育成を目指します。

2 研修修了後に得られる資格

- 日本内科学会総合内科専門医
- 日本呼吸器学会呼吸器専門医
- 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医
- 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

3 研修プログラム概要

	卒後3年目~5年目	6年目以降
研修施設	大学附属病院での専門研修 (3年間のうち2年は大学附属病院、1年は連携病院で研修)あるいは 大学附属病院の連携病院での研修プログラムに3年間参加	大学附属病院又は関連病院での専門研修、 大学院入学(大学院卒業後に留学も可能)
学会	各学会(日本内科学会、日本肺癌学会、日本臨床腫瘍学会、日本呼吸器学会、 日本呼吸器内視鏡学会、日本癌治療学会、日本癌学会)での発表 症例報告等和文論文執筆(可能であれば英文論文)	日本の学会のみならず、海外学会への参加、発表(ASCO, AACR, ESMO, WCLC) 研究論文を執筆(英文論文) 日本内科学会・日本呼吸器学会専門医取得 日本臨床腫瘍学会腫瘍内科専門医取得(8年目以降)
研修体制	大学附属病院では腫瘍学、呼吸器内科学を中心とした研修 出向病院においては内科学、呼吸器内科学の研修	大学附属病院又は関連病院での専門研修、 大学院においては研究スキルを学ぶ
研修目標	担当医としての基本的態度の習得 基本的な疾患の診断と治療の習得 腫瘍学、呼吸器内科学の基本的な考え方の習得 コミュニケーションスキルの習得 チーム医療の重要性の習得	主治医として独り立ち 後輩の指導を担当 基本的な疾患の治療立案、臨床試験への参加 新規臨床試験の立案・運営

4 研修後の進路

- 大学院入学(学位取得)
- 関連病院での研修
- 国内・国外留学

5 評価・支援制度

女性医師復帰支援プログラムもあり、産休・育休後の臨床復帰もスムーズに行うことができます。

6 研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	倉田 宝保	教 授	呼吸器腫瘍	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本呼吸器学会専門医・指導医 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医 日本臨床薬理学会特別指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
指導医	附属病院	池田 慧	准教授	呼吸器腫瘍	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本呼吸器学会専門医・指導医 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
指導医	附属病院	山中 雄太	講 師	呼吸器腫瘍	日本内科学会認定内科医 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
指導医	附属病院	勝島 詩恵	診療講師	呼吸器腫瘍	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医 日本呼吸器学会専門医
指導医	附属病院	竹安 優貴	助 教	呼吸器腫瘍	日本内科学会認定内科医 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 日本緩和医療学会認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
指導医	総合医療センター	本津 茂人	診療教授	肺がん 呼吸器疾患	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医 がん治療認定医、日本肺癌学会暫定指導医
指導医	香里病院	延山 誠一	准教授	呼吸器	日本内科学会指導医・認定医 日本呼吸器学会専門医・認定医 日本呼吸器内視鏡学会指導医・専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 ICD(インフェクションコントロールドクター) 肺がんCT検診機構認定医 American College of Chest Physicians Fellow(FCCP)

心療内科

心療内科は、内科領域の疾患の診断や治療において、心理社会的因子に積極的に配慮して、全人的なアプローチを行う科です。臓器別ではない幅広い疾患に対して診療を行いますが、特に治療困難な器質的・機能的疾患や慢性疼痛の患者さんの診療を行っています。心理社会面に対する理解が大変重要であり、同様なアプローチを行う総合診療科、緩和ケアセンターと連携して質の高い全人的医療を提供しています。

病を通して人を診る
世界的に希少で
先進的な診療科です

心療内科学講座とは

- 心療内科学講座は内科系講座の一つであり、内科系疾患のうちストレスなどの心理社会的な因子が濃厚に関与する病態を対象に、診療、研究、教育を行います。対象となる病態は臓器別ではなく、幅広い疾患が対象となります。
- 本学の心療内科学講座は平成5年に第一内科内複合講座として誕生、以来30年というまだまだ若い講座です。診療科としては平成6年附属滝井病院(現総合医療センター)に心療内科が開設され、平成22年附属枚方病院(現附属病院)に移動。平成23年に心療内科学講座内診療科として総合診療科が位置付けられたため、全人医療を特色とする両診療科は相互に密な交流を持つことができ、心療内科の専攻医は、研修期間中に総合診療の外来研修を行い、カンファレンスに参加することができます。
- 平成27年より緩和ケアセンターに医師・心理士を派遣しており、直接介入型の緩和ケアチーム、痛み外来、精神腫瘍外来の研修をうけることができます。
- 痛みセンターとも密に連携しています。

心療内科医　総合診療医　緩和ケア医

心療内科は、臓器や疾患によるSubspecialtyと異なり、心理社会的因子が深く関わっているという病態に対するSubspecialtyです。他の内科でも心理社会面に配慮するのは同じですが、心療内科では、身体面と心理社会面をほぼ均等に考慮して病態を診立て、治療方針を立てます。専門医研修の柱となるのは、このような心身いずれにも偏らない診療態度を醸成することです。身体面では幅広い疾患の基本的な知識や診療能力が、心理面では疾患を得た人の心理理解と基本的心理療法の能力が必要とされ、さらには身体と心理の相互作用を理解できるよう研修がプログラムされています。

年に一度の医局レクリエーション

心療内科研修指導責任者
心療内科学講座 教授

蓮尾 英明

平成15年 関西医科大学 卒業
平成26年 国立がん研究センター東病院 緩和医療科 医員
令和 4 年 関西医科大学 心療内科学講座 教授
主要な専門領域：担癌患者の心身医学的アプローチ

講座サイトはこちら

1 研修の目標

- 心身症の病態の診断ができる。
- 複雑な病態の心身症患者の全人的治療を実施できる。
- 心身症患者に適切な心理療法を実施できる。
- 臨床心理士/公認心理師、看護師を含めた治療チームとして機能することができる。

2 研修修了後に得られる資格

- 内科専門医
- 心療内科専門医(日本心身医学会・日本心療内科学会認定)
- 緩和医療学会専門医資格、慢性疼痛関連各学会等認定資格、希望により産業医資格

3 研修プログラム概要

心療内科では、臨床研修修了後、専攻医として心療内科を含む内科専門研修を3年間(うち1年間は外部病院)行う。専門研修プログラムでの外部病院先として、神戸赤十字病院、堺市立総合医療センター、済生会泉尾病院等の実績があります。3年目終了以降に内科専門医試験を受け、4年目からは心療内科研修を行い、5年目以降に心療内科専門医試験を受ける。心療内科所属中には、心療内科の病棟、外来に加えて、総合診療科での外来研修、緩和ケアセンターでの外来・入院コンサルト研修を行う。

4 研修後の進路

● 大学でスタッフとして臨床、教育、研究に従事 ● 大学院に進学、学位取得を目指す。● 内科のSubspecialty領域研修 ● 近畿圏の基幹病院で、心療内科、総合内科、緩和ケア科勤務(関連施設として、国立病院機構近畿中央呼吸器センター呼吸器内科・心療内科・緩和ケア科、日本赤十字社和歌山医療センター心療内科、堺市立総合医療センター心療内科、神戸赤十字病院心療内科、三菱神戸病院内科・心療内科・緩和ケア科、脳神経リハビリ北大路病院心療内科・緩和ケア内科、南港病院内科・心療内科、日本原病院内科・心療内科等があります。) ● 総合内科、心療内科で個人開業 ● 身体・精神共に配慮できる産業医 ● 身体または精神担当緩和ケア医として勤務など幅広い進路がある。国内留学先として、九州大学心療内科、国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科、国立がん研究センター東病院緩和医療科等があります。

5 評価・支援制度

- 内科専門研修、心療内科専門研修プログラムに沿った研修を実施し、年度ごとに指導責任者と面談、研修達成度を評価、また進路・希望についてヒアリング

6 研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	蓮尾 英明	教　授	心身医学 緩和医療学 精神腫瘍学	日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医 日本消化器病学会専門医 日本緩和医療学会専門医・指導医 心療内科専門医・指導医 日本心身医学会研修指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本サイコオンコロジー学会認定登録精神腫瘍医
指導医	附属病院	西山 順滋	講　師	心身医学 総合診療	日本心身医学会指導医・専門医 日本心療内科学会登録指導医・登録医 総合診療専門研修特任指導医 日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 日本医師会認定産業医
指導医	附属病院	水野 泰行	診療講師	心身医学 慢性疼痛	心療内科専門医 日本心身医学会研修指導医 日本心療内科学会登録指導医 日本内科学会認定医・総合内科専門医 日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医
指導医	附属病院	岡本 敬司	診療講師	心身医学 総合診療	心療内科専門医 日本心療内科学会登録医 日本内科学会認定医 日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医

バイオフィードバック治療の様子

脳神経内科

脳神経内科は、脳、脊髄、末梢神経、筋肉の機能的、器質的障害を対象とする診療科です。疾患としては、脳卒中、神経変性疾患、神経免疫疾患、認知症など多彩です。関西医科大学脳神経内科は、地域の基幹病院として、このように多岐にわたる脳神経疾患の専門的治療を全般的に行う、ジェネラル・ニューロロジストの育成に力を入れています。脳神経系の医師を目指す方はもちろんですが、内科専門医を目指す方も、脳神経内科医療の研修が必須です。私たちは、専攻医の皆さんが、充実した研修ができるようバックアップします。

診察で難病診断に臨む！ 脳神経内科医は医療界のシャーロック・ホームズだ！！

- 急性疾患から慢性疾患まで地域の脳神経患者のニーズに応えます。
- 臨床重視・症例重視の研修で、確かな神経学的診察力が、自然と身につきます。
- 大学病院において脳神経内科が脳血管内治療を行っている全国でも有数の講座です。
- 研修内容は、希望があればテーラーメイドも可能であり、個人の希望・熱意により国内・国外留学も可能です。

脳血管障害、神経変性・免疫疾患の臨床研究を推進

研究テーマ

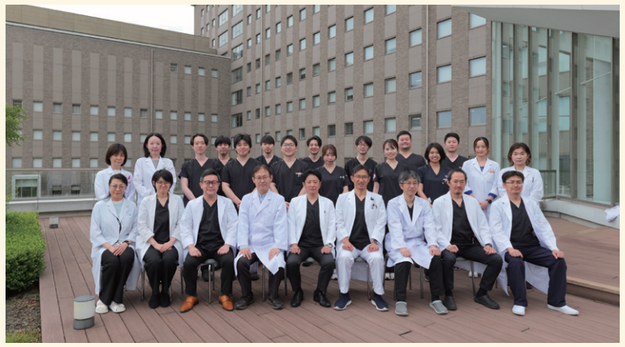
- 脳小血管病の病態解明や超急性期脳梗塞に関する臨床研究
- 神経変性疾患・免疫疾患の臨床・基礎研究
- 脳血管疾患：神経難病の病理学的研究

研修内容

臨床にとって最も重要である、丁寧な病歴聴取と詳細な神経学的診察による高い診断能力を身につけることができます。その他、神経生理検査（筋電図、脳波）や神経画像診断、さらに筋生検、神経生検、神経病理などを学ぶことが可能です。また、脳血管障害に関しては、脳神経血管内治療学会専門医の指導の下で超急性期のカテーテルの研修を行うことができます。

脳血管内治療：超急性期脳梗塞に対するカテーテル治療や頸動脈ステント留置術（CAS）などを実践

Brain cutting：神経難病の病態解明に取り組む



私たちと一緒に脳神経内科を学びましょう

脳神経内科研修指導責任者
神経内科学講座 教授

藥師寺 祐介

平成８年　　佐賀医科大学 卒業
平成14年~17年　国立循環器病研究センター レジデント
平成24年~26年　ロンドン大学 留学
令和２年　　関西医科大学 神経内科学講座 教授
主要な専門領域：臨床神経学、脳卒中学、認知症学

講座サイトはこちら

1 研修の目標

- 神経学的症候や病態の意味を正しく理解し、適切な神経学的所見を取ることができるようになることで、診断が困難な神経疾患を正確に診断する力をつける。
- 幅広い内科全般の症例を経験し、GeneralityとSubspecialtyが調和した臨床力をつける。

2 研修修了後に得られる資格

- 日本内科学会専門医
- 日本脳卒中学会専門医
- 日本神経学会専門医
- 日本認知症学会専門医など

3 研修プログラム概要

	卒後３年目	４年目	５年目	６年目	７年目
研修施設	附属病院、総合医療センターで専門研修		関連病院での専門研修または大学院入学		
学　会	内科学会および神経学会に入会	脳卒中学会・頭痛学会・脳神経血管内治療学会など個々のSubspecialtyに応じて入会		内科学会専門医試験	神経学会専門医試験
研修体制	上級医と１対１の指導体制	独立した主治医として患者を担当（診療チームに上級医が参加・指導）			目指すSubspecialtyに応じた上級医とのチーム診療
研修目標	担当医としての基本的態度の習得	主治医として独り立ち		後進の指導	Subspecialtyの確立
	基本的な疾患の診断と治療の習得				疾患ごとに独力で検査・治療計画を立案
	神経電気生理検査の基本習得		神経電気生理検査の独り立ち		
	脳波判読・MRI画像判読の基本習得		筋生検手技の習得		
	脳血管造影検査の基本的手技習得		脳血管内治療の基本的なstrategyの習得		脳血管内治療の術者

- 日本神経学会 総会・近畿地方会
- 日本内科学会 総会・近畿地方会
- 日本脳卒中学会学術集会
- 日本脳神経血管内治療学会学術集会
- 日本認知症学会など

4 研修後の進路

- 大学院入学
- 国立循環器病研究センター・北野病院・天理よろづ相談所病院・湘南鎌倉総合病院などへの国内留学
- Montefiore Medical Center、Mayo Clinic、University of London、UCLA Medical Centerなどへの海外留学
- 日本神経学会専門医・日本脳卒中学会専門医・日本認知症学会専門医・脳神経血管内治療学会専門医などの取得

5 評価・支援制度

- 年１回以上、研修責任者（教授）との面談が設定され、進路や研修内容について相談の場が設けられる。
- 学会への積極的な発表や参加を支援します。

6 研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	藥師寺 祐介	教　授	脳血管障害 認知症疾患	日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本神経学会専門医・指導医、日本脳卒中学会専門医・指導医 日本認知症学会専門医・指導医
指導医	附属病院	高橋 牧郎	教　授 （神経難病医学講座）	神経変性疾患 認知症疾患 頭痛	日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本神経学会専門医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医 日本脳卒中学会専門医・指導医、日本頭痛学会専門医・指導医 日本老年学会専門医
指導医	附属病院	國枝 武伸	准教授	脳血管障害	日本神経学会専門医・指導医 日本脳卒中学会専門医・指導医 日本脳神経血管内治療学会専門医
指導医	附属病院	三宅 浩介	講　師	脳血管障害	日本神経学会専門医・指導医 日本脳卒中学会専門医 日本脳神経血管内治療学会専門医
指導医	総合医療センター	中村 正孝	准教授	神経変性疾患	日本内科学会総合内科専門医 日本神経学会専門医・指導医 日本神経病理学会認定医・指導医 日本脳卒中学会専門医
指導医	総合医療センター	藤井 ちひろ	准教授	神経免疫疾患	日本内科学会総合内科専門医、日本神経学会専門医・指導医
指導医	総合医療センター	峠 理絵	講　師	パーキンソン病関連疾患 頭痛一般 臨床遺伝学	日本内科学会総合内科専門医 日本神経学会専門医・指導医 日本認知症学会専門医・指導医 日本頭痛学会専門医・指導医 臨床遺伝専門医

関西医科大学外科専門研修プログラム

1 新しい外科専門研修プログラムについて

2018年度から始まった関西医科大学外科専門研修プログラムは、外科学講座、心臓血管外科学講座、呼吸器外科学講座の3講座が連携して作成されていました。2024年度より、外科学講座が、上部消化管外科学講座・下部消化管外科学講座・肝臓外科学講座・胆膵外科学講座・小児外科学講座・乳腺外科学講座の6講座に細分化されましたが、全8講座がひきつづき連携して、研修の指導を行っていきます。将来の進路を決めている方は、従来のようにいずれかの講座に所属（入局）して、他講座の診療科や連携施設をローテートして頂くことが可能です。将来の進路がまだ決まっていない方は、いずれの講座にも所属せずに、8講座の診療科や連携施設をローテートすることも可能です。

2 関西医科大学外科専門研修プログラムの魅力

◎新しい病院、そして新しい手術室で外科研修を受けることが出来ます。

研修の中心となる附属3病院はいずれも新しく、綺麗な環境と最新の設備が整った病院です。
枚方キャンパスには最新の教育・研究設備が整っています。

◎充実した設備のシミュレーションセンターで腕を磨けます。

患者さんにより良い手術を提供するためには、常に手術手技を反復して日々積み重ねていく必要があります。そのためにはシミュレーション実習は有効かつ重要な修練方法です。関西医科大学シミュレーションセンター（枚方キャンパス3階）は、広さ約345㎡、100種類以上の機器を保有しております。最新のロボット手術・内視鏡手術にも対応し、ロボット手術シミュレーターのRobotix Mentor、内視鏡手術シミュレーターのLap Mentor2台、ドライボックス9台を備えています。技術向上により、外科医としてのキャリアアップにもつながり、また、出産、育児などで休職した場合でも、シミュレーション教育により外科医として復帰しやすい環境の提供を目指しています。

◎優れた指導者層

外科の全領域に国内で名の通った一流の外科医がいます。
外科の基礎修練はもちろんですが、最先端の知識と技術を学ぶことが可能です。責任をもって指導します。

3 外科専門研修について

- 3年間の専門研修期間中、基幹施設または連携施設で最低6カ月以上の研修を行います。
- 専門研修の3年間の1年目、2年目、3年目には、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度（コアコンピテンシー）と外科専門研修プログラム整備基準にもとづいた外科専門医に求められる知識・技術の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価して、基本から応用へ、さらに専門医としての実力をつけていくように配慮します。具体的な評価方法は後の項目で示します。
- 外科専門医研修の後、Subspecialty専門医の取得と大学院入学に迷う人が多いです。関西医科大学の外科では、専門研修期間中に大学院へ進むことも可能です。大学院コースを選択して臨床に従事しながら臨床研究を進めるのであればその期間は専門研修期間として扱われます。博士号と専門医の取得を同時に進めることが可能です。
- 外科Subspecialtyの全領域で研修修了後から症例登録が可能となります。関西医科大学ではSubspecialtyの専門医取得を念頭に置いた指導を行います。

関西医科大学外科専門研修プログラム

◎研修例のシェーマ

4 外科専門医取得に必要とされる経験数

- 350例以上の手術手技を経験（NCDに登録されていることが必須）
- 上記のうち術者として120例以上の経験（NCDに登録されていることが必須）
- 臨床研修期間中に外科専門研修基幹施設ないし連携施設で経験した症例（NCDに登録されていることが必須）は、研修プログラム統括責任者が承認すれば、手術症例数に加算できます。

各領域の手術手技または経験の最低症例数	
①消化管および腹部内臓	50例
②乳腺	10例
③呼吸器	10例
④心臓・大血管	10例
⑤末梢血管（頭蓋内血管を除く）	10例
⑥頭頸部・体表・内分泌外科（皮膚、軟部組織、顔面、唾液腺、甲状腺、上皮小体、性腺、副腎など）	10例
⑦小児外科	10例
⑧外傷の修練	10点
①~⑦の分野における内視鏡手術（腹腔鏡・胸腔鏡を含む）	10例

- 関西医科大学外科専門研修プログラムでは、基幹施設である附属病院及び連携施設23施設で研修を行っていただきます。
- 関西医科大学外科専門研修プログラムに申請する年間手術数は約24,000件で、150名を超える指導医を有しています。
- 豊富な症例数をもとに、外科医としての基礎となる総合的な外科医教育システムを提供することができます。

5 外科専門研修プログラム修了後のキャリアプラン

1	関西医科大学外科専門研修プログラムは、原則として卒後2年間の臨床研修を終えた医師を対象に、基幹施設及び連携施設をローテーションしながら外科専門医取得と各専門外科の専門医取得を行う事を目標にしています。
2	外科専門研修プログラムを行っている間に、各診療科でSubspecialty領域専門医取得のための修練を開始します。希望するSubspecialtyが決まっている先生は、より専門的な領域を重点的に行うこともでき、より早期からSubspecialty領域の研修を積むことが可能です。
3	プログラム修了後も、個人の希望に応じてフレキシブルに対応し、大学院に進んで研究をする道や、臨床に重点をおいたより早い段階での専門医や技術認定医の取得など、より良い研修ができるように配慮しています。近年急速に普及しているロボット支援下手術においても、ロボット手術認定指導医のもとで専門医研修を行うことができます。さらに海外への留学制度も充実しており（大学より補助制度あり）、様々なライフプランに合わせた研修を一緒に相談しながら進んでいくことが可能です。
4	大学院への進学希望者には、一般・社会人（臨床勤務を継続）枠があります。原則4年間の大学院博士課程に入学して（入学試験あり）、医学博士号の取得が可能です。科学的思考力を備えたAcademic surgeonとしての道のりの第一歩となり、豊富な経験を有する各講座の指導教官とともに基礎・臨床研究を行います。また欧州での大学院進学の道も用意しています（学費・旅費・滞在費など補助制度あり）。

6 連携施設一覧（2025年12月現在）

- 関西医科大学総合医療センター
- 大阪国際がんセンター
- 宝塚病院
- 交野病院
- 関西医科大学香里病院
- 済生会泉尾病院
- 若草第一病院
- 松下記念病院
- 明和病院
- 八尾市立病院
- 萱島生野病院
- 吉田病院
- 筑波大学
- 地域医療機能推進機構大阪病院
- 大手前病院
- 大阪赤十字病院
- 附属総合南東北病院
- 多根総合病院
- 国立国際医療研究センター病院
- りんくう医療センター
- JA静岡厚生連静岡厚生病院
- 和泉市立総合医療センター
- 市立ひらかた病院

大学院入学希望者へのメッセージ

大学院での研究は、決して医学博士号取得のためだけの研究ではなく、臨床における諸問題を基礎実験にて解明し、治療法へ結び付けていくための必要不可欠な過程です。大学院には、最新鋭の研究設備があり、各講座の研究指導教官や同僚・仲間とともに、研究に没頭できる「時間」と「環境」があります。皆さん、実診療で目の前にある問題点解決のための研究を始め、Academic surgeonの道を一緒に歩みましょう！

外科のInstagram

セミナーやイベントのお知らせの他、リアルな外科医の日常の様子や、プライベートなど随時更新しています。ぜひフォローをお願いします。

上部消化管外科

手術で患者さんの病気を治す。極めてシンプルな命題であり、目の前の患者さんの劇的な変化を実感できるとても素晴らしい診療科です。皆のチームワークは随一で、一緒に楽しく学びながら成長できる外科研修を送ることができます。たった一人で病気に対峙する必要はありません。仲間と一緒に鬼(病気)退治しましょう!

外科の楽しさを感じながら、一緒に成長していきましょう!

豊富な症例で胸腔鏡・腹腔鏡・ロボット手術を学べます

食道がん、胃がんを中心に関西でも有数の症例数を誇り、内視鏡外科学会の技術認定医やロボット手術の認定指導医による指導を受けることができます。高度肥満・糖尿病に対する減量・代謝改善手術も積極的に行っており、新しい外科治療の形を実践しています。また、高難度手術のみならず、腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術も多数行っており、腹腔鏡手術の基本手技をしっかりと学ぶことができます。

他領域との連携

一般・消化器外科医としての知識と技術を学ぶことは外科医としての幅を大きくしてくれます。下部消化管や肝胆膵領域、胸部外科領域などシームレスな連携で、バラエティーに富んだ研修を行うことができます。また、がんセンターや消化器内科と協同して、がんの化学療法や内視鏡検査なども数多く行っており、外科手術のみならず上部消化管疾患に対する幅広い知識を得ることができます。

担当チーム制での診療体制

すべての患者の情報をみんなで共有しながら、効率的に診療していくチーム制を導入するとともに、担当医としても患者さんに対する責任感を養っていく担当チーム制を導入しています。長時間手術では交代制を取ることで集中して手術に参加することが可能になり、修練効果が上がります。

当科で行っている研究

- 食道がんに対するオルガノイドを用いた化学療法、免疫療法の治療効果予測診断
- 食道がん 術前化学療法中新規呼吸リハビリテーション研究
- 術後経腸栄養投与法の最適化研究
- がんとの共生を目指した新規支持療法の確立
- MRIを用いた進行食道がん深達度診断および予後因子探索研究

最後に

外科はしんどい、24時間働いている、そんなイメージがあるのかもしれませんが、決してそんなことはありません。我々は、皆さんのキャリアプラン・人生設計を一緒に考えながら働いていける環境を提供します。当科では3名の女性外科医が活躍し、皆さんと一緒に働けることを心待ちにしております。見学も随時受け入れておりますので、お気軽に当教室までお問合せください。

上部消化管外科研修指導責任者
上部消化管外科学講座 教授

山﨑 誠

平成８年 大阪大学 卒業
平成18年 大阪大学大学院消化器外科 助教
平成27年 大阪大学大学院消化器外科 講師
平成29年 大阪大学大学院消化器外科 准教授
令和３年 関西医科大学 外科学講座 准教授
令和６年 関西医科大学 上部消化管外科学講座 教授
主要な専門領域:食道癌、胃癌

講座サイトはこちら

上部消化管外科 診療教授

井上 健太郎

平成５年 関西医科大学 卒業
平成18年 関西医科大学 外科 助教
平成24年 同 外科 講師
平成26年 同 外科 准教授
令和２年 関西医科大学 附属病院 病院教授
令和３年 関西医科大学 外科学講座 上部消化管外科 診療教授
主要な専門領域:胃がん手術、減量・代謝改善手術

上部消化管外科学講座で胃の手術を担当しています。胃がんやGISTだけでなく、肥満や糖尿病などに対する減量・代謝改善手術も行っています。関西医科大学には国内でもTopクラスのシミュレーションセンターがあります。一緒に練習して、アスリートのように人を感動させる技を身につけましょう!

1 研修の目標

- 医師として必要な協調性・責任感を習得する。
- 上部消化管外科全般について最新の知識と診療技術を習得し、専門医として医療に貢献できるスキルを身につける。
- 現在の医療に満足しない未来志向のリサーチマインドを身につける。

2 研修修了後に得られる資格

- 外科専門医
- 消化器外科専門医
- 内視鏡外科技術認定医
- 食道外科専門医

3 研修プログラム概要

卒後3年目~5年目までの3年間に附属病院と連携施設による外科専門医プログラムを構成しています。大学病院だけでなく、国公私立の様々な病院での研修が可能です。3年間での外科専門医はもちろんのこと、消化器外科専門医に必要な手術症例の経験や論文執筆指導を行います。

4 研修後の進路

- 臨床経験をさらに積みたい先生は、大学附属病院、関連病院で上部消化管外科・一般外科の専門医として臨床経験を積んでいただきます。
- 臨床的疑問点を解決したいという思いが出た時には、大学院生や社会人大学院生(臨床医として働きながら)として、基礎・臨床研究を行うことができます。その中で医学博士号を取得することも可能です。
- 個々のキャリアプランに応じた、臨床・研究・教育実績を積んでいくことが可能です。

5 評価・支援制度

- 外科及び消化器外科専門医研修プログラムに沿って臨床経験を評価していきます。
- 定期的に研修責任者と面談を行い、研修内容の相談や今後の進路について協議します。

6 研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	山﨑 誠	教　授	食道 上部消化管	日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医(食道)、日本食道学会食道科認定医 食道外科専門医、ロボット支援手術認定プロクター(指導医)
指導医	附属病院	井上 健太郎	診療教授	胃 上部消化管 肥満症 糖尿病	日本外科学会指導医・専門医 日本消化器外科学会指導医・専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医(胃) ロボット(da Vinci/hinotori)術者資格医
指導医	附属病院	佐藤 琢爾	助　教	上部消化管 食道	日本外科学会専門医、消化器外科学会指導医・専門医 食道外科専門医、内視鏡外科学会技術認定医(食道) ロボット(da Vinci/hinotori)術者資格医
指導医	附属病院	小塚 雅也	助　教	上部消化管	日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会専門医 日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化管学会指導医・専門医 日本肝臓学会肝臓専門医、ロボット(da Vinci)術者資格医
指導医	附属病院	橋本 祐希	助　教	上部消化管、ヘルニア	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、内視鏡外科認定医(胃) ロボット(da Vinci/hinotori)術者資格医
指導医	附属病院	張野 誉史	助　教	上部消化管	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、内視鏡外科認定医(食道) 食道科認定医、ロボット(da Vinci/hinotori)術者資格医
指導医	附属病院	山本 宣之	病院助教	上部消化管	日本外科学会専門医、ロボット(da Vinci)術者資格医
指導医	附属病院	國府田 華子	病院助教	上部消化管	日本外科学会専門医、ロボット(da Vinci)術者資格医
指導医	附属病院	俊山 聖史	病院助教	上部消化管	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医 ロボット(da Vinci)術者資格医
指導医	総合医療センター	齊藤 卓也	准教授	上部消化管 腹部ヘルニア 高度肥満症	日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医、日本食道学会食道科認定医 ロボット支援手術認定プロクター(指導医)
指導医	総合医療センター	向出 裕美	診療講師	上部消化管	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医
指導医	香里病院	坂口 達馬	助　教	上部消化管	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医

手術室集合写真

学会

下部消化管外科

豊富な症例数とチーム医療で世界最高水準の低侵襲手術を極めよう！

下部消化管外科では大腸がん診療を中心に、救急疾患とその周術期全身管理、周術期の化学療法、放射線治療、消化器内視鏡など手術だけでなく幅広いがん治療を行っています。また、手術治療では腹腔鏡手術、ロボット手術といった低侵襲治療に積極的に取り組んでいます。当科の専門研修の特徴は、多くの手術件数と、経験豊富な指導医のもとで研修早期から腹腔鏡手術・ロボット手術を経験することが可能であり、効率的に日本内視鏡外科学会技術認定医、日本内視鏡外科学会ロボット支援手術プロクターなどの専門医資格を取得することを目指します。熱意のある外科医のキャリア形成を全力でサポートいたします。

下部消化管外科研修指導責任者
下部消化管外科学講座 教授

渡邉 純

平成13年 横浜市立大学 卒業
平成22年 横浜市立大学博士(医学)学位取得
平成18年 理化学研究所ゲノム科学総合研究センター 客員研究員
平成23年 横浜市立大学医学部 消化器・腫瘍外科 助教
平成28年 国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院 外科副部長
平成29年 横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター外科 講師
令和３年 横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター外科 准教授
令和６年 関西医科大学 下部消化管外科学講座 教授
主要な専門領域:大腸がんの治療、ロボット手術、腹腔鏡手術

講座サイトはこちら

圧倒的手術件数と、経験豊富な指導医のもとで世界最高水準の手術を学べます。

当教室について

下部消化管外科は小腸・大腸に発生する疾患を扱う診療科です。救急疾患からがんに対する手術を中心に診療を行なっています。

取り扱う疾患

- 悪性腫瘍(大腸がん、小腸がん、GIST、神経内分泌腫瘍など)、救急疾患(虫垂炎、憩室炎、腸閉塞、腸管穿孔など)、炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)、直腸脱、肛門疾患など。
- 下部消化管外科は守備範囲の広い科です。周術期の化学療法、放射線治療、消化器内視鏡など手術だけでなく幅広いがん治療の技術が習得可能です。さらに、救急疾患の診断から手術手技と周術期全身管理に関しても広く経験を積むことが可能です。

当教室での研修の利点

- 豊富な手術件数と指導力で腹腔鏡手術やロボット手術の手術手技を取得することが可能です。
- 日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医などの専門医取得を全力でサポートします。
- 日本消化器外科学会専門医取得2年後に取得可能な日本内視鏡外科学会技術認定医(全国合格率30%)の最短取得を目指します。
- 研修早期からロボットcertificationの取得していただき、最短でのロボット手術プロクター(指導医)の取得を目指します。

大腸がんに対するロボット手術

経験豊富な指導医

1 研修の目標

- 医師として必須の基本的診察能力、基本的外科技術の習得
- 下部消化管外科領域の専門的診察能力を習得すること
- 患者に信頼され、標準的な治療から最先端の治療にいたるまで、安全で確実に提供することにより、地域の医療に貢献し、責任の持てる下部消化管外科専門医となること

2 研修修了後に得られる資格

- 日本外科学会専門医
- 日本消化器外科学会専門医
- 日本消化器内視鏡学会専門医
- 日本大腸肛門病学会専門医
- 日本消化器病学会専門医
- 日本内視鏡外科学会技術認定医
- 日本内視鏡外科学会ロボット支援手術プロクター
- 日本ロボット外科学会専門医

3 研修プログラム概要

附属病院と連携23施設により研修プログラムを構成しています。

4 研修後の進路

- 大学附属病院または関連施設で研修し、日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本大腸肛門病学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本内視鏡外科学会ロボット支援手術プロクター、日本ロボット外科学会専門医を取得することが可能です。
- 大学院や社会人大学院制度を利用し、基礎または臨床研究を行い、医学博士号を取得することが可能です。
- 高度医療人育成制度により国内・国外留学をすることが可能です。

5 評価・支援制度

- 研修1年目では、基本的診察能力および、外科基本知識と技能の習得を目標とします。ロボットのcertificationを取得し、研修早期から腹腔鏡手術・ロボット手術の術者をパートに分けて執刀してもらいます。定期的に開催されるビデオカンファレンス、症例検討会、セミナーに参加し、専門知識・技能の向上習得を図ります。
- 研修2年目では、基本的診察能力、技術の向上に加え、技術面では下部消化管標準手術執刀の完投を目指します。さらに学会などの上級演題採択を目指し、論文作成も行います。
- 研修3年目では、チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導に参画し、リーダーシップを発揮する。技術面では、高難易度手術の助手、部分執刀を始める。より難易度の高い下部消化管疾患への対応する力量を養うことを目標とします。

6 研修指導医

本プログラムでは10名の下部消化管領域の専門研修指導医が指導をします。

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	渡邉 純	教　授	下部消化管外科 内視鏡外科 ロボット手術 大腸癌の治療 直腸癌に対する肛門温存化学療法 集学的治療 肛門疾患	医学博士、日本外科学会認定医・指導医・専門医、日本消化器外科学会評議員・指導医・専門医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、日本消化器病学会専門医・指導医 日本大腸肛門病学会評議員・指導医・専門医、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医(大腸)、日本内視鏡外科学会評議員 日本臨床外科学会評議員、日本がん治療認定医機構がん治療認定医 米国消化器内視鏡外科学会 Fundamental Use of Surgical Energy (FUSE) 資格取得 欧州大腸肛門病学会(ESCP) Member of Global Reach Committee Certificate of da Vinci System Training As a Console Surgeon Certificate of hinotori Surgical Robot System Training As a Cockpit Surgeon 日本ロボット外科学会 Robo-Doc Pilot認定(国内B級) 日本内視鏡外科学会ロボット支援手術認定プロクター(直腸/結腸) da Vinci Mentor for Colorectal Resection、hinotori Mentor for Colorectal Resection
指導医	附属病院	諏訪 雄亮	准教授	下部消化管外科 内視鏡外科 ロボット手術 癌化学療法	日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会評議員・指導医・専門医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、日本大腸肛門病学会評議員・指導医・専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医(大腸)、日本内視鏡外科学会評議員、日本がん治療認定医機構がん治療認定医 Certificate of da Vinci System Training As a Console Surgeon、日本腹部救急医学会評議員 日本内視鏡外科学会ロボット支援手術認定プロクター(大腸)、身体障害者福祉法第15条指定医(膀胱又は直腸機能障害) 日本ロボット外科学会国内A級
指導医	附属病院	萩原 千恵	講　師	下部消化管外科 内視鏡外科 ロボット手術	日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医 日本大腸肛門病学会大腸肛門病専門医 日本内視鏡外科学会ロボット支援手術プロクター(消化器・一般外科、大腸/da Vinci、hinotori) 日本内視鏡外科学会技術認定(消化器・一般外科、大腸) Intuitive Surgical社da Vinci手術のCertificate取得者(Console/Patient-side Surgeon) 日本内視鏡外科学会hinotori手術のCertificate取得者(Cockpit Surgeon) 厚生労働省がん診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会修了,厚生労働省 医師の臨床研修に係る指導医講習会修了
指導医	附属病院	五十嵐 優人	助　教	下部消化管外科 内視鏡外科 ロボット手術	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 日本内視鏡外科学会技術認定医(消化器・一般外科)、日本内視鏡外科学会ロボット支援手術プロクター(結腸/直腸) Certificate of da Vinci Console Surgeon(執刀資格) Certificate of hinotori Surgical Robot System Training As a Cockpit Surgeon 日本移植学会移植認定医、Hugo RAS System Certificate of Technical Training
指導医	附属病院	森 至弘	助　教	下部消化管外科 内視鏡外科 ロボット手術	日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医(消化器・一般外科) 日本内視鏡外科学会評議員、日本消化管学会胃腸科専門医・指導医、日本消化器病学会消化器病専門医・指導医 日本肝臓学会認定肝臓専門医・指導医、日本乳癌学会乳腺認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医、日本化学療法学会インフェクションコントロールドクター(ICD) 日本外科感染症学会外科周術期感染管理認定医・教育医 Certificate of hinotori Surgical Robot System Training As a Cockpit Surgeon
指導医	総合医療センター	福長 洋介	理事長特任教授	下部消化管外科 内視鏡外科 ロボット手術 大腸癌の治療 直腸癌に対する肛門温存	日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医 日本消化器病学会指導医・専門医、日本大腸肛門病学会指導医・専門医 日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化管学会専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医 日本内視鏡外科学会ロボット支援手術プロクター(消化器・一般外科)
指導医	総合医療センター	三城 弥範	診療講師	下部消化管外科 内視鏡外科 ロボット手術	日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医(大腸) 日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医、Certificate of da Vinci Console Surgeon
指導医	香里病院	吉田 良	准教授	一般消化器外科 下部消化管外科 緩和医療	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、消化器がん外科治療認定医 日本大腸肛門病学会指導医・専門医、外科感染症学会インフェクションコントロールドクター(ICD) 日本がん治療認定医機構がん治療認定医(指導責任者)、検診マンモグラフィ読影認定医、日本医師会認定産業医
指導医	香里病院	岩本 慈能	講　師	下部消化管外科	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本大腸肛門病学会指導医・専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医
指導医	香里病院	小林 壽範	講　師	下部消化管外科 内視鏡外科	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 日本内視鏡外科学会技術認定医(大腸)

肝 臓 外 科

肝臓外科では低侵襲なロボット支援下手術や腹腔鏡手術から、超高難度手術とされる拡大肝切除術に伴った血管合併切除及び再建術を積極的に取り組んでおり、徹底した癌根治手術を追及しています。研修では、これらを実践する高度な知識、技術の習得とともに、高い専門性をもって国内外を問わず活躍できる医師の育成、症例発表を始めとする臨床研究および基礎研究まで希望に応じて教育していきます。患者に信頼される優れた肝臓外科医の育成を目指します。

肝臓外科研修指導責任者
肝臓外科学講座 教授
海堀 昌樹

平成３年 関西医科大学 卒業
平成９年 京都大学 移植外科 国内留学
平成13年 関西医科大学 外科 助手
平成21年 同 外科 講師
平成25年 同 外科 准教授
平成30年 同 外科学講座 肝臓外科診療教授
　　次世代低侵襲外科治療学講座 併任教授
令和２年 同 サージカルサイエンス社会連携講座 併任教授
令和６年 同 肝臓外科学講座 教授
主要な専門領域：肝臓胆道外科、肝移植外科

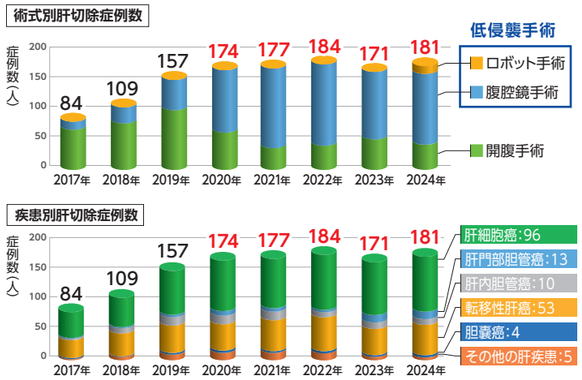
講座サイトはこちら

患者中心の医療を実践する「基礎臨床一体型」のプロフェッショナリズムを目指す

全国２番目に多い手術数に裏付けられた信頼

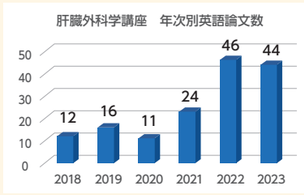
附属病院肝臓外科では令和４年にはこれまでに引き続き、西日本1位（全国２位）となる176例の手術を行ってきました。ロボット支援下手術、腹腔鏡下手術などの低侵襲手術から、超高難度の肝門部領域胆管癌手術まで幅広く手術を実施しており、豊富な手術件数と充実した指導医の元で、ロボット支援下手術、腹腔鏡下手術、及び開腹手術の手術手技を修得する事ができます。高い技術のみならず、心の通った外科医を育成致します。

当診療科での最近の肝切除術数および成績の推移



高いエビデンスレベルの研究成果を広く国内外に発信

肝細胞癌及び胆道癌に関するエビデンスレベルの高い基礎研究並びに臨床研究を実施しており、国内外の学会において研究成果を発信し、年間40本以上の英語論文をpublishしています。論文作成や学会発表に必要な研究倫理、解析手法を修得する事ができます。



- 国際共同研究として肝細胞癌に対する肝切除後の予後予測因子の検討や、切除不能肝細胞癌に対する免疫チェックポイント阻害薬を用いた薬物療法と、その後のコンバージョン手術に関する検討を実施している他、肝細胞癌の早期発見と予後予測のためのバイオマーカーの検討、胆道癌に対する免疫チェックポイント阻害薬の効果に関する多施設共同研究
- サルコペニア合併慢性肝疾患患者を対象とした電気刺激装置を用いた在宅リハビリテーションによる下肢運動機能改善効果の検討
- 新型コロナウイルス感染流行が肝癌診療へ及ぼす影響に関する多機関観察研究
- 肝細胞癌肝切除術における周術期因子を用いた予後予測の検討

集合写真

1 研修の目標

- 医師として必要な基本的診療能力を習得すること
- 肝臓外科領域の専門的診療能力を習得すること
- 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる肝臓外科専門医となること

2 研修修了後に得られる資格

- 外科専門医
- 消化器外科専門医
- 内視鏡外科技術認定医
- 肝胆膵外科高度技能専門医
- 肝臓専門医

3 研修プログラム概要

附属病院と連携23施設により研修プログラムを構成しています。肝臓外科領域は附属病院、総合医療センターにて研修することが可能です。

4 研修後の進路

- 大学附属病院または連携施設で研修し、外科学会専門医、消化器外科専門医、内視鏡外科技術認定医、肝胆膵外科高度技能専門医、肝臓外科専門医などを取得することが可能です。
- 大学院や社会人大学院制度を利用し、基礎または臨床研究を行い、医学博士号を取得することが可能です。
- 高度医療人育成制度により国内・国外留学をすることが可能です。

5 評価・支援制度

- 研修1年目では、基本的診療能力および外科基本的知識と技能の習得を目標とします。低難度の手術を執刀して頂く他、ロボット支援下手術のトレーニングを受けてロボット支援下手術の助手certificationを取得して頂きます。専攻医は定期的に開催されるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催のセミナーに参加、e-learningや書籍や論文などの通読、手術ビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の習得を図ります。
- 研修2年目では、基本的診療能力の向上に加えて、外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。中難度の手術を執刀して頂く他、ロボット支援下手術のトレーニングを受けてロボット支援下手術の術者certificationを取得して頂きます。専攻医はさらに学会・研究会への参加などを通して専門知識・技能の習得を図ります。
- 研修3年目では、チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮して、肝臓外科の実践的知識・技能の習得により様々な肝臓外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。

6 研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	海堀 昌樹	教　授	肝臓外科 胆道外科	日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本肝臓学会専門医・指導医 日本肝胆膵外科学会高度技能指導医
指導医	附属病院	松井 康輔	准教授	肝臓外科 胆道外科	日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本肝胆膵外科学会高度技能専門医
指導医	附属病院	山本 栄和	講　師	肝臓外科 移植外科	日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医
指導医	附属病院	小坂 久	講　師	肝胆膵外科 移植外科	日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本膵臓学会指導医
指導医	附属病院	木口 剛造	講　師	肝胆膵外科 脾臓外科 後腹膜腫瘍	日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医 日本肝臓学会専門医 日本肝胆膵外科学会高度技能専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本肝胆膵外科学会／日本内視鏡外科学会認定 ロボット支援膵切除プロクター （膵頭十二指腸切除）（膵体尾部切除） （肝部分切除及び外側区域切除）（亜区域切除以上）
指導医	附属病院	松島 英之	病院講師	肝胆膵外科	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医
指導医	附属病院	吉川 潤一	助　教	肝胆膵外科 移植外科	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医・指導医 ECFMG certificate
指導医	総合医療センター	石崎 守彦	病院講師	肝胆膵外科	日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本肝臓学会専門医・指導医 日本肝胆膵外科学会高度技能専門医

胆膵外科

胆膵外科は高難度手術が多いのが特徴です。幅広く消化管から実質臓器の切除や血管合併切除が必要なことが多く、胆膵手術における手術手技（腹腔鏡手術含む）や周術期管理、集学的治療、緩和療法などを学んでいただきます。積極的に多施設共同研究を行っており、学術活動を奨励しています。世界の一流施設と連携しており、国際活動も活発です。世界に通用する胆膵外科医を育成します。

胆膵外科研修指導責任者
胆膵外科学講座 教授
里井 壯平

平成３年 関西医科大学 卒業
平成15年 関西医科大学 外科 助手
平成25年 同 外科 准教授
平成27年 東京医科大学 消化器・小児外科学講座 客員教授
平成30年 関西医科大学 外科学講座 胆膵外科診療教授
令和元年 コロラド大学 腫瘍外科学 客員教授
令和６年 関西医科大学 胆膵外科学講座 教授
主要な専門領域：胆膵外科、腫瘍外科

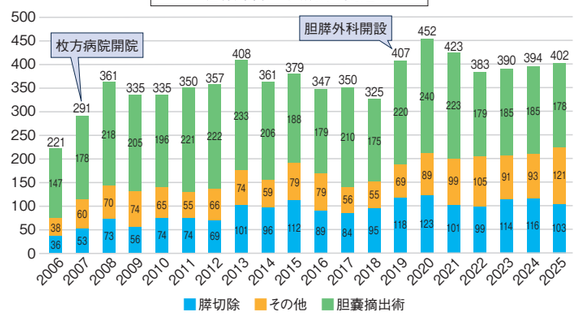
講座サイトはこちら

あなたが主人公
高難度手術への挑戦

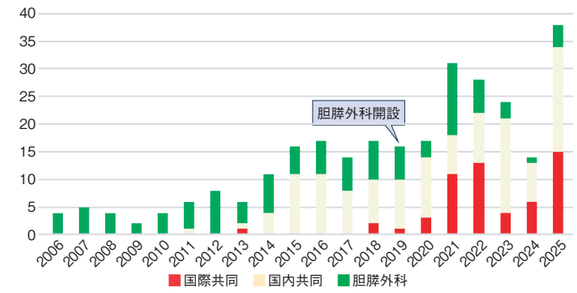
はじめに

胆膵外科は、外科専門医・消化器外科専門医取得を経てさらなる研鑽を求める外科医とともに、消化器外科手術の極みとなる専門領域と考えています。肝胆膵外科高度技能専門医の取得を目指して研修を提供するとともに、臨床・基礎研究を通じて科学的な思考力を有する外科医を育てることを目的の一つとしています。Innovation and Sustainable Growthというポリシーで、日々の臨床の疑問点を抽出し積極的に介入して合併症を低減し、治療効果を高めて、安心・安全・満足度の高い外科医療を提供しています。外科医の働き方改革を常に意識してチーム医療を行っています。

胆膵外科　手術数の変遷



胆膵外科年間英語論文数の推移



当科における進行中の臨床・基礎研究 抜粋（47件）

主任研究者

1. 腹膜播種に対する第III相RCT
2. 腹膜播種患者の二次化学療法
3. 機能性食品の膵癌集学的治療に与える影響を検証する二重盲検下RCT
4. 切除不能膵癌に対する機能性食品が予後や腸内細菌叢に与える影響を調査する第II相試験
5. IPMNに対する切除時の残膵病変を調査する前向きコホート研究（日本代表）
6. COVID-Surg study group（日本代表）
7. PARANOIA study group（日本代表）
8. Pancreas.Org study group（日本代表）
9. Italian Pancreas study group（日本代表）
10. French NET study group（日本代表）

共同研究者

1. PREP-02/JSAP-05（RCT）
2. JASPAC-04（RCT）
3. MAPLE-PD（RCT）
4. PLANET-trial（Japan-Korea RCT）
5. TLP0-001（RCT using immunotherapy, RCT）
6. COSMOS-PC（prospective study for liquid Bx）
7. JCOG（肝胆膵：本学代表）
8. NCD study（COVID, 高齢者）
9. 日本膵臓学会プロジェクト研究（委員長）
10. 日本肝胆膵外科学会プロジェクト研究
11. 日本膵切研究会プロジェクト研究

RCT, randomized clinical trial; 無作為化比較試験
NCD, national clinical database

1 研修の目標

- 医師として必要な基本的診療能力を習得すること
- 胆膵外科領域の専門的診療能力を習得すること
- 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる胆膵外科専門医となること

2 研修修了後に得られる資格

- 外科専門医
- 消化器外科専門医
- 内視鏡外科技術認定医
- 肝胆膵外科高度技能専門医

3 研修プログラム概要

附属病院と連携23施設により研修プログラムを構成しています。胆膵外科領域は附属病院、総合医療センターにて研修することが可能です。

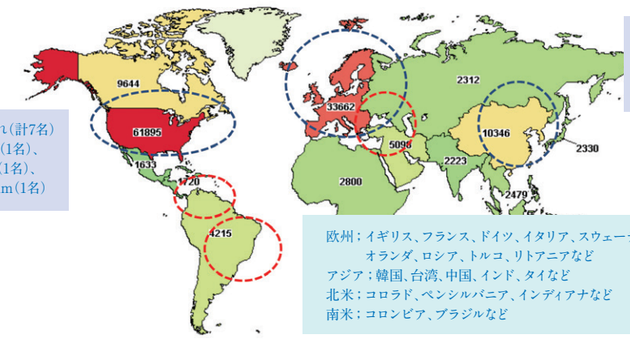
4 研修後の進路

- 大学附属病院または連携施設で研修し、外科学会専門医、消化器外科専門医、内視鏡外科技術認定医、胆膵外科高度技能専門医などを取得することが可能です。
- 大学院や社会人大学院制度を利用し、基礎または臨床研究を行い、医学博士号を取得することが可能です。
- 高度医療人育成制度により国内・国外留学をすることが可能です。

5 評価・支援制度

- 研修1年目では、基本的診療能力および外科基本的知識と技能の習得を目標とします。専攻医は定期的に開催されるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催のセミナーに参加、e-learningや書籍や論文などの通読、手術ビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の習得を図ります。
- 研修2年目では、基本的診療能力の向上に加えて、外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。専攻医はさらに学会・研究会への参加などを通して専門知識・技能の習得を図ります。
- 研修3年目では、チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮して、胆膵外科の実践的知識・技能の習得により様々な胆膵外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。

国際交流を通じた卒前後教育の充実



海外からの留学を受け入れ（計7名）
Germany（2名）、India（1名）、
Russia（1名）、Turkey（1名）、
Lithuania（1名）、Vietnam（1名）

日本からの留学を橋渡し（計33名）
関西医科大学（2名＋医学生24名）、
東北大学、京都大学、
北海道大学（2名）、東京医科歯科大学

欧州：イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、スウェーデン、オランダ、ロシア、トルコ、リトアニアなど
アジア：韓国、台湾、中国、インド、タイなど
北米：コロラド、ペンシルバニア、インディアナなど
南米：コロンビア、ブラジルなど

6 研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	里井 壯平	教　授	胆膵外科	日本外科学会外科専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医 日本膵臓学会指導医、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医
指導医	附属病院	橋本 大輔	准教授	胆膵外科	日本外科学会外科専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医 日本膵臓学会指導医、日本肝胆膵外科学会高度技能専門医
指導医	附属病院	山木 壮	診療講師	胆膵外科	日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会専門医 日本肝胆膵外科学会高度技能専門医
指導医	附属病院	石田 啓之	診療講師	胆膵外科	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医 日本肝胆膵外科学会高度技能専門医
指導医	附属病院	三井 哲史	助　教	胆膵外科	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医
指導医	総合医療センター	北出 浩章	准教授	胆膵外科	日本肝胆膵外科学会高度技能指導医、日本外科学会指導医・専門医 日本消化器外科学会指導医・専門医
指導医	総合医療センター	中竹 利知	助　教	胆膵外科	日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医 消化器がん外科治療認定医、日本肝臓学会専門医・指導医
指導医	総合医療センター	松村 和季	助　教	胆膵外科	日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会専門医

小児外科

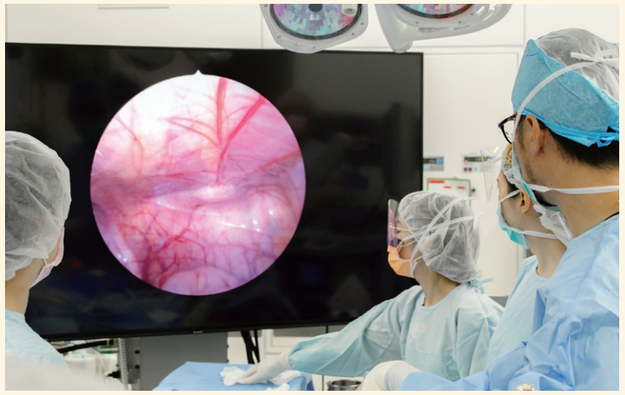
高精細な8K大画面モニターで
最先端の小児内視鏡外科手術を
より直感的に、わかりやすく学べます!

関西医科大学小児外科は国内屈指の小児手術症例数を誇り、高精細8K内視鏡外科システムによる、最先端の小児外科医療を行っている診療科です。また本学の外科系診療科の中では、とくに若手女性医師が多く活躍しており、オンオフのメリハリのある、明るい仕事環境も特長の1つです。診療としては新生児期から思春期までの、多岐にわたる臓器(体表、呼吸器、消化管、肝胆膵、泌尿生殖器など)を対象としています。当科での3年間の専門研修プログラムでは、外科専門医および小児外科専門医を取得するために必要な知識と技術、そして豊富な手術経験を積むことが可能です。最短で卒後6年で外科専門医取得、卒後8年で小児外科専門医取得が可能です。成人外科とはまた違った魅力のある小児外科専門研修プログラムを通して、先天性疾患をかかえる子供達を手術で助けることができる小児外科医療の素晴らしさを学び、将来の自身の武器になるSubspecialtyを獲得しましょう!

小児外科研修指導責任者
小児外科学講座　教授
土井 崇

平成14年 順天堂大学 卒業
平成18年 順天堂大学大学院博士課程 修了
平成19年 順天堂大学小児外科 助教
平成24年 Dublin大学大学院PhD課程 修了
順天堂大学小児外科 准教授
平成29年 関西医科大学外科学講座 小児外科診療教授
令和６年 関西医科大学小児外科学講座 教授
主要な専門領域:小児外科全般、新生児外科
低侵襲小児内視鏡外科

講座サイトはこちら



超高精細の70インチ大型モニターを用いた、繊細な低侵襲"機能温存"内視鏡外科手術

国内トップレベルのシミュレーションセンターで小児内視鏡外科手術に必要な技術を丁寧に指導

小児外科診療で最も大切な、ICでの患児の御両親との信頼関係構築を習得できます。

1 研修の目標

- 医師として必要な基本的診療能力を習得すること
- 小児外科領域の専門的診療能力を習得すること
- 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる小児外科専門医となること

2 研修修了後に得られる資格

- 外科専門医
- 小児外科専門医
- 内視鏡外科技術認定医

3 研修プログラム概要

附属病院と連携23施設により研修プログラムを構成しています。小児外科領域は附属病院にて研修することが可能です。

4 研修後の進路

- 大学附属病院または連携施設で研修し、外科学会専門医、小児外科専門医、内視鏡外科技術認定医などを取得することが可能です。
- 大学院や社会人大学院制度を利用し、基礎または臨床研究を行い、医学博士号を取得することが可能です。
- 高度医療人育成制度により国内・国外留学をすることが可能です。

5 評価・支援制度

- 研修1年目では、基本的診療能力および外科基本的知識と技能の習得を目標とします。専攻医は定期的に開催されるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催のセミナーの参加、e-learningや書籍や論文などの通読、手術ビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の習得を図ります。
- 研修2年目では、基本的診療能力の向上に加えて、外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。専攻医はさらに学会・研究会への参加などを通して専門知識・技能の習得を図ります。
- 研修3年目では、チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮して、小児外科の実践的知識・技能の習得により様々な小児外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。

6 研修指導医

本プログラムでは3名の小児外科領域の専門研修指導医が専攻医を指導します。

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	土井 崇	教　授	小児外科	日本外科学会指導医・専門医、日本小児外科学会指導医・専門医
指導医	附属病院	中村 弘樹	准教授	小児外科	日本外科学会専門医、日本小児外科学会専門医・指導医
指導医	附属病院	佐竹 良亮	助　教	小児外科	日本外科学会専門医

女性医師が多く、明るく働きやすい環境で、日本トップレベルの小児外科医としてのキャリアを形成できます。

乳腺外科

乳がんは女性のがんで最も多く罹患率は年々上昇しています。このため、乳腺外科学は社会的ニーズの非常に高い分野です。乳がん診療は集学的治療を基本とするため、乳腺外科医には手術療法だけではなく、診断や薬物療法などを含めた幅広い知識が求められます。乳腺外科専門医を目指すには、まずは外科専門医の取得が必要であり、他の外科系講座と共同で専門研修プログラムを整えています。卒後4年目からは日本乳癌学会の乳腺外科専門医研修カリキュラムとの連動研修を開始し、乳がん診療を中心とした研修により効率的に専門医の取得を目指します。当科には多くの乳腺指導医が在籍しており、充実した研修を受けることができます。国内外の学会発表や論文発表の機会もあります。専門医取得後は、さらに臨床経験を積むことはもちろん、大学院への進学や国内外の施設への留学など、キャリアの幅を広げることができます。乳腺外科医としての知識や技術を高め、国内外で活躍するためのさまざまな道を用意しています。

乳腺外科研修指導責任者
乳腺外科学講座 教授
髙田 正泰

平成12年 北海道大学 卒業
ハーバード大学病院、ソウル大学病院、
クリーブランドクリニックなどで研修
令和３年 京都大学大学院医学研究科
乳腺外科学講座 准教授
令和６年 関西医科大学 乳腺外科学講座 教授
主要な専門領域：乳癌、手術療法、薬物療法

講座サイトはこちら

乳腺外科医
外科の枠を超えた
乳腺腫瘍のエキスパート

当教室について

- 乳腺診療を担う幅広い知識と技術を有し、グローバルに活躍できる人材を育成します。
- 地域の基幹病院としての役割を担いつつ、乳がん患者さんの生命を守り、QOLを向上させるエビデンスを創出し世界に発信します。

教育プログラムについて

- 乳がん診療には、手術療法、画像診断、病理組織診断、薬物療法、放射線療法、乳房再建、遺伝子診療、緩和ケアなどに関する幅広い知識が必要であり、関連する講座や部門との連携を通じて、乳腺腫瘍学の専門家を育成します。
- マンモグラフィーや超音波の読影能力を養うため、実際の症例データと教育ツールを使用したトレーニングにより読影認定資格を取得します。
- ほとんどの手術に助手または執刀医として参加し、指導医からの適切なフィードバックを通じて手術手技の向上を目指します。
- 診療カンファレンスは、集学的治療を学ぶ大変重要な機会です。症例提示や診療方針の提案を通じて、チーム医療における役割を理解し、エビデンスの活用について学びます。
- 乳がん患者とその家族への包括的なケアは、QOLの向上に欠かせません。主に入院患者を通じて、患者と家族の意思決定支援の方法を学びます。

研究について

- 当科では、国際共同治験や国内臨床研究グループと連携した臨床研究、トランスレーショナル研究を積極的に行っています。
- 最新の身体活動モニタリング研究や乳がん発生リスク因子に関する基礎研究、コホート研究など、学内外の施設と協力して進めています。
- 専門研修期間中に国内外の学会発表や論文発表を行う機会を提供します。

キャリア形成を柔軟に支援します

当教室は、ライフイベントに合わせたキャリア形成を支援すべく柔軟に対応します。
見学は随時受け入れていますのでお気軽に問合せください。

総合医療センター　診療教授
木川　雄一郎

平成12年 岡山大学 卒業
同年 神戸市立医療センター中央市民病院 外科研修医
平成24年 神戸市立医療センター中央市民病院 乳腺外科
令和２年 関西医科大学附属病院 乳腺外科 助教
令和６年 関西医科大学乳腺外科学講座 講師
令和７年 関西医科大学総合医療センター 乳腺外科 准教授
令和８年 関西医科大学総合医療センター 乳腺外科 診療教授
主要な専門領域：乳癌、手術療法、薬物・支持療法

乳腺外科は、手術だけでなく薬物療法や画像診断、遺伝、QOLまで幅広く学べる、とても魅力のある分野です。
ぜひ若い先生方にも興味を持っていただき、私たちと一緒に頑張ってもらえたら嬉しく思います。

1 研修の目標

- 医師として必要な基本的診療能力を習得すること
- 乳腺外科領域の専門的診療能力を習得すること
- 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる乳腺外科専門医となること

超音波ガイド下針生検のトレーニングの様子

2 研修修了後に得られる資格

- 外科専門医
- 乳腺外科専門医

3 研修プログラム概要

乳腺外科専門医を目指す場合、外科研修プログラムと同時に乳腺専門研修カリキュラムに登録することで専門研修施設群（附属病院、総合医療センター、香里病院、京都大学および大阪大学関連施設）で研修することが可能です。

卒後３年目	４年目	５年目	６年目	７年目
外科専門研修プログラム 基幹施設および連携施設で各々最低6カ月以上の研修			外科 専門医取得	
	乳腺外科専門研修カリキュラム 基幹施設で最低3カ月以上の研修			乳腺外科 専門医取得

4 研修後の進路

- 乳腺専門研修カリキュラムでは、連動研修によって卒後6年目で外科専門医、7年目で乳腺外科専門医を取得することが可能です。
- 大学院や社会人大学院制度を利用し、基礎または臨床研究を行い、医学博士号を取得することが可能です。
- 高度医療人育成制度により国内・国外留学をすることが可能です。

5 評価・支援制度

- 研修1年目では、基本的診療能力および外科基本的知識と技能の習得を目標とします。専攻医は定期的に開催されるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催のセミナーの参加、e-learningや書籍や論文などの通読、手術ビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の習得を図ります。
- 研修2年目では、基本的診療能力の向上に加えて、外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。専攻医はさらに学会・研究会への参加などを通して専門知識・技能の習得を図ります。
- 研修3年目では、チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮して、乳腺外科の実践的知識・技能の習得により様々な乳腺外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。

6 研修指導医

本プログラムでは13名の乳腺外科領域の専門研修指導医が専攻医を指導します。

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	髙田 正泰	教　授	乳腺外科	外科専門医・指導医、乳腺専門医・指導医
指導医	附属病院	矢内 洋次	講　師	乳腺外科	外科専門医・指導医、乳腺専門医・指導医、臨床遺伝専門医
指導医	附属病院	太治 智愛	診療講師	乳腺外科	外科専門医、乳腺専門医、がん薬物療法専門医、臨床遺伝専門医
指導医	附属病院	坂口 五月	病院助教	乳腺外科	総合内科専門医
指導医	附属病院	大林 亜衣子	病院助教	乳腺外科	外科専門医、乳腺専門医、臨床遺伝専門医
指導医	附属病院	松井 千亜希	病院助教	乳腺外科	外科専門医
指導医	総合医療センター	木川 雄一郎	診療教授	乳腺外科	外科専門医・指導医、乳腺専門医・指導医
指導医	総合医療センター	遠藤 香代子	助　教	乳腺外科	外科専門医、乳腺専門医
指導医	総合医療センター	笠原 実貴子	病院助教	乳腺外科	外科専門医
指導医	香里病院	綿谷 正弘	理事長特命教授	乳腺外科	外科専門医・指導医、乳腺専門医・指導医
指導医	香里病院	杉江 知治	化学療法センター長	乳腺外科	外科専門医・指導医、乳腺専門医・指導医
指導医	香里病院	兼松 清果	診療講師	乳腺外科	外科専門医、乳腺認定医
指導医	香里病院	田中 崇誉	病院助教	乳腺外科	外科専門医

心臓血管外科

心臓血管外科学教室は、昭和31年に本学の診療科として誕生しました。附属病院、総合医療センターの2病院において心臓血管外科手術を行っています。附属病院では小山忠明教授を筆頭に、総合医療センターでは岡田隆之診療教授を中心に、充実した指導体制が整っています。虚血性心疾患では、単独冠動脈バイパス術OPCAB（心拍動下冠動脈バイパス術）を第一選択とし、弁膜症手術では胸骨切開を行なわない右小開胸での完全胸視下での手術を多くの症例で行っています。大血管手術では、人工血管置換術に加え、附属病院では胸部・腹部大動脈のステントグラフト内挿術、また、末梢血管疾患に対するカテーテル治療も充実しています。すべての領域の指導体制が整っており、若手の誰もが一流の心臓血管外科医になれるよう、スタッフ一同、力を合わせて指導します。

充実した指導体制のもと、一流の心臓血管外科医に！

心臓血管外科全般の研修が可能で、充実した研修生活が送れます

- 小山忠明教授は、心臓大血管手術のエキスパート。特に人工心肺を使用しないOPCABと右小開胸での完全胸視下での弁膜症手術はこれまでに多くの症例を執刀しています。心臓、大動脈手術全般の指導をします。
- 森景則保血管外科診療教授は、胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術の日本を代表するエキスパートです。他院では実施困難な高難度症例や人工血管置換術と同等の長期成績を得るステントグラフト手技を若手に伝授します。

診療内容

冠動脈疾患	OPCAB（心拍動下バイパス手術）が95%。開存率99%と良好な治療成績。バイパス困難例でも、冠動脈内膜摘除やonlay法を駆使して吻合。その技術を若手に伝授したいと思います。
心臓弁膜症	右小開胸完全胸視下での僧帽弁形成や三尖弁形成に加え、右小開胸での大動脈弁人工弁置換や大動脈弁形成術も施術。
不整脈（心房細動）	高周波を用い、弁膜症手術と同時に「Maze手術」を行います。
大動脈疾患	弓部大動脈置換術、胸腹部大動脈置換術をメインに行い、ハイリスク症例では、ステントグラフト内挿術を行います。ステントグラフト実施医、指導医を取得できます。腹部大動脈瘤は追加治療の少ない高精度なステントグラフト内挿術を90%以上に実施します。
末梢血管疾患	閉塞性動脈硬化症に対する外科的な血管バイパス術や、カテーテルによる血管内ステント拡張術を行います。

研究テーマ

- 冠動脈形成（内膜摘除、onlay grafting）後の冠動脈remodeling機序の解明
- 血管吻合部内膜増生抑制
- 脳血管病変、頸動脈病変を伴う開心術時の脳障害予防法
- 弁形成術式の開発
- 低侵襲開心術法の開発
- 大動脈瘤のステントグラフト治療法
- 胸腹部大動脈置換時の脊髄麻痺予防に関する研究
- 急性大動脈解離に伴うcytokineの動きとARD
- 腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療の完全標準化
- 傍腎動脈腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療法

心臓血管外科研修指導責任者
心臓血管外科学講座 教授
小山 忠明

平成３年 愛媛大学 卒業
平成15年 京都大学大学院 卒業
平成16年 トロントサニーブルック病院 留学
平成25年 神戸市立医療センター中央市民病院 心臓血管外科 部長
令和５年 関西医科大学 心臓血管外科学講座 教授
主要な専門領域：心臓血管外科（虚血性心疾患 弁膜症 大動脈瘤）

講座サイトはこちら

血管外科 診療教授 **森景 則保**

平成４年 山口大学 卒業
令和４年 山口大学 第一外科 診療准教授
令和５年 関西医科大学 心臓血管外科学講座 血管外科 診療教授
主要な専門領域：血管外科（大動脈、末梢血管）

腹部大動脈瘤、末梢動脈疾患、内臓動脈瘤などに対する外科手術と血管内治療、胸部大動脈瘤、大動脈解離に対するステントグラフト手術を行っています。特に腹部大動脈瘤のステントグラフト手術では、本邦を先導する多くの手術手技を開発し、若手医師が習得しています。

総合医療センター 心臓外科 診療教授 **岡田 隆之**

平成11年 関西医科大学 卒業
平成15年 マレーシア国立循環器センター 留学
平成22年 ドイツ・ハイデルベルク大学心臓外科 留学
令和４年 関西医科大学 心臓血管外科学講座 准教授
令和７年 関西医科大学総合医療センター 心臓外科 診療部長・診療教授
主要な専門領域：成人心臓外科全般（弁膜症、虚血性心疾患、大動脈疾患）遺伝性心血管疾患の外科的治療と精密医療

総合医療センター心臓外科では、安全で低侵襲な手術を追求し、早期社会復帰を支えるチーム医療を提供しています。医療機関と緊密に連携し、早期発見・早期治療によって地域の心不全の進行を未然に防ぐことを目指しています。

1 研修の目標

- 心臓血管外科医としての基本姿勢を身に付け、患者さんに信頼されより良い医療を提供できる心臓血管外科医を育成する。医療人としての責任、規律を守る態度、チーム医療の中で患者、家族、看護師、co-medical等多くの人々との良好な信頼関係を築く。
- 基本技術として、人工心肺カニュレーション、グラフト血管採取、血管吻合などを習得します。

2 研修修了後に得られる資格

- 外科専門医
- 心臓血管外科専門医
- 腹部ステントグラフト実施医・指導医
- 胸部ステントグラフト実施医・指導医

3 研修プログラム概要

卒後３～４年目	５年目	６～７年目
担当医として、指導医の下、日常診療にあたる	外科専門医に必要な一般外科研修	心臓血管外科専門医を目指し、主治医として日常診療にあたり、手術も執刀する
人工心肺カニュレーション、グラフト血管採取、腹部大動脈置換術など	消化管外科などで一般外科の技量を高める	単弁置換、1枝冠動脈バイパス術、上行大動脈置換術、ステントグラフト内挿術など

Wet Labo：ブタの心臓を用いた解剖、吻合法、手術手技の指導を適宜行い、若手の誰もが技術的向上を得られます。

4 研修後の進路

大学院入学 ● 附属病院で心臓血管外科の専門性を高める研修 ● 国内他施設での期間限定の臨床留学 ● 海外留学による研究、臨床研修

5 評価・支援制度

- 外科専門医修練カリキュラムや心臓血管外科専門医認定機構が定める症例を多く経験できる
- Wet Laboでブタの心臓を用いた手術手技訓練により、誰もが一定の技量を獲得できる
- 研修責任者（教授）と面談、進路や研修内容について協議する
- 大学の高度医療人育成制度による臨床留学も可能
- 臨床豊富な施設への国内留学
- 海外留学（研究、臨床）
- 大学の専門研修支援チームと連携

6 研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	小山 忠明	教　授	心臓血管外科	外科専門医、外科専門指導医、心臓血管外科専門医、心臓血管外科修練指導医
指導医	附属病院	森景 則保	診療教授	血管外科	外科専門医、心臓血管外科専門医、胸部・腹部ステントグラフト指導医 心臓血管外科修練指導医
指導医	附属病院	桑内 慎太郎	診療講師	心臓血管外科	外科専門医、心臓血管外科専門医
指導医	総合医療センター	岡田 隆之	診療教授	心臓血管外科	外科専門医、心臓血管外科専門医
指導医	総合医療センター	深山 紀幸	病院准教授	血管外科	外科専門医、心臓血管外科専門医

人工血管置換術 若手術者

胸部大動脈ステントグラフト 若手術者

呼吸器外科

呼吸器外科で扱う主要対象疾患は原発性肺がんを含む悪性胸部疾患で、呼吸器腫瘍内科・放射線科治療部門・放射線科IVR部門・病理部門などと連携し、胸腔鏡手術から進行期例の集学的治療まで各科と共同で治療を行っています。当科での専門研修の特長は豊富な手術例の中で開胸手術、胸腔鏡手術とも学べる事です。また、炎症性肺疾患や嚢胞性肺疾患なども手術例が多く、腫瘍性疾患に偏らない幅広い経験を積むことが可能です。関西医大グループの外科専門医研修との連動型呼吸器外科専門研修で効率の良い研修を受けることが可能であり、最短で専門医取得できるように配慮します。

日本を越えて 世界へ羽ばたく 呼吸器外科医を目指せ！

豊富な手術例の中で開胸手術、胸腔鏡手術とも学べます

- 附属病院呼吸器外科では、令和6年に計572例の手術を行い、内309例が原発性肺癌でした。肺癌以外にも転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、自然気胸を含む嚢胞性肺疾患、などを治療し良好な成績を収めています。
- 教室では、外科指導医2名、呼吸器外科専門医7名がおり、指導体制が整っています。

これまでの主な研究

- 進行期肺癌に対する術前補助療法の有用性の検討
- 吸収性素材を用いた気管ステントに関する基礎的研究
- Glut-1を用いた肺腺癌予後因子の検討
- ヒト肺腺癌切除組織を用いた癌幹細胞の探索
- 複数の腫瘍マーカーを網羅的に用いた肺癌診断の検討
- 若年者自然気胸の術後再発予防に関する臨床的研究
- 転移性肺腫瘍モデルを用いたisolated lung perfusionによる局所化学療法に関する基礎的研究
- 内視鏡外科に使用する手術器材の開発
  （Endoscopic ligation forceps SAITO model 特許：No. 4148324）

ウェット・ラボ

呼吸器外科研修指導責任者
呼吸器外科学講座 教授
村川 知弘

平成４年　東京大学 卒業
平成15年~17年　コロラド大学胸部外科 留学
平成27年　関西医科大学附属病院呼吸器外科 診療教授
平成28年　関西医科大学 呼吸器外科学講座 教授
主要な専門領域：肺癌、縦隔腫瘍、嚢胞性肺疾患、肺感染症、肺移植

講座サイトはこちら

1 研修の目標

- 原発性肺癌、縦隔腫瘍、転移性肺腫瘍、嚢胞性肺疾患、自然気胸、胸部外傷など、呼吸器外科全般について最新の知識と標準的な診療技術を習得し、呼吸器外科専門医として医療に充分貢献できるスキルを身につける。
- 開胸手術および胸腔鏡手術の基本的技術を習得する。

2 研修修了後に得られる資格

- 外科専門医
- 呼吸器外科専門医

3 研修プログラム概要

卒後３年目	４年目	５年目	６年目	７年目
附属病院での呼吸器外科研修	附属病院あるいは関連病院での一般外科研修	大学附属病院または関連病院での呼吸器外科研修または大学院入学外科専門医試験受験		大学附属病院で呼吸器外科研修 呼吸器外科専門医試験
指導医と1対1の指導体制のほか複数指導医から指導あり	主治医として患者を担当する 手術は専門医の指導を受けながら術者あるいは助手を担当する 外来診察も担当する			より高度な手術を術者として担当する 指導的助手を経験する

研修のために参加する学会　●日本外科学会　●日本呼吸器外科学会　●日本胸部外科学会など

4 研修後の進路

- 大学附属病院、または関連病院での呼吸器外科研修・一般外科研修
- 大学院入学
- リサーチおよび臨床研修
- 大学内外で手術研修を行いながら外科専門医、呼吸器外科専門医、気管支鏡専門医、呼吸器専門医、がん治療認定医など呼吸器系専門医を目指す

5 評価・支援制度

- 外科専門医および呼吸器外科専門医研修プログラムに沿って、求められる症例を経験できるようにする。
- 年に1回以上、研修責任者と面談。進路や研修内容について協議する。
- 大学の専門研修支援チームと連携。

6 研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	村川 知弘	教　授	呼吸器外科	外科専門医・呼吸器外科専門医
指導医	附属病院	齊藤 朋人	病院准教授	呼吸器外科	外科専門医・呼吸器外科専門医
指導医	総合医療センター	金田 浩由紀	病院教授	呼吸器外科	外科専門医・呼吸器外科専門医

学生実習

胸腔鏡手術

精神神経科 専門研修 プログラム

当教室では、古典からの学びと最新のテクノロジーを組み合わせ、一人ひとりに最適な精神医療を提供することを目指しています。医師は人を診て治す医学のスペシャリストであり、精神科医はその上で、人生を脳科学や精神力動の視点から深く理解し、診断して治療することで、人生のスペシャリストと言えるでしょう。この高い専門性を習得するには、教科書や論文だけでなく、自らの豊かな人生経験や患者さんの人生への深い共感、臨床や日常生活においても決して諦めずに目標を追求する心を培うことが重要です。こうした過程で得られる学びの喜びを、私たちは教室のメンバー全員に伝えています。当教室は、若手や女性スタッフが活躍し、出身大学も多岐にわたるスタッフが集まる、活気に満ちた環境です。ぜひ一度、遊びにいらしてください。

精神神経科プログラム統括責任者
精神神経科学講座 教授
加藤 正樹

平成９年　　関西医科大学 卒業
平成18年~20年 イタリアボローニャ大学精神神経科 留学
　　ポストドクトラルリサーチフェロー
平成26年　　関西医科大学精神神経科学講座 准教授
令和元年　　関西医科大学附属病院精神神経科 科長
令和６年　　関西医科大学精神神経科学講座 教授
主要な専門領域：気分障害、臨床薬理、薬理遺伝

講座サイトはこちら

医局紹介動画はこちら

古典からの学びと 最新のテクノロジーを組み合わせ、一人ひとりに最適な精神医療を提供

当教室について

所属する大学附属病院は、大阪・京都という大都市を結ぶ京阪電鉄の沿線上にあります。大都市近隣の環境であるため、多彩な年齢・疾患層の方が来院され、精神科教育に必須となる「充分な臨床を経験」することができます。

教育プログラムについて

当教室の特徴は、豊富な症例の経験と充実した各分野の専門医による講義により、あらゆる面で通用する基礎的臨床技術を習得できることです。精神科診療の基礎である「一般（総合外来）」の陪席や検査補助、病棟での入院主治医と、その症例に対する頻回なカンファレンス、最新の知見や専門分野について、ガイドライン執筆者を多く含むスタッフの勉強会や、学会発表を経験します。各人の臨床的興味や特性に応じた診療スタイルを確立することができます。

大学附属病院での研修の利点

幅広い精神科専門分野の指導医による指導、救命科と連携し大阪府全域から身体合併症のある精神科患者を受け入れている精神疾患身体合併症センターでのリエゾン精神医療、緩和ケア、全国から紹介されてくる難治性うつ病の診療、麻酔科と連携して施行する修正型電気けいれん療法、反復経頭蓋磁気刺激療法、関西初の大学附属病院での精神科デイケアセンターなどの幅広い臨床経験が得られます。

研究について

- 私たちは研究に関してもかなり「真剣」に行っており、国内でも有数の水準にあります。留学先も、米国、イタリア、スイス、オーストラリア、スウェーデンなど多くの選択肢があります。
- 臨床薬理・ゲノム薬理グループ
- ニューロフィジオロジー（神経生理学）グループ
- ニューロイメージンググループ
- ニューロモデュレーショングループ
- うつ病・気分障害グループ
- 精神療法研究グループ

最後に

私たちの教室の最大の特徴は、それぞれの人生プラン、キャリア形成に合わせて融通を利かせることができる「柔軟さ」を持ち合わせていることです。詳しくは「関西医科大学 精神神経科」で検索してホームページを参照して下さい。見学を随時受け入れています。気軽に当教室までお問い合わせください。

附属病院 精神神経科 診療教授
嶽北 佳輝

平成15年 関西医科大学卒業、精神神経科学講座 入局
平成26年 イタリア ボローニャ大学 留学
令和３年 関西医科大学 精神神経科学講座 准教授
令和６年 関西医科大学 精神神経科学講座 診療教授
主要な専門領域：統合失調症、認知症、精神薬理学、電気けいれん療法

脳とこころを取り扱いながら、多く残されたフロンティアを解明し、患者さんの明るい未来を一緒に切り開いていきましょう。

1 専門研修の目標

医師にとって入局後最初の10年間は非常に大切です。「鉄は熱いうちに打て」というように初期に基本を徹底的に習得することが、プロフェッショナルとして大変重要です。その上でバランスのとれた、やりがいのある「研修」がこれからの時代は必要であると考えております。

2 専門研修修了後に得られる資格

- 一般精神科病院への出向による地域医療の経験、「専門外来」での研修から、精神科医師として最も重要な資格となる「精神保健指定医」、各学会認定の「専門医」を習得することが可能です。
- 日本精神神経学会専門医・指導医
- 日本臨床精神神経薬理学会専門医・指導医
- 一般病院連携精神医学専門医・指導医
- 日本サイコオンコロジー学会認定登録精神腫瘍医
- 日本老年精神医学会専門医・指導医
- 日本児童青年精神医学会認定医
- 日本性機能学会専門医
- 日本臨床神経生理学会専門医・指導医（脳波分野）
- 日本認知症学会専門医・指導医
- その他多数

3 専門研修プログラム概要

卒後３年目	４年目	５年目	６年目
総合医療センターでの専門研修	大学附属病院または関連病院での専門研修		大学院入学または臨床研修継続
精神神経学会に研修開始宣言			精神神経科学会専門医試験
上級医だけでなく他職種と連携した医療チームでの指導体制各人の特性に応じた診療スタイルの確立			精神神経科の専門性を高める研修

総合医療センターは下記の認定施設です

- 日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設
- 日本総合病院精神医学会専門医研修施設
- 臨床精神神経薬理学研修施設認定施設
- 日本認知症学会専門医制度教育施設
- 日本老年精神神経学会専門医制度認定施設

4 専門研修プログラムでの関連病院の数と症例数

附属病院、ねや川サナトリウム、八尾こころのホスピタル、セフィロト病院、七山病院、金岡中央病院、小泉病院、木島病院、芸西病院、瀬田川病院、滋賀八幡病院、美原病院、分野病院、大阪府立精神医療センター、三光病院、市立豊中病院、三田西病院、神戸白鷺病院、宝塚三田病院、関西記念病院、青葉丘病院、藍野花園病院、なるかわ病院、向陽病院、防府病院、福岡大学病院、久米田病院、京阪病院、油山病院、琉球大学病院

年間症例数	外来症例数（延べ）	入院症例数（延べ）	手術症例数
基幹施設での症例数	26,278	9,115	–

（令和６年度）

5 専門研修後の進路

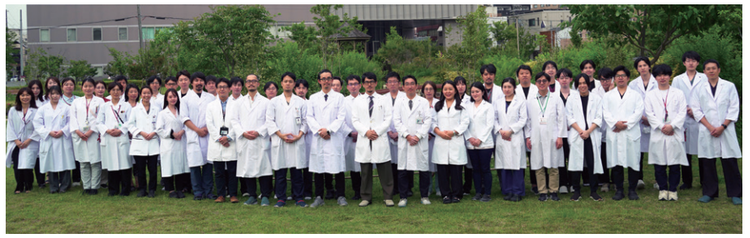
大学院への入学や関連の一般精神科病院、救急医学科への出向などがあります。その他、教育プログラム中期からの海外留学、国内留学を積極的に行っています。

6 評価・支援制度

基本的に日本精神神経学会の専門医プログラムに沿って臨床経験を評価していきます。

7 専門研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	総合医療センター	加藤 正樹	教　授	薬理遺伝学 うつ病・気分障害 臨床薬理学 総合病院精神医学	医学博士、精神保健指定医、精神科専門医・指導医、日本臨床精神神経薬理学会指導医・専門医 一般病院連携精神医学専門医・指導医、日本医師会認定産業医
指導医	総合医療センター	吉村 匡史	病院教授	臨床神経学	医学博士、精神保健指定医、精神科専門医・指導医・認知症診療医、日本老年精神医学会指導医・専門医 日本認知症学会指導医・専門医、日本臨床神経生理学会脳波分野専門医・指導医 日本臨床精神神経薬理学会専門医・指導医、一般病院連携精神医学専門医・指導医、日本医師会認定産業医 精神腫瘍学の基本教育に関する指導医研修会修了者、緩和ケア研修会集合研修企画責任者、難病指定医
指導医	総合医療センター	池田 俊一郎	講　師	薬物依存	医学博士、精神保健指定医、精神科専門医・指導医、日本老年精神医学会専門医、日本医師会産業医 精神腫瘍学の基本教育に関する指導者研修会修了者、公認心理師
指導医	総合医療センター	青木 宣篤	講　師	精神科臨床一般 電気けいれん療法 総合病院精神医学	医学博士、精神保健指定医、精神科専門医・指導医、一般病院連携精神医学専門医・指導医・認知症診療医 日本医師会認定産業医、精神腫瘍学の基本教育に関する指導医研修会修了者、難病指定医 日本老年精神医学会専門医・指導医、認知症サポート医
指導医	総合医療センター	緒方 治彦	助　教	リエゾン精神医学	医学博士、精神保健指定医、精神科専門医・指導医
指導医	総合医療センター	舩槻 紀也	助　教	精神神経科 臨床一般	医学博士、精神保健指定医、精神科専門医・指導医、日本臨床精神神経薬理学専門医 精神腫瘍学の基本教育に関する指導医研修会修了者、緩和ケア研修会集合研修企画責任者 日本サイコオンコロジー学会認定登録精神腫瘍医、大阪府DPAT、日本医師会認定産業医
指導医	附属病院	嶽北 佳輝	診療教授	統合失調症 認知症 精神薬理学 電気けいれん療法	医学博士、精神保健指定医、精神保健判定医、精神科専門医・指導医・認知症診療医 日本老年精神医学会指導医・専門医、日本認知症学会指導医・専門医 日本臨床精神神経薬理学専門医・指導医・治験登録医、一般病院連携精神医学専門医・指導医 日本医師会認定産業医、緩和ケア研修会集合研修企画責任者



集合写真

小児科
専門研修
プログラム

私どもの講座は開講以来90年を超える歴史の中で、多くの研究業績を上げるとともに優れた小児科医を輩出してきました。こどもたちの健やかな成長に貢献できる小児科医を目指して、一緒に切磋琢磨していきたいと考えています。こどもの心身の健康のプロフェッショナルを目指すなら、是非、関西医大小児科専攻医プログラムに応募して下さい！

小児科Instagram

小児科プログラム統括責任者
小児科学講座 教授

金子 一成

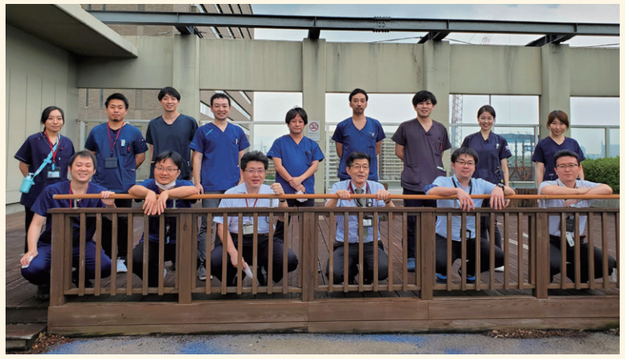
昭和59年　新潟大学 卒業
平成元年　順天堂大学大学院 卒業
平成２年~３年　英国ロンドン大学附属小児病院腎臓科留学
平成17年　関西医科大学 小児科学講座 教授
令和３年　関西医科大学 副学長
令和５年　関西医科大学 医学部長、大学院研究科長
主要な専門領域：小児腎臓病学、小児泌尿器科学

講座サイトはこちら

こどもたちの健やかな成長のサポーター、小児科医

専門研修の特色

- 当科での専門研修は、原則として研修開始後6~12カ月は附属病院または大阪旭こども病院で行います。附属病院には、小児医療センター（43床）と総合周産期母子医療センターのNICU（Neonatal Intensive Care Unit：27床、うち特定新生児集中治療病床12床）に合計70床の入院病床とこども館（小児科外来診療施設）があります。
- 附属病院5階の小児医療センターにある4床のPICU（Pediatric Intensive Care Unit）とNICUで新生児・乳幼児の重症疾患に対応していますので、呼吸管理技術や心肺蘇生技術の経験や修練が可能です。
- その他、腎臓病、血液悪性腫瘍、循環器疾患、消化器疾患、アレルギー疾患など多彩な疾患の小児患者が入院し、その診療について、専門医から直接、指導が受けられます。
- 連携施設では、小児のcommon diseaseや夜間の救急患者を数多く経験できます。
- 小児心身医療分野のスタッフも充実しており、わが国では数少ない日本心身医学会の小児科研修施設として認定されています。したがって将来、発達障害や小児心身医療分野の専門医を目指す先生も数多く研修しています。
- 平成29年4月から開設された附属病院アレルギーセンターの小児アレルギー部門においては、主に食物アレルギー患者の入院治療（経口免疫療法）を積極的に行っています。
- 以上のように附属病院と連携施設で研修することで、小児科専門医取得に必要な疾患や病態の経験と研修が可能です。



小児科スタッフ

新生児担当 診療教授　**西﨑 直人**

平成14年 順天堂大学 卒業
平成17年 米国アラバマ大学バーミンハム校 病理学
平成20年 埼玉県立小児医療センター 腎臓科
令和５年 順天堂大学医学部附属浦安病院小児科 先任准教授
令和８年 関西医科大学 小児科学講座 診療教授
主要な専門領域：新生児、腎泌尿器

こどもたちの未来を支える小児科医として、興味のある分野を大切にしながら、優れた指導医と共に学び、着実に成長していきましょう。

総合医療センター 診療教授　**石﨑 優子**

平成元年 関西医科大学 卒業 小児科学講座
平成３年 LCCストレス医学研究所心療内科
平成13年 関西医科大学 小児科学講座
令和４年 関西医科大学 小児科学講座 診療教授
主要な専門領域：小児心身症、自律神経疾患、発達障害、小児保健

小児科医は未来を担うこどもの心とからだの成長と発達を支えるやりがいのある仕事です。

1 専門研修の目標

- 新生児から思春期に至る幅広い年齢層の多様な疾患の診療を通して、こどもの総合診療医となる。

2 専門研修修了後に得られる資格

- 小児科専門医

3 専門研修プログラム概要

卒後年数	卒後３年目	４年目	５年目	６年目
研修場所	附属病院または連携施設での研修	附属病院または連携施設での研修	附属病院または連携施設での研修	附属病院または連携施設で研修
専門医試験受験準備	日本小児科学会に専門医研修開始届提出 小児科専門医研修手帳に記載された疾患・手技の研修 学会発表・論文作成	小児科専門医研修手帳に記載された疾患・手技の研修 学会発表・論文作成	小児科専門医研修手帳に記載された疾患・手技の研修 学会発表・論文作成	小児科専門医試験受験
指導体制	指導医による1対1指導	独立した主治医として患者を担当	患者を臨床研修医とともに担当し指導	小児の臓器別専門分野の研修

4 専門研修プログラムでの関連病院の数と症例数

総合医療センター、香里病院、大阪旭こども病院、小松病院、河内総合病院、大阪府済生会野江病院、名張市立病院

年間症例数	外来症例数（延べ）	入院症例数（延べ）	手術症例数
基幹病院での症例数	19,198	1,762	–

（令和６年度）

5 専門研修後の進路

- 大学院入学（専門研修中の入学も可）
- 大学附属病院、または連携施設における小児科の様々な専門領域（Subspecialty）の専門医資格取得に向けての研修
- 国内外の施設での専門的臨床研修や基礎研究を目的とした留学
- 地域に根ざした小児医療への貢献（小児科医院開業）

6 評価・支援制度

- 週３回の病棟カンファレンスにおける研修指導責任者、研修指導医からのアドバイスと評価
- 小児科専門医臨床研修手帳に記載された一般目標、経験すべき症候・疾患、各分野別の到達目標の達成状況の確認をし、Mini-CEX（年間２回以上）、360度評価（年間１回以上）、マイルストーン（年間１回）による指導医や多職種の評価者による評価とそれに基づく助言と支援（フィードバック）
- 指導医による小児科専門医試験対策セミナーの開講（隔週の土曜日）
- 上級医によるマンツーマンでの論文執筆指導（小児科専門医試験の受験資格として、論文執筆実績が必要なため）

小児医療センター

7 専門研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	金子 一成	教　授	腎・泌尿器疾患 小児リウマチ性疾患	小児科専門医・指導医、日本小児泌尿器科学会専門医
指導医	附属病院	大橋 敦	教　授（看護学部）	新生児	小児科専門医・指導医、新生児専門医・指導医
指導医	附属病院	西﨑 直人	診療教授	新生児 腎・泌尿器疾患	小児科専門医・指導医、新生児専門医・指導医 腎臓専門医・指導医、臨床遺伝専門医、小児泌尿器科学会専門医
指導医	附属病院	辻 章志	准教授	腎・泌尿器疾患 新生児	小児科専門医・指導医、日本腎臓学会腎臓専門医、日本小児泌尿器科学会専門医 新生児専門医・指導医
指導医	附属病院	松野 良介	准教授	小児がん	小児科専門医・指導医、日本血液学会専門医・指導医、日本がん治療認定医 日本造血細胞移植学会造血細胞移植認定医、日本小児血液・がん学会専門医・指導医 日本血栓止血学会認定医
指導医	附属病院	峰 研治	講　師	新生児 循環器疾患	小児科専門医・指導医、新生児専門医 日本小児循環器学会専門医
指導医	附属病院	山内 壮作	講　師	腎・泌尿器疾患 新生児	小児科専門医・指導医、日本小児泌尿器科学会専門医
指導医	附属病院	赤川 翔平	講　師	アレルギー疾患 腎・泌尿器疾患 新生児	小児科専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医 日本腎臓学会専門医・指導医、日本小児泌尿器学会専門医 新生児専門医
指導医	附属病院	大町 太一	講　師	小児がん	小児科専門医・指導医、日本血液学会専門医、がん治療認定医
指導医	附属病院	平林 雅人	診療講師	新生児	小児科専門医
指導医	附属病院	加藤 正吾	診療講師	新生児 腎・泌尿器疾患	小児科専門医・指導医
指導医	附属病院	藤代 定志	助　教	神経疾患 神経発達症 新生児	小児科専門医・指導医、新生児専門医 日本小児神経学会小児神経専門医
指導医	附属病院	堀 真一郎	助　教	循環器疾患	小児科専門医・指導医
指導医	附属病院	山添 敬史	助　教	小児がん	小児科専門医・指導医、日本血液学会専門医
指導医	附属病院	卜部 馨介	助　教	小児がん	小児科専門医、日本血液学会専門医
指導医	総合医療センター	石﨑 優子	診療教授	心身症 神経発達症	小児科専門医・指導医、日本心身医学会心身医療専門医・指導医 日本心療内科学会登録医、子どものこころ専門医機構認定・子どものこころ専門医 日本小児心身医学会認定医・指導医、日本小児精神神経学会認定医 日本小児科医会「子どもの心相談医」
指導医	総合医療センター	柳李 嘉時	診療講師	心身症 神経発達症	小児科専門医・指導医、日本心身医学会認定医・指導医 子どものこころ専門医機構認定・子どものこころ専門医、日本小児科医会「子どもの心相談医」
指導医	香里病院	田邉 裕子	診療講師	内分泌疾患	小児科専門医・指導医、日本内分泌学会（小児科）専門医・指導医

脳神経外科専門研修プログラム

脳神経外科という科は、脳の手術以外に、多くの領域を幅広くカバーしている科であることを御存じでしょうか?わが国では心臓とは異なり脳血管のカテーテル治療は脳神経外科医が中心となって行っています。また脊椎脊髄の外科治療も脳神経外科の領域の一つになっており、現在では脊椎を専門とする整形外科医と同じ専門医資格を取得することができます。関西医科大学脳神経外科では、これらの各分野のエキスパートをスタッフに擁して、これからエキスパートをめざす若い医師の教育指導にあたっています。脳、神経に興味のある皆さんの参加を期待しています。

脳神経外科プログラム統括責任者
脳神経外科学講座 教授
埜中 正博

平成 4 年 大阪大学 卒業
平成13年 国立病院機構 大阪医療センター
平成26年 関西医科大学 脳神経外科学講座
小児担当診療教授
令和 6 年 関西医科大学 脳神経外科講座 教授
主要な専門領域:脳腫瘍、小児脳神経外科

講座サイトはこちら

脳神経外科は多彩な領域!

開頭による脳腫瘍摘出や脳動脈瘤クリッピング術、脳血管バイパス術はもちろんのこと、脳血管の病変をカテーテルで治療する血管内手術、脊椎や脊髄の病変を治療する脊椎脊髄手術、頭蓋底の病変を鼻から治療する内視鏡手術や、悪性脳腫瘍の化学療法や分子標的療法、てんかんの治療、脳梗塞の治療、認知症の治療、リハビリテーションにいたるまで、脳神経外科でカバーしています。また研究も盛んで悪性脳腫瘍の治療法や脳脊髄の先天異常が発生するメカニズムを遺伝子レベルで研究しています。

顕微鏡下の脳の手術は脳神経外科手術の基本

脳神経外科の手術はひとの命だけでなく、神経機能も救う手術でなければなりません。難しい良性腫瘍の手術、悪性脳腫瘍の手術、血管の手術は日本脳神経外科学会指導医が、若い医師の指導にあたっています。

内視鏡手術は今や脳神経外科で欠かせない手術

脳神経外科領域では他の領域以上に低侵襲の治療が求められています。その主役を担うのが内視鏡手術です。日本神経内視鏡学会技術認定医が指導にあたっています。

小児脳神経外科はオールマイティー

小児脳神経外科は小児脳腫瘍、小児奇形、小児脳血管障害から小児脊髄疾患まであらゆる領域をカバーしています。日本小児神経外科学会認定医が指導しています。

脊椎脊髄手術は需要が多い手術

高齢化社会にともなって、脊柱管狭窄症の症例が増加しています。米国では脳神経外科手術の約半数は脊椎脊髄手術と言われています。日本脊髄外科学会認定医が指導にあたっています。

血管内手術は今や脳、頸部血管治療の主役

従来の開頭手術では困難な血管病変の治療が血管内手術で短時間に低侵襲でおこなわれるようになっています。日本脳神経血管内治療学会指導医が指導にあたっています。

悪性脳腫瘍の化学療法、分子標的療法はこれから伸びる分野

悪性脳腫瘍に対する新しい抗がん剤、分子標的治療薬が開発されてきています。日本癌治療認定医機構認定医が指導しています。

救急医療と脳神経外科は表裏一体

頭部外傷、脊損、脳卒中など、救急医療は関西医科大学脳神経外科では特に力をいれています。日本救急医学会指導医、日本脳神経血管内治療学会指導医、日本脳卒中の外科学会技術指導医、日本神経外傷学会認定医、日本脳卒中学会専門医が指導にあたっています。

脳神経外科 診療教授 **松田 良介**

平成13年 奈良県立医科大学 卒業 脳神経外科入局
平成20年 奈良県立医科大学 脳神経外科 助教
平成23年 フランス:モンペリエ大学医学部附属 Gui de Chauliac病院
令和 6 年 奈良県立医科大学 脳神経外科 講師
令和 8 年 関西医科大学 脳神経外科学講座 悪性脳腫瘍担当 診療教授
主要な専門領域:脳腫瘍(覚醒下手術を含めた脳機能温存手術)

疾患を治すだけでなく脳の機能を守る脳神経外科手術は常に発展しており、やりがいのある領域です。

総合医療センター 脳神経外科 診療教授 **吉村 晋一**

平成 4 年 関西医科大学 卒業
平成14年 スイス チューリッヒ大学 脳神経外科 クリニカルフェロー 留学
令和 7 年 総合医療センター 脳神経外科 診療教授
主要な専門領域:脳血管外科手術、脳血管内手術

顕微鏡手術、血管内手術、内視鏡手術などの外科治療に加え、頭痛や認知症診療まで脳神経外科の幅広い領域の研修をすることができます。まずは脳神経外科の扉を叩いてみませんか。

1 専門研修の目標

脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷、てんかん、脊椎・脊髄疾患、小児奇形、中枢神経感染症など、脳神経外科がカバーする領域についての最新の知識と標準的な診療技術を習得して、独り立ちの脳神経外科医として医療に貢献できる実力を身につける。その間に、将来の自分の専門分野(Subspecialty)を見つける。

2 専門研修修了後に得られる資格

日本脳神経外科学会専門医、左記を取得後、日本脳卒中学会専門医、日本脳血管内治療学会専門医、日本脳卒中の外科学会技術認定医、日本神経内視鏡学会技術認定医、日本神経外傷学会認定医、日本脊髄外科学会専門医の受験資格が与えられる。

3 専門研修プログラム概要

卒後3年目	4年目	5~6年目	7年目
大学附属病院での専門研修	連携施設、関連施設での専門研修	大学附属病院、連携施設、関連施設での専門研修	大学院入学または臨床研鑽継続
脳神経外科学会入会			脳神経外科学会専門医
指導医と1対1の指導体制	指導医の監督下、独立した主治医として患者を担当	指導医の監督下、独立した主治医として患者を担当	脳神経外科の中での専門性を高める研鑽

研修のために参加する学会

日本脳神経外科学会、日本脳卒中学会、日本脳卒中の外科学会、日本脳腫瘍学会、日本脳神経外科救急学会、日本神経内視鏡学会、日本神経外傷学会

4 専門研修プログラムでの関連病院の数と症例数

総合医療センター、埼玉医科大学国際医療センター、
神戸市立医療センター中央市民病院、野崎徳洲会病院など18施設

年間症例数	外来症例数(延べ)	入院症例数(延べ)	手術症例数
基幹病院での症例数	10,095	13,559	444

(令和6年度)

5 専門研修後の進路

- 大学院入学
- 大学附属病院あるいは国内外の施設で専門性を高める研修(留学先多数有り)
- 日本脳卒中学会専門医、日本癌治療認定医機構認定医、日本脳血管内治療学会専門医、日本脊髄外科学会認定医、日本脳卒中の外科学会技術認定医、日本神経内視鏡学会技術認定医などを目指す。

6 評価・支援制度

- 日本専門医認定機構及び日本脳神経外科学会の専門研修プログラムに沿って、脳神経外科診療に必要な技量と胆力とアカデミックマインドを持った脳神経外科医を育成する。
- 年に数回、研修責任者(教授)と面談し、進路や研修内容について協議する。
- 連携施設研修管理委員会を年1回4月に開催している。

脳動脈瘤の開頭クリッピング手術風景

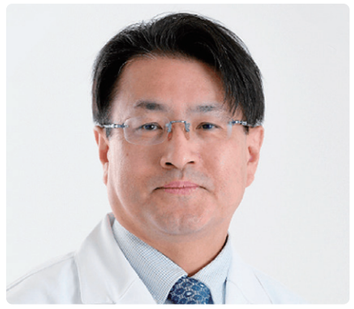
7 専門研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	埜中 正博	教 授	脳腫瘍、小児	日本脳神経外科学会専門医・指導医、日本神経内視鏡技術認定医 日本がん治療認定機構認定医、日本小児神経外科学会認定医
指導医	附属病院	松田 良介	診療教授	脳腫瘍	日本脳神経外科学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本臨床神経生理学会術中脳脊髄モニタリング分野認定医、日本脳卒中学会専門医
指導医	附属病院	須山 武裕	病院准教授	脳血管障害、脳血管内治療	日本脳神経外科学会専門医・指導医、日本脳卒中学会専門医 日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医、日本頭痛学会専門医
指導医	附属病院	武田 純一	講 師	脳血管障害、腫瘍、外傷	日本脳神経外科学会専門医・指導医、日本脳卒中学会専門医・指導医 日本神経内視鏡学会技術認定医、日本脳神経血管内治療学会専門医 日本脳卒中の外科学会技術認定医、日本DMAT隊員
指導医	総合医療センター	吉村 晋一	診療教授	脳血管障害、外傷	日本脳神経外科学会専門医・指導医、日本脳卒中学会専門医・指導医 日本脳卒中の外科学会技術指導医、日本脳神経血管内治療学会専門医
指導医	総合医療センター	羽柴 哲夫	病院准教授	腫瘍、脳血管障害、外傷	日本脳神経外科学会専門医・指導医、日本脳卒中学会専門医・指導医 日本がん治療認定機構認定医、日本神経内視鏡学会技術認定医 日本認知症学会専門医・指導医

整形外科専門研修プログラム

整形外科学講座教授の森田充浩です。我々の専門研修では専門医修得に必要となる各分野の症例を豊富に経験することができます。私たち関西医科大学整形外科では医局員を大切にし、困ったときは協力しあうことを理念にしています。高度な専門知識を持った先輩たちが親切・丁寧な指導を心がけて皆様をお待ちしております。是非、私たちと共に整形外科専門医の道を歩んでいきましょう。

整形外科プログラム統括責任者
整形外科学講座 教授
森田 充浩



昭和61年 防衛医科大学校医学科 卒業
平成 4 年 陸上自衛隊幹部候補生学校 卒業
平成 7 年 Walter-Reed Army Medical Center 整形外科留学
平成14年 米国立衛生研究所（NIH） 留学
平成19年 藤田保健衛生大学医学部整形外科 講師
令和 4 年 藤田医科大学医学部整形外科 准教授
令和 8 年 関西医科大学 整形外科学講座 教授
主要な専門領域：股関節外科、関節リウマチ、骨粗鬆症

講座サイトはこちら

豊富な症例を経験し充実した研修ができます！

専門研修の特色

大学附属病院のほか、多くの関連病院で整形外科に必要な基本的な手技から、より高度な専門的知識と技術を修得することができます。関西医大整形外科グループでは、どこの医療機関でも同じ治療方針で患者さんが安心して治療を受けられるように心がけています。このため、常に意思疎通をはかるために合同医局研修会を月1回開催しています。この研修会では専攻医の皆さんが専門的知識を深めるだけではなく、各自の希望をくみ上げるシステムになっています。

附属病院

森田充浩教授の専門分野である股関節治療に関しては症例に合わせたセメントレス人工関節を選択し、小侵襲人工関節手術を多数行っています。
令和8年4月より脊椎神経センターが設置され、センター長である齋藤貴徳を中心に脊椎脊髄疾患の治療を行っており、関西医療圏で最大の症例数と実績があります。特に成人脊柱変形における広範囲椎体間固定術や前方・後方同時椎体間固定術は難易度が非常に高く、近隣の大学病院や医療機関からも多数の医師が手術見学に来られます。また、骨粗鬆症性椎体圧迫骨折に対して経皮的にセメントを注入する椎体形成術や、脊椎手術をより安全に行うための術中モニタリングでは、附属病院がトレーニングセンターに指定されており、日本全国の整形外科医師たちが資格修得のため、研修会に参加されます。平成30年から手の外科専門医である堀井恵美子理事長特任教授が加わりました。堀井恵美子理事長特任教授は小児先天奇形手術に対して世界的にも有名な医師であり、基本的な手術から高度な手術まで幅広く研修することができます。この他、令和7年4月よりスポーツ医学センターが開設され肩関節、膝関節、足関節など広範なスポーツ障害の治療とトレーニング法の研究開発を行っています。また膝関節の治療として人工関節置換術、鏡視下手術、靭帯再建術、骨切り術も多数行っています。

総合医療センター

松矢浩暉病院教授を中心に、股関節や膝関節の人工関節置換術を行っています。さらに、奥賢一准教授により多くのセメント人工股関節手術を実施しております。股関節臼蓋形成術や大腿骨骨切り術など人工関節以外の高度な手術も多数行っています。平成30年から手の外科専門医である浜田佳孝病院教授が加わりました。浜田佳孝病院教授は血管柄付き再建術などのマイクロサージャリーを得意とし、他施設では研修することが難しい症例を勉強することができます。堀井恵美子理事長特任教授と浜田佳孝病院教授を中心に関連病院の手の外科症例検討会を月1回開催しており、研修医も参加することができます。

香里病院

関節リウマチ専門医である上田祐輔病院准教授による関節リウマチ関節外科手術を研修することができます。また、地域により密着した医療として、四肢の骨折などの外傷手術も数多く行っています。

スポーツ医学と人間形成

我々はスポーツ医学にも力を入れています。医療の向上だけではなく、自らスポーツを通じて人間力向上についても精進しています。その一環として、スポーツクラブを医局内に設けています。現在、野球部、バスケット部、フットサル部、ゴルフ部があります。また、関西医大、大阪医大、兵庫医大、近大からなる4私大スポーツ大会を年1回行っています。

男女共同参画プログラム

堀井恵美子理事長特任教授を中心に、医局と同門会の女性医師の研修会があります。我々の研修プログラムでは男女共同参画プログラムを組み入れており、出産や育児などの際も安心して研修を行うことができる体制を取っています。

医局集合写真

1 専門研修の目標

整形外科は、運動器の機能と形態の維持・再建を目指す領域であり、脊椎、上肢、下肢などの幅広い領域を扱います。プログラムでは、あらゆる運動器に関する科学的知識と社会的倫理観を備え、新しい知識と技能を習得できるような、基本的な臨床能力を身につけた整形外科専門医を目標とします。

2 専門研修修了後に得られる資格

- 日本整形外科学会専門医

3 専門研修プログラム概要

研修で経験すべき脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、3年9カ月で45単位を修得する必要があります。この他に、学会発表1回または、学術論文1編が必要となりますが、発表や論文作成まで各研修医に寄り添って、丁寧に指導しています。経験すべき疾患・病態・診察・検査、手術処置などはプログラムに沿って偏りがないように経験することができます。

	卒後3年目	4~6年目	研修修了後の進路
学会	日本整形外科学会に入会		
研修施設	附属病院 総合医療センター	関連病院での研修	大学附属病院や関連病院など
研修目標	・疾患の診断と治療 ・診断補助技術 （ミエログラフィーや神経根ブロックなど）	規定の症例数を経験 ・骨折の治療 ・関節鏡手術 ・人工関節手術 ・脊椎手術 ・手の外科手術	・Subspecialtyの決定 ・課博コース（大学院入学） ・論博コース ・国内／海外留学

4 専門研修プログラムでの関連病院の数と症例数

附属病院を基幹病院とし、合計18病院で研修を行います。

年間症例数	外来症例数（延べ）	入院症例数（延べ）	手術症例数
基幹病院での症例数	43,771	30,175	2,038 （令和6年度）

研修のために参加する学会

- 日本整形外科学会
- 中部日本整形外科・災害外科学会

5 専門研修後の進路

- 大学院入学（課博コース）
- 臨床を継続しながら学位修得（論博コース）
- 大学附属病院または関連病院で専門性を高める研修
- 修得できる専門医・指導医：日本整形外科専門医、日本整形外科学会（日整会）認定脊椎脊髄病医、日整会認定運動器リハビリテーション医、日整会認定スポーツ医、日整会認定リウマチ医、日本脊椎脊髄病学会指導医、日本リウマチ学会専門医、日本臨床神経生理学会技術認定医、日本手の外科学会専門医など

6 評価・支援制度

- 附属病院に研修プログラムと専攻医を統括的に管理する研修プログラム管理委員会が設置されています。プログラム管理委員会は齋藤貴徳教授が指導管理責任者となり、連携施設の管理責任者と年3回、または必要に応じて管理責任者から各専攻医の研修進捗状況について、情報提供を受けます。
- 専門医修得のために、全ての専攻医が年に1回以上発表できるように、また、論文執筆を4年間で1本以上行えるように指導します。
- 知識・技能習得のためセミナーを企画・開催します。主な研修会として、関西医大整形外科春季セミナー、同秋季セミナー、関西医大脊椎グループ研究会、リバーサイド研究会（大阪医科薬科大学整形外科との合同研修会）などがあります。

7 専門研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	森田 充浩	教　授	股関節、関節リウマチ、骨粗鬆症	整形外科専門医、リウマチ指導医、老年科指導医
指導医	附属病院	堀井 恵美子	理事長特任教授	手外科	整形外科専門医、手外科専門医
指導医	附属病院	石原 昌幸	准教授	脊椎外科	整形外科専門医、脊椎脊髄外科専門医
指導医	附属病院	大野 博史	診療講師	膝関節外科	整形外科専門医、人工関節認定医
指導医	附属病院	片岡 浩之	診療講師	小児整形	整形外科専門医
指導医	総合医療センター	松矢 浩暉	病院教授	股関節外科、脊椎外科	整形外科専門医
指導医	総合医療センター	浜田 佳孝	病院教授	手外科	整形外科専門医、手外科専門医
指導医	総合医療センター	南出 晃人	病院教授	脊椎外科	整形外科専門医
指導医	総合医療センター	奥　賢一	准教授	股関節外科	整形外科専門医、人工関節認定医
指導医	総合医療センター	中村 知寿	講　師	股関節外科	整形外科専門医、人工関節認定医
指導医	香里病院	上田 祐輔	病院准教授	関節リウマチ、股関節外科 足の外科、骨粗鬆症	整形外科専門医、リウマチ指導医・専門医 骨粗鬆症認定医

リハビリテーション科 専門研修 プログラム

日本は今後かつて経験したことのない高齢化社会を迎えることになります。リハビリテーション科専門医には、患者が抱える「活動の障害」を治療するために、運動・感覚、認知や嚥下、排泄などの機能を的確に診断し、社会資源利用を含めた方略を提供する診療能力が求められます。リハビリテーション科専門医が活躍すべき医療場面は、小児医療から高齢者医療、急性期から生活期に至るすべてに渡ります。リハビリテーション科専門医数は未だに充足しておらず、患者は専門医になかなか巡り会えずにいます。関西医科大学ではリハビリテーション学部を設立し、チーム医療に基づいて医療・介護を包括的に支える医療体制の実現を目指しています。当科では近未来の医療提供システムを構築するべく、情報通信技術やロボットを駆使したリハビリテーション治療技術を開発し、医療・健康・生活をサポートする包括的ヘルスケアの提供に取り組んでいます。地域社会から求められているリハビリテーション医療を実践するスペシャリストとなることを目指していただける仲間をお待ちしています。

リハビリテーション科プログラム統括責任者
リハビリテーション医学講座 教授
長谷 公隆

昭和60年　慶應義塾大学 卒業
平成9年~10年　アルバータ大学 留学
平成24年　関西医科大学 リハビリテーション科 診療教授
平成30年　関西医科大学 リハビリテーション医学講座 教授
主要な専門領域：リハビリテーション医学

講座サイトはこちら

社会から求められている リハビリテーション医療の スペシャリストに！

リハビリテーション科では、日本リハビリテーション医学会研修カリキュラムが定める9診療領域の各病態について、急性期・回復期・生活期に求められる診療スキルを体得するための研修プログラムを構成するとともに、脳機能解析、動作分析、電気診断、嚥下・呼吸機能評価に基づいた先進的治療を経験・修得することが可能です。

リハビリテーション科専門研修の特徴

- 長谷公隆教授、菅俊光診療教授は、これまでに数多くのリハビリテーション科専門医を育成しており、必要に応じて国内の様々な地域でリハビリテーション医療研修が可能です。
- 回復期リハビリテーション研修は、北河内医療圏だけでなく、専攻医の希望に対応して、豊能医療圏や京都などでの研修が可能です。
- 関連施設において、訪問医療を含めた在宅医療についての研修が経験できます。
- 3次元動作解析等による運動機能評価、経頭蓋直流電気刺激療法やロボティックス等を用いた先進的リハビリテーション医療などについての臨床研究に参加できます。

研究テーマ

- リハビリテーション治療における人工知能の臨床応用
- 歩行障害治療ならびに在宅医療におけるロボティクスの効果
- ボツリヌス毒素による痙縮治療効果とリハビリテーション
- 音響解析を用いた呼吸リハビリテーションの客観的評価
- 変形性関節疾患の歩行解析と運動療法
- 複合現実技術を用いた認知機能障害の評価と治療
- 包括的がんリハビリテーション診療の構築
- 急性期医療から在宅医療へ向けた医療・介護連携モデルの構築
- 通所リハビリテーション（デイケア）において高齢者の運動能力を向上させる方策の検討

総合医療センター リハビリテーション科 診療教授
菅 俊光

昭和63年 関西医科大学 卒業
平成24年 関西医科大学附属滝井病院（現総合医療センター）病院教授
平成30年 関西医科大学 リハビリテーション科 診療教授
主要な専門領域：リハビリテーション医学

現代の医療においては、リハビリテーション医学を抜きに考えることはできません。この分野を牽引する若手医師を育てていきたいと考えています。「障害から生活を取り戻す」を合言葉に、臨床に研究に一緒に汗をかきましょう。

1 専門研修の目標

脳卒中、外傷性脳損傷などの脳疾患、脊髄損傷・脊髄疾患、骨折・骨関節疾患、小児疾患、神経筋疾患、切断、内部障害、廃用症候群やがん、疼痛性疾患等に対するリハビリテーション診療を実体験し、それぞれの診療領域のリハビリテーション医学に関する十分な知識と診療技術を修得するとともに、患者から信頼される標準的なリハビリテーション医療を提供できる医師となることを到達目標とする。

2 専門研修修了後に得られる資格

- 日本リハビリテーション医学会専門医

3 専門研修プログラム概要

卒後3年目	4年目	5年目	6年目
附属病院または総合医療センターでの専門研修	大学附属病院または関連研修施設での専門研修（6カ月~1年毎にローテーション）		大学附属病院または関連研修施設で研修継続
指導医と1対1での指導体制	回復期病棟等で主治医として患者を担当		日本リハ学会専門医試験を受験

研修のために参加する学会
- 日本リハビリテーション医学会学術集会、近畿地方会
- 日本臨床神経生理学会、日本脊髄障害医学会、日本運動療法学会、日本義肢装具学会

4 専門研修プログラムでの関連病院の数と症例数

総合医療センター、香里病院、くずは病院、もりぐち清水会病院、喜馬病院　ほか12病院

年間症例数	外来症例数（延べ）	入院症例数（延べ）	手術症例数
基幹病院での症例数	14,353	–	–

（令和6年度）

5 専門研修後の進路

- 大学院入学
- 大学附属病院または関連研修施設（指導医）
- 関連研修施設以外のリハビリテーション病院あるいは施設（指導医）
- 地域医療を支えるリハビリテーション科医師として開業

人工筋肉駆動式足関節ロボット

6 評価・支援制度

- 日本リハビリテーション医学会専門医研修カリキュラムに沿って、求められる症例を経験できるようにする。
- 年に1回以上、研修責任者（教授）と面談し、研修の進捗状況の評価を受けた上で、進路や研修内容を協議する。
- 大学の専門研修支援チームと連携。

7 専門研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	長谷 公隆	教　授	リハビリテーション医学	日本リハビリテーション医学会指導医、日本臨床神経生理学会専門医
指導医	附属病院	田口 周	助　教	リハビリテーション医学	日本リハビリテーション医学会指導医
指導医	総合医療センター	菅 俊光	診療教授	リハビリテーション医学	日本リハビリテーション医学会指導医、日本整形外科学会専門医、リウマチ学会認定医
指導医	くずは病院	島田 聡史	助　教	リハビリテーション医学	日本リハビリテーション医学会指導医

総合リハビリテーションセンター（附属病院）

形成外科 専門研修 プログラム

関西医科大学形成外科では、形成外科で行っている全領域の手術と皮膚レーザー治療を幅広く研修できます。令和6年の年間の附属病院での手術合計2,313例、総合医療センターでの手術合計946例で、両附属病院の総手術症例数は3,259例と極めて症例豊富で、実に多種多様な症例を経験することができます。また、令和元年度から香里病院にも形成外科が増設され幅が広がりました。多くの関連病院を有し、全体でも多くの治療を進めており、それぞれ特色ある症例の経験をすることができます。専門研修では、1)形成外科的縫合法、創傷処置や管理、遊離植皮や基本的皮弁手術などの基本的形成外科手技を確実に身につけ、2)外傷、先天異常、腫瘍の治療や再建術、創傷の治療の考え方や治療方針立案を身につけ、これらを主治医として体験し、3)高度な0.4mm径からの血管を吻合するマイクロサージャリーによる遊離組織移植、顔面骨切り手術、緊急手術、抗加齢医療など多彩な症例を担当していただきます。

形成外科プログラム統括責任者
形成外科学講座 教授
覚道 奈津子

平成14年 関西医科大学 卒業
令和３年 関西医科大学 形成外科学講座 教授
主要な専門領域：形成外科全般、皮膚腫瘍外科、ケロイド・瘢痕、眼瞼形成、再生医療

講座サイトはこちら

あなたも関西医大形成外科で “スーパードクター”を 目指しましょう！

主な治療対象：外傷：顔面外傷・熱傷・切断指再接着・外傷性瘢痕など、先天異常：唇裂・口蓋裂・多指(趾)症合指(趾)症・小耳症・埋没耳など、皮膚形成：皮膚・軟部組織腫瘍・母斑・血管腫・肥厚性瘢痕・真性ケロイド・瘢痕拘縮・潰瘍・褥瘡、再建：頭頸部再建・乳房再建・手指・四肢再建・顔面神経麻痺・漏斗胸、眼形成(眼瞼下垂、内反症など)、美容：皮膚美容や抗加齢医療(シワ、シミ)など。

- 関西医科大学形成外科は、日本形成外科学会認定施設、日本熱傷学会専門医研修認定施設、日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会乳房再建用インプラント・エキスパンダー実施施設に指定されています。
- 乳癌切除後の乳房変形に対して、脂肪幹細胞(ASCs)を用いた再生医療の研究を進めています。
- 多血小板血漿(PRP)を用いた先進の潰瘍や褥瘡に対する創傷再生医療を進めています。
- 顎顔面領域の先進のナビゲーションや各種シミュレーションを使用した骨切り術や骨折治療を進めています。
- 機能、整容を含めた質の高い頭頸部再建を遊離皮弁を用いマイクロサージャリーの技術で進めています。
- 乳房全摘、皮下乳腺全摘、乳腺部分切除などそれぞれに対応した審美性も高い再建を進めています。
- 救命救急センターと切断指、重傷熱傷、顔面外傷はオンコールで対応し、適切な治療を進めています。
- 数少ない公認された再生医療である培養表皮を用いた重傷熱傷治療を進めており、関西医大方式として知られています。
- 先進の形成外科診療や研究を進めているため、海外からの留学生や国内外からの見学者が来られています。

研究テーマ

- 脂肪組織由来多分化細胞(ASCs)の骨、軟骨、腱、筋肉への分化誘導
- 多血小板血漿(PRP)による創傷治癒、組織再生
- 電場氷点下非凍結における細胞・組織の保存
- 毛発育におけるサイトカインの影響

皮膚レーザー治療中

マイクロサージャリーの手術中

1 専門研修の目標

体表外科としての形成外科の基本から先進の知識と標準的診療技術を習得する。形成外科の治療を自ら計画でき、良好な医師患者関係を構築し、説明同意を得て治療を進め医療に貢献できる医師を育成する。

2 専門研修修了後に得られる資格

- 日本専門医機構による形成外科領域専門医

3 専門研修プログラム概要

卒後３年目	4～6年目	7年目
附属病院または総合医療センターでの専門研修	附属病院か連携病院での専門研修	大学院入学か臨床研修継続＊＊
開始時に形成外科学会入会＊		日本形成外科学会領域専門医取得
指導医・治療グループでの指導体制	独立した主治医として患者を担当し、疾患により指導医の指導を受ける	指導医を目指し専門性を高める

＊卒後3年目より前でも入会可能　＊＊上位の指導医や学位を目指す

研修のために参加する学会

- 日本形成外科学会(総会・学術集会、基礎学術集会)、関西形成外科学会、日本熱傷学会、日本頭蓋顎顔面外科学会、日本マイクロサージャリー学会、日本創傷外科学会など

4 専門研修プログラムでの関連病院の数と症例数

連携施設(11)：総合医療センター、彦根市立病院、洛和会音羽病院、八尾市立病院、河内総合病院、済生会野江病院、市立岸和田市民病院、県立尼崎総合医療センター、高槻赤十字病院、運動器ケアしまだ病院、医誠会国際総合病院

連携候補施設(１)：生駒市立病院

疾患大分類手技数	入院			外来			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	111	11	26			43	191
先天異常	106		6			20	132
腫瘍	230		27			439	696
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	22		3			54	79
難治性潰瘍	39	4	18			20	81
炎症・変性疾患	11		29			74	114
美容(手術)							0
その他			315			36	351
Extra レーザー治療	24					645	669
							総計 2,313

(令和６年度)

5 専門研修後の進路

- 大学院入学
- 附属病院または関連病院で専門性を高める研修
- 国内・国外への留学・研修実績多数あり
- 高度医療人育成制度による臨床留学

6 評価・支援制度

- 日本形成外科学会の専門医研修プログラムに沿った広い分野の症例を経験
- 学会発表、論文作成指導
- 症例、研修、研究カンファレンス参加
- 当科運営関連する学会、研究会、研修会に参加

7 専門研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	覚道 奈津子	教　授	形成外科	日本形成外科学会専門医 日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医、日本美容外科学会(JSAPS)専門医 日本形成外科学会小児形成外科分野指導医 日本形成外科学会再建・マイクロサージャリー分野指導医 日本臨床皮膚外科学会専門医 日本再生医療学会再生医療認定医 日本形成外科学会レーザー分野指導医
指導医	附属病院	日原 正勝	准教授	形成外科	日本形成外科学会専門医 日本救急医学会専門医 日本熱傷学会専門医 日本形成外科学会再建・マイクロサージャリー分野指導医 日本形成外科学会小児形成外科分野指導医 日本温泉気候物理医学会温泉療法医 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医
指導医	附属病院	益岡 弘	講　師	形成外科	日本形成外科学会専門医 日本頭蓋顎顔面外科学会専門医 日本形成外科学会小児形成外科分野指導医
指導医	附属病院	光井 俊人	講　師	形成外科	日本形成外科学会専門医 日本形成外科学会小児形成外科分野指導医 日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医
指導医	総合医療センター	畔 熱行	講　師	形成外科	日本形成外科学会専門医 日本創傷外科学会専門医 日本形成外科学会再建・マイクロサージャリー分野指導医 日本形成外科学会小児形成外科分野指導医

皮膚科 専門研修 プログラム

皮膚は、人体で最大の診てわかる臓器です。いわゆる皮膚科疾患はもちろんのこと、しばしば他臓器病変の表現型としても重要な意味を有することがあるため、皮膚の観察方法についてトレーニングを積むことは臨床力UPに直結します。外来あるいは病棟での診療を通して、基本的な診察方法、診断、治療方針の決定に至る思考過程を理解し、最新の検査や手術手技などについても学習出来る環境を整えています。診る皮膚について少しでも興味のある先生方の参加をお待ちしています。

附属病院 皮膚科プログラム統括責任者
皮膚科学講座 教授
谷崎 英昭

平成14年 島根大学 卒業
平成22年 京都大学大学院医学研究科皮膚科学 修了
平成25年 米国コロラド大学皮膚科 留学
令和２年 関西医科大学 皮膚科学講座 教授
主要な専門領域：皮膚免疫・アレルギー、
皮膚外科・創傷治癒、尋常性痤瘡

講座サイトはこちら

個々のキャリア形成にむけて New Normalな研修環境で学べます

免疫・アレルギーから手術まで幅広い症例を経験できます

- アレルギー性疾患の診断と治療：アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触皮膚炎、薬疹、光線過敏症などのアレルギー性皮膚疾患の診断、原因解明、治療には詳細な問診に基づいた診療が重要です。附属病院では食物負荷試験も実施しており、アレルギー検査、光線テストなどの実際を学び、実践力につなげています。
- 皮膚良性・悪性腫瘍に対する外科的治療から放射線療法、最新の免疫チェックポイント阻害薬の治療まで集学的な治療を行っています。また、循環障害に基づく皮膚潰瘍やフットケア、爪病変の治療も積極的に行っています。
- 生物学的製剤を用いた治療：難治性のアトピー性皮膚炎や乾癬、蕁麻疹や皮膚筋炎などの膠原病に対して、各種新規抗体製剤の治療を行っています。アトピー性皮膚炎・乾癬・蕁麻疹については、日本でも有数の治療経験をほこり、症状のみならず患者さんの自覚症状の改善も共有できることから医療の醍醐味を実感できます。
- 光線療法：乾癬、アトピー性皮膚炎、白斑などの種々の難治性疾患に対し紫外線治療が有効であり、当科ではnarrow-band UVB療法や、ターゲット型エキシマライト、PUVA療法を積極的に行い、附属病院では年間約10,000件、総合医療センターでは約6,000件行っています。
- 膠原病・サルコイドーシスの診断・治療：症状が全身に及ぶ疾患群に対して、その診断と治療目標に重要な臨床症状となっています。当科ではとくにサルコイドーシスと強皮症の症例を豊富に経験しており、疾患特異抗体に基づいて診断し適切な最新の治療を行っています。

「診て診断する皮膚」だからこそ解る皮膚科学が実感できます

皮膚科は診断・治療の面で、内科学、外科学、病理学的な要素を持つ科と言えます。アレルギー・炎症性疾患を中心とした一般皮膚科学に興味のある医師はもちろんのこと、皮膚を通して小児科疾患や内科的疾患にとり組んでいきたい、悪性疾患の治療や外科的治療を積極的にやっていきたい、研究に取り組みその結果を臨床の場に生かしたい、など皮膚科を選んだ次の専門領域決定にも様々な可能性が広がっています。各先生方のキャリアアップにあわせて、多面的な要望を受け入れられるのが皮膚科学の利点です。

研究テーマ

診療面で力を入れ当科の特色となっているアレルギー性皮膚疾患、乾癬、悪性腫瘍、サルコイドーシスなどに関する研究を中心に行っています。

- アトピー性皮膚炎・乾癬における生物学的製剤投与時の新規バイオマーカーの探索・全身炎症性疾患として血管イベントなどリスク因子における解析
- 悪性黒色腫の皮膚・リンパ節におけるサイトカインバランスに着目した転移形式の解明
- 皮膚稀少癌の発生に関する遺伝的背景の網羅的解析
- 好塩基球の皮膚・血中動態に着目した蕁麻疹発症に関する病態解析
- AI画像解析を用いた皮膚血管拡張所見などの診断法の開発
- 細胞内パターン認識受容体NOD2遺伝子の変異によって肉芽腫をきたす機序の解明

総合医療センター 皮膚科プログラム統括責任者
清原 隆宏

平成３年 北海道大学 卒業
平成19年 福井大学大学院医学研究科皮膚科学 卒業
平成19年 福井大学医学研究科感覚運動医学講座皮膚科学領域 准教授
平成26年 関西医科大学 総合医療センター皮膚科 病院教授
主要な専門領域：皮膚病理、皮膚悪性腫瘍

正確な診断に基づいたきめ細かい治療を実践する皮膚科の研修を受けていただきます。スキンキャンサー治療センターの活動を通じて、皮膚癌診療を取り巻く多科連携医療についても学んでいただきます。

1 専門研修の目標

病棟において指導医のもとに患者を受持ち、また外来診療に参加して、日本皮膚科学会認定専門医制度のカリキュラムに準拠した皮膚科臨床に必要な基本的知識、皮膚科主要疾患に関する診断、治療に必要な基本的態度・技術を学びます。

2 専門研修修了後に得られる資格

- 日本皮膚科学会専門医

3 専門研修プログラム概要

	卒後３年目	４年目	５~６年目	７年目
研修施設	附属病院または総合医療センターでの専門研修		附属病院または総合医療センターでの専門研修あるいは大学院入学	
学会	日本皮膚科学会に入会	下記に表記		日本皮膚科学会専門医試験
研修体制	上級医からの指導、学会発表、論文発表、講習会参加	上級医からの指導、外来診察、学会発表、論文発表、講習会参加	専門性を高める研修、学会発表、論文発表、講習会参加	

- 附属病院プログラムと総合医療センタープログラムの２つの専門研修プログラムを有しています。
- 専門医の取得申請にあたっては、日本皮膚科学会の正会員として皮膚科専門医研修施設での研修を５年間以上行うことが必要です。皮膚科専門医申請に必要な単位に関して講習会参加、学会発表、原著論文発表の３項目の合計で最低150単位の取得が必要です（内訳は講習会参加30単位以上、原著論文発表30単位以上）。学会発表に関しては、大学での研修期間に少なくとも年に約2~3回の発表を行います。また、原著論文も年に約2~3編発表できるように指導し、その結果、必要な研修期間に勤務した入局者のすべてが専門医試験受験資格を取得しています。

研修のために参加する学会
日本皮膚科学会総会、中部支部総会、近畿集談会、大阪地方会、日本皮膚アレルギー接触皮膚炎学会
日本皮膚悪性腫瘍学会、日本乾癬学会

4 専門研修プログラムでの関連病院の数と症例数

総合医療センター、香里病院、済生会野江病院、済生会泉尾病院、
大阪国際がんセンター、京都第一赤十字病院

年間症例数	外来症例数（延べ）	入院症例数（延べ）	手術症例数
基幹病院での症例数	32,000	3,000	180

（令和６年度）

5 専門研修後の進路

- 大学附属病院に残りスタッフとして診療・教育・研究を行う。
- 市中病院でさらに研鑽を積み専門性を高める。
- 大学院に入学して学位を取得する。海外・国内留学についても積極的に勧めています。

6 評価・支援制度

- 病棟医長と指導医のもと、入院患者さんの全般的診療を学びます（病床数は附属病院10床、総合医療センター６床、香里病院５床）。
- 皮膚悪性腫瘍、皮膚潰瘍、炎症性皮膚疾患、膠原病、皮膚・軟部組織感染症などの症例を中心に、入院の必要性のある患者は随時入院加療しています。手術症例については指導医の執刀に立ち会い、手技の指導を受けます。
- 病棟回診では患者の治療方針について教室員全員で討論し、知識を深めます。
- 外来研修においては、検査係や処置係として習練し、実際の外来診療も早い時期から経験し、多彩な皮膚疾患に対する知識や手技が獲得できるようになります。
- 毎月、各分野のエキスパートの外部講師の講演を聞き、その後問題症例を詳しく検討し、その分野の知識を深める会を行っています。
- 年２回、連携施設研修管理委員会で研修成果を確認します。

7 専門研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	谷崎 英昭	教　授	皮膚アレルギー 皮膚外科 尋常性痤瘡	日本皮膚科学会専門医 日本アレルギー学会アレルギー専門医 日本がん学会がん治療認定医
指導医	附属病院	岸本 泉	講　師	皮膚アレルギー 皮膚免疫	日本皮膚科学会専門医
指導医	附属病院	久米 典子	助　教	皮膚外科 皮膚悪性腫瘍	日本皮膚科学会専門医
指導医	附属病院	田嶋 安紀	助　教	皮膚外科 皮膚悪性腫瘍	日本皮膚科学会専門医
指導責任者	総合医療センター	清原 隆宏	病院教授	皮膚悪性腫瘍 皮膚病理	日本皮膚科学会専門医 皮膚悪性腫瘍指導専門医
指導医	総合医療センター	伊藤 眞未	助　教	皮膚科一般	日本皮膚科学会専門医
指導医	香里病院	四十万谷 貴子	助　教	皮膚外科 皮膚科一般	日本皮膚科学会専門医

皮膚悪性・良性腫瘍手術も積極的に行っています。

回診・症例検討会：意見を言いやすい雰囲気のなか議論を深めています。

泌尿器科専門研修プログラム

関西医大腎泌尿器外科は、わが国で最も早くから腹腔鏡手術を開始し、ロボット支援腹腔鏡手術を含め年間300例を超え、これまでに総計で4,000例以上の経験を持っています。ロボット手術は、現在通算1,800例を超え、国内でもトップクラスの件数を誇ります。膀胱がん、前立腺肥大症、尿路結石等に対する尿路内視鏡手術の症例数も関西随一で、腹腔鏡・内視鏡手術に関する充実した研修を受けられることが、本学の専門研修の大きな特長です。さらに、男性不妊症や更年期障害などのAndrology、腫瘍学、腎移植、女性泌尿器の分野にも指導医が存在し、高度な診療を学ぶことができます。個々の患者さんの治療方針は、カンファレンスで全員で検討され、その過程で、診断や治療方針の決定について学ぶことができます。また、専攻医は必ず上級医師とのペアでのチーム医療を行い、常に疑問点を相談し解決できるシステムです。患者さんのQOLを重視した低侵襲治療の実践を通じて、ハイレベルな泌尿器科医を育成することに皆で力を合わせています。若い諸君の参加を期待しています。

泌尿器科プログラム統括責任者
腎泌尿器外科学講座 教授
木下 秀文

昭和63年 京都大学 卒業
令和３年 関西医科大学 腎泌尿器外科学講座 教授
主要な専門領域：泌尿器腹腔鏡手術、尿路生殖器癌、前立腺肥大症

講座サイトはこちら

あなたも泌尿器内視鏡手術のプロフェッショナルになれる！

附属病院は腹腔鏡手術・ロボット支援手術のメッカ

- 当教室は、早期から泌尿器腹腔鏡手術に取り組んできたため、全国でトップレベルの技術と症例数を有しています。そのため他大学から研修に来られる先生も少なくありません。
- 泌尿器腹腔鏡技術認定医は現在の教室員のうち12名が取得し、低侵襲手術を行っています。更に難易度の高い単孔式腹腔鏡手術も多数行っています。
- 専攻医は、腹腔鏡手術の基礎から学び、技術認定を目指して修練します。
- 手術支援ロボットダ・ヴィンチXi,hinotoriが導入されました。コンソールが2台あるので、シミュレータートレーニングも含め、効率よくロボット手術の研修を受けられるのが特長です。
- ロボット支援前立腺全摘除術は、大阪初の手術見学認定施設に認可されました。ロボット支援腎部分切除術も比較的困難な症例も対象とし、質の高い手術を行っています。
- 令和6年度の総手術件数1,391件、うち330件は泌尿器腹腔鏡手術（ロボット支援手術を含む）で関西でもトップクラスです。
- ロボット支援手術は1,800例を突破し、国内ではトップクラスの手術件数を誇ります。令和６年度のロボット支援前立腺全摘除術114件、ロボット支援腎部分切除術44件です。
- 腎センターを開設、腎臓内科医と協力して慢性腎臓病の予防から腎移植まで幅広い診療を行います。生体腎移植を令和６年度には12件行いました。ドナー腎採取術は単孔式またはreduced port腹腔鏡手術で行います。
- 透析業務をローテートし、透析専門医の取得も可能です。
- 尿路結石内視鏡手術や上部尿路上皮癌への尿管鏡手術のエキスパートが存在し、全国でもトップクラスの研修が可能です。

総合医療センターでは、尿路結石内視鏡手術や前立腺小線源治療、女性泌尿器外科などの高度な研修が可能

- 三島崇生部長は、泌尿器科手術に習熟した手術のエキスパートです。
- 手術支援ロボットダ・ヴィンチXiが導入されました。
- 結石治療センターを開設し、最新鋭の機器を用いた治療を展開しています。
- 令和５年度の総手術件数587件（ESWL除く）。
- 女性泌尿器外来も開設。性器脱に対するメッシュ手術、腹腔鏡手術を実施しています。

泌尿器腫瘍学、腹腔鏡手術、Andrologyなどで研究を推進

研究テーマ

- 腹腔鏡手術・ロボット支援手術手技の技術分析
- 尿路結石症に関する臨床研究
- 内視鏡手術ナビゲーションシステム、シミュレータ、トレーニングシステムの開発
- 膀胱癌幹細胞に関する研究
- 副腎：幹細胞に関する研究、自家移植に関する研究
- 腎移植患者のサルコペニアに関する研究
- 腎部分切除術後の腎機能評価に関する研究
- 尿路性器癌に関する臨床研究
- 男性更年期障害、女性性器脱に関する臨床研究

ダ・ヴィンチXi

香川大学との野球の対抗戦（京セラドーム）

1 専門研修の目標

- 尿路生殖器癌、尿路結石症、尿路性器感染症、排尿障害、前立腺肥大症、腎機能障害など、泌尿器科全般について最新の知識と標準的な診療技術を習得し、独立した泌尿器科医として医療に貢献できる実力を身につける。
- 泌尿器腹腔鏡手術の基本的技術を習得する。
- hinotoriを用いたロボット支援手術の助手および術者としての技術を習得する。
- 透析業務を経験し、末期腎不全に対する治療戦略を学ぶ（希望者）。
- 日常診療を通じて、自ら疑問を持ち、調べ、科学的に考える。医学研究の重要性を認識し、研究に参画する態度を身につける。さらには、臨床上の疑問にもとづいて臨床研究を実践する。

2 専門研修修了後に得られる資格

- 日本泌尿器科学会専門医
- 日本透析学会専門医（希望者）

3 専門研修プログラム概要

	卒後３年目	４年目	５年目	６年目	７年目
研修施設	附属病院または総合医療センターでの専門研修	関連病院での専門研修	大学附属病院または関連病院での専門研修		大学院入学または臨床研修継続
学　会	泌尿器科学会に研修開始宣言	定められた症例数・手術数を経験			泌尿器科学会専門医試験
研修体制	指導医と１対１の指導体制	独立した主治医として患者を担当（診療チームに上級医が参加・指導）			泌尿器科の中で専門性を高める研修
	疾患によって専門医の指導				
研修目標	担当医としての基本的態度の習得	主治医として独り立ち	後輩の指導を担当		Subspecialtyの決定
	基本的な疾患の診断と治療についての知識の習得	陰嚢内小手術・経尿道的手術の術者として独り立ち	上部尿路内視鏡手術の術者として独り立ち		困難な尿路内視鏡手術の執刀
	泌尿器科の基本的検査・手技の習得	腹部・骨盤部開放手術の習得			腹部・骨盤部開放手術の術者として独り立ち
	尿路内視鏡手術の習得、腹腔鏡手術、ロボット支援手術の基本の習得		腹腔鏡手術の執刀		泌尿器腹腔鏡技術認定取得を目指した研修
	泌尿器科がん薬物療法の実際の習得		ロボット支援手術の執刀		ロボット支援手術プロクターを目指した研修
		希望者は透析業務もローテートし、専門医取得を目指します			

研修のために参加する学会　●日本泌尿器科学会 総会・中部総会・関西地方会　●日本泌尿器内視鏡ロボティックス学会

4 専門研修プログラムでの関連病院の数と症例数

総合医療センター、香里病院、大阪府済生会野江病院、大阪府済生会泉尾病院、守口敬仁会病院、香川大学医学部附属病院、神戸中央市民病院、高槻赤十字病院　ほか8病院

年間症例数	外来症例数（延べ）	入院症例数（延べ）	手術症例数
基幹病院での症例数	30,670	17,386	1,391

（令和６年度）

5 専門研修後の進路

- 大学院入学
- 大学附属病院または関連病院での専門性を高める研修
- 国内他施設での研修実績多数あり
- 高度医療人育成制度による臨床留学
- 日本がん治療認定医、泌尿器腹腔鏡技術認定医、日本生殖医学会生殖医療専門医、日本性機能学会専門医、日本移植学会移植医療専門医、日本内分泌外科学会内分泌外科専門医、日本透析学会専門医などを目指す

6 評価・支援制度

- 日本専門医機構に認可された専門医研修プログラムに沿って、求められる症例を経験できるようにする。
- 年に1回以上、研修責任者（教授）と面談。進路や研修内容について協議する。また専門研修管理委員会を開催し、個々の専攻医の研修進捗状況を確認している。
- 大学の専門研修支援チームと連携。

7 専門研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	木下 秀文	教　授	前立腺癌 泌尿器科腫瘍 ロボット支援手術	日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本遺伝学会遺伝専門医、泌尿器腹腔鏡技術認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医、泌尿器科da Vinci Si支援手術教育プログラム修了プロクター認定医、臨床遺伝専門医
指導医	附属病院	矢西 正明	准教授	腎移植 腎臓疾患	日本泌尿器科学会専門医・指導医、泌尿器腹腔鏡技術認定医、日本移植学会認定医 臨床腎移植学会認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本腎臓学会腎臓専門医・指導医
指導医	附属病院	谷口 久哲	病院准教授	アンドロロジー	日本泌尿器科学会専門医・指導医、泌尿器腹腔鏡技術認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 泌尿器科da Vinci Si支援手術教育プログラム修了、プロクター認定医 日本性機能学会専門医、仙骨神経刺激療法（SNM）ハンズオンセミナー受講
指導医	附属病院	滝澤 奈恵	講　師	副腎腫瘍	日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本内分泌外科学会専門医 日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
指導医	総合医療センター	三島 崇生	病院准教授	前立腺肥大症（TUEB） 女性泌尿器 泌尿器腹腔鏡手術	日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医 泌尿器腹腔鏡技術認定医、泌尿器科da Vinci Si支援手術教育プログラム修了
指導医	総合医療センター	大杉 治之	診療講師	排尿障害、泌尿器科癌 結石治療	日本泌尿器科学会専門医・指導医、泌尿器腹腔鏡技術認定医
指導医	香里病院	村上 彰悟	助　教	尿路結石	日本泌尿器科学会専門医

眼科
専門研修
プログラム

関西医科大学眼科では、昭和7年の設立以来、内科的治療からマイクロサージェリーに至るまで、全身管理と視覚の改善を総合的に扱い、患者の生活の質の向上に寄与する多様な専門領域での実績を積み重ねてきました。日々の臨床においては、先端医療の進歩とともに新たな技術を迅速に導入し、各専門外来での充実した研修を通じて、幅広いSpecialtyを持つ眼科医としての専門性を深める機会を提供しています。私たちは、患者の笑顔を直接的に創出するやりがいのある環境で、新たな可能性に満ちた皆さんの参加を心よりお待ちしております。

眼科プログラム統括責任者
眼科学講座 教授

今井 尚徳

平成13年　　神戸大学 卒業
平成19年~21年 米国ペンシルバニア州立大学 留学
令和６年　　関西医科大学 眼科学講座 教授
主要な専門領域：網膜硝子体疾患、白内障

講座サイトはこちら

研修を通して考える レベルの高い眼科医を 目指して欲しい

当院眼科の専門研修プログラムは、様々な眼科疾患に対して、日々進歩する眼科医療に対応して専門的知識と診療技能を獲得する第一歩を踏み出すことを目的とします。
本学の眼科専門研修プログラムの特徴は以下のとおりです。

伝統あるプログラム

開講94年を迎える歴史ある教室であり、「慈仁心鏡」の建学の精神に則り、慈しみの心を重んじ、知識と技術のバランスのとれた眼科医をすでに500名以上、育てた実績があります。

３つの総合病院と多彩な関連施設

関西医科大学附属の総合病院を3施設持ち、そのほか大阪府を中心とする近畿一圓の関連施設ともに、高度先進的医療から地域医療まで多彩な疾患を対照とする研修を行えます。

圧倒的な外来患者数と手術件数

日本でも有数の症例数を誇る黄斑診療および網膜硝子体手術など、十分な外来患者数と手術件数を誇るため、日本をリードする診療が経験できます。

各分野専門指導医の存在

網膜硝子体、黄斑以外にも、角結膜、緑内障、白内障、ブドウ膜、斜視弱視、未熟児、糖尿病、ぶどう膜炎、涙道などの各専門家が指導医として存在するため、幅広い疾患を経験できます。

独自の手術教育

とくに手術指導には力を入れており、常時使用可能な豚眼を使った手術鍛錬施設を有し、「関西医大方式」として段階的に手技を習得する独自の白内障手術教育システムを取り入れています。

幅広い入局者の構成

出身大学は本学、他の私立医科大学、国公立大学と様々であり、毎年平均3.5人の入局があります。過去10年間の入局者は35名（本学17名、他学18名）であり、男性19名、女性16名と偏りのない多彩な構成となっており、非常によい環境で研修が行えます。また、育児、出産についても、医局独自の内規があり、両立を目指せます。

学会発表と論文作成の経験

臨床スライドカンファランス（学内カンファ）や大阪府眼科集談会での発表を経験し、全員、一年目には全国学会発表と論文作成を遂行することを目標としています。

豚眼を使った手術練習

1 専門研修の目標

白内障、緑内障、網膜硝子体疾患（網膜剥離、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性など）をはじめ、角結膜疾患や神経眼科疾患、眼外傷に至るまで眼科全般の基礎から最先端の知識や診療技術の習得を行い、将来勤務医または開業医として能力を忌憚なく発揮できる実践的臨床力を身につけることを目標とします。

2 専門研修修了後に得られる資格

- 日本眼科学会専門医

3 専門研修プログラム概要

卒後３年目	４年目	５年目	６年目	７年目
附属病院での専門研修	学外関連病院での専門研修		大学附属病院・総合医療センター・香里病院など関連病院での専門研修あるいは大学院入学	
日本眼科学会入会			日本眼科学会専門医試験	
マンツーマン体制による指導体制			外来・病棟の臨床研修継続 専門外来の研鑽スタート	

4 専門研修プログラムでの関連病院の数と症例数

総合医療センター、香里病院、済生会野江病院、倉敷中央病院、兵庫県立尼崎総合医療センター、北野病院、天理よろづ相談所病院、大阪赤十字病院 ほか8病院

年間症例数	外来症例数（延べ）	入院症例数（延べ）	手術症例数
基幹病院での症例数	38,494	8,528	2,394

（令和６年度）

5 専門研修後の進路

- 大学院医学研究科へ入学、学位取得
- 関連施設（前述）へ出向の上、臨床能力、専門性を高める研修
- 日本眼科学会専門医取得後、大学内で専門領域を究め、日本眼科学会指導医、PDT認定医、視覚障害者用補正具適合判定認定医などを目指す。

6 評価・支援制度

- 日本眼科学会専門医制度による研修プログラムに沿った、様々な疾患の検査・手術を含めた治療を経験できます。
- 女性の多い診療科でもあり、出産後の職場復帰に対して大学のオール女性医師キャリアセンターのプログラムに則った環境整備をしています。

7 専門研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	今井 尚徳	教　授	網膜硝子体疾患、白内障	日本眼科学会専門医・医師臨床研修指導医 眼科PDT認定医
指導医	附属病院	佐々木 香る	病院教授	角膜結膜疾患	日本眼科学会専門医・医師臨床研修指導医 日本眼科学会指導医 Infection Control Doctor
指導医	附属病院	大中 誠之	准教授	黄斑疾患、未熟児網膜症、白内障	日本眼科学会専門医・医師臨床研修指導医 眼科PDT認定医
指導医	総合医療センター	西村 哲哉	理事長特命教授	網膜硝子体疾患、黄斑疾患 糖尿病網膜症、白内障	日本眼科学会指導医 日本眼科学会専門医・医師臨床研修指導医
指導医	総合医療センター	尾辻 剛	病院教授	黄斑疾患、ぶどう膜炎 眼循環、緑内障、白内障	日本眼科学会指導医 日本眼科学会専門医・医師臨床研修指導医 眼科PDT認定医
指導医	総合医療センター	三木 克朗	診療講師	黄斑疾患、角膜疾患	日本眼科学会専門医・医師臨床研修指導医 眼科PDT認定医

耳鼻咽喉科・頭頸部外科専門研修プログラム

当教室は昭和7年に開講し、94年間培われてきた技術と知識を活かし、実践的な医療のみならず最先端の医療も学ぶことができます。第一に現場を、その思考を日々の臨床および研究にぶつけ、いつでも真摯に診療に取り組む姿勢を持つ人材育成を目指しています。そのために指導医は惜しみなく教育を行い、指導医を越える耳鼻咽喉科頭頸部外科医を育てたいと思っています。専攻医のニーズも大切にしつつ、高い倫理観を持ち、確かな知識・技能を発揮できる耳鼻咽喉科・頭頸部外科医となるため、また医療チームのリーダーとなるための医療技術の習得に加え、レジリエンスを自ら高めることができるよう指導しています。本プログラムでは耳鼻咽喉科・頭頸部外科の外科的内科的領域の両方をバランスよく履修できるように配慮しています。つまり耳科、めまい平衡、鼻科、頭頸部、音声・嚥下、気管食道、睡眠、アレルギーとそれぞれの専門分野に精通するスタッフによる指導により、偏りなく広く学ぶことができる研修を目標としています。専門研修基幹施設および専門研修連携施設における外来症例、手術件数ともに、専門研修プログラムが定める到達目標を超える経験を積むことが可能です。本プログラムは、研修修了時に基本的疾患に関しては自信をもって診断・治療ができることを目標としています。また社会に対して良質かつ安全な医療を提供できるだけでなく、さらなる医療の発展にも寄与する人材の育成のためのプログラムです。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科プログラム統括責任者
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授
八木 正夫

平成7年　関西医科大学 卒業
平成9年~11年　米国ミシガン大学 クレスゲ聴覚研究所 留学
令和7年　関西医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授
主要な専門領域：頭頸部外科、唾液腺、甲状腺、内耳研究

講座サイトはこちら

最良の医療を身に付け養う

臓器別、分野別での高い専門性を持つだけでなく、その人の置かれた社会環境や経済状態なども勘案できる人間味ある医師を目指します。

当教室の特徴

伝統と変化への寛容性を備えた教室

当教室は耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患全般に対して専門的かつ高い医療水準での治療を行っていると自負しています。過去40年内に2度耳鼻咽喉科学会総会を主宰していることもその活動の高さを評価できる一端で、その他に耳科、鼻科、口腔咽頭、頭頸部外科、気管食道科学会など多数の主要な国内および国際学会を主宰してきました。

頭頸部外科領域への真摯な取り組み

頭頸部腫瘍は、口腔癌、咽頭癌、喉頭癌、副鼻腔癌などのいわゆる頭頸部扁平上皮癌と、唾液腺、甲状腺などの腺組織から発生する良悪性の混在した腫瘍領域に大きく二分されます。当教室はそのいずれの治療にも実績があり、特に耳下腺手術においては関西随一と自負しています。外視鏡を用いた頭頸部領域の手術件数は国内トップで、外視鏡頭頸部外科手術の教育にも有用性が高く、指導に生かしています。また頭頸部癌に対する光免疫療法やロボット手術などの最先端の技術も取り入れ、特に前者は光免疫医学研究所との連携により研究にも積極的に参画しています。

鼻科学の発展

国内でもいち早く鼻科手術に内視鏡とナビゲーションシステムを導入し、高度な慢性副鼻腔炎症例や再発症例に対しより安全で確実な内視鏡下鼻内手術を行っています。また当システムは専攻医の学習、指導においても非常に有用であり、効率的な内視鏡下鼻内手術のトレーニングができます。特筆すべきは呼吸器内科専門医が在籍しており、One Airway, One Diseaseの概念のもと、上・下気道全体を見渡す臨床と研究に取り組んでいます。日本アレルギー学会認定専門医研修指定病院です。

伝統ある耳科領域

当科は伝統的に中耳臨床、内耳研究において多くの実績を残してきました。臨床面でも中耳手術にとどまらず側頭骨・頭蓋底までのダイナミックな手術を行っています。加えて近年では中耳手術に内視鏡を導入することで、より低侵襲な手術も可能となりました。Minimum invasive surgeryとしての内視鏡手術から頭蓋底手術まで幅広く研修できます。

教育への取り組み

- 「人を育てるは己を育てること」の精神から、専攻医には後輩となる臨床研修医の指導にも積極的に参加していただくことで、自らの知識・技能を整理し評価する能力を身に付けることができます。
- 当教室の専門研修では、患者に対し、科学的根拠に基づく現時点での最良の医療を提供する能力を身に付けるとともに、心理的、社会的側面からの全人的支援を行う習慣を養います。

桜の木の下で新入局員と

頭頸部癌ロボット手術

1 専門研修の目標

日本専門医研修目標に準じ（日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会ホームページ http://www.jibika.or.jp 専門医情報および専門研修記録簿参照）、4年の専門研修を経て専門医試験に合格できる知識・技術を習得し、さらに、耳鼻咽喉科および頭頸部疾患全般について最新の知識と標準的治療を理解・実践できる医師になることを目標に掲げます。

2 専門研修修了後に得られる資格

- 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医

3 専門研修プログラム概要

	卒後3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
研修施設	附属病院または総合医療センターでの専門研修	随時関連病院での専門研修	大学附属病院または関連病院での専門研修	大学附属病院または関連病院での専門研修	大学院入学または臨床研修継続
学会	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会に入会	定められた症例・手術を経験	積極的な学会発表と論文作成	専門医試験に備えた各分野の知識の整理（発表、研修医への講義など）	耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医試験
研修体制	指導医と1対1およびグループでの指導体制 疾患によって専門医の指導	独立した主治医として患者を担当（診療チームに上級医が参加・指導）			癌治療専門施設研修などより専門性を高める研修
研修目標	担当・主治医として基本的態度の習得 基本的な疾患の診断と治療の習得 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の基本的検査の習得 扁桃摘出・喉頭微細・鼻副鼻腔内視鏡手術の習得 頭頸部がん治療の実際の習得（化学療法・緩和・手術助手など）	主治医として独り立ち 気管切開術・扁桃摘出・喉頭微細・鼻副鼻腔内視鏡手術の術者として独り立ち 甲状腺・副甲状腺手術の習得 耳科、鼻科、頭頸部手術の基本の習得	後輩の指導を担当 気管切開術・鼻内副鼻腔内視鏡・甲状腺手術の術者 唾液腺手術の習得 耳科、特殊な鼻科、頭頸部手術の習得	後輩の指導を担当 各領域の基本手術の執刀と研修医への手術指導 甲状腺・唾液腺手術の術者 頸部郭清術の習得 鼻内副鼻腔内視鏡手術の術者	Subspecialtyの決定 困難な鼻内内視鏡手術の執刀 甲状腺、唾液腺手術の術者として独り立ち

4 専門研修プログラムでの関連病院の数と症例数

総合医療センター、香里病院、済生会野江病院、武田総合病院、星ヶ丘医療センター、琉球大学病院、高知大学医学部附属病院、京都府立医科大学附属病院、札幌医科大学附属病院、浜松医科大学医学部附属病院

年間症例数	外来症例数（延べ）	入院症例数（延べ）	手術症例数
基幹病院での症例数	39,320	14,603	772

（令和6年度）

5 専門研修後の進路

- 大学院への入学
- 関連病院への長期出向
- 希望により国内外への研究機関、臨床施設への留学（がんセンター、クレスゲ聴覚研究所など）
- 各種、専門医取得資格を得るために大学および関連病院における研修の継続（日本がん治療認定医、日本頭頸部外科学会頭頸部癌専門医、日本アレルギー学会認定専門医、日本気管食道科学会認定専門医、日本内分泌学会甲状腺外科専門医）
- これらを経て大学病院スタッフ、関連病院勤務および開業など

6 評価・支援制度

- 日本耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会専門医研修目標に準じた症例を経験できるようにする。
- 年数回の進路や研修内容に関する協議を開催する。
- 研修の進捗状況については、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座内に設置されている連携施設研修管理委員会において定期的にチェックされ、適切に研修者にフィードバックされる。

7 専門研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	八木 正夫	教　授	頭頸部腫瘍 特に唾液腺腫瘍 甲状腺腫瘍および感染症	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定耳鼻咽喉科専門医、耳鼻咽喉科専門研修指導医 日本気管食道科学会専門医 身体障害福祉法第15条指定医（聴覚・平衡、音声・言語、そしゃく機能障害）、めまい相談医
指導医	附属病院	日高 浩史	准教授	耳科手術 難聴、人工内耳 小児耳鼻咽喉科 耳鼻咽喉科領域の感染症	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定耳鼻咽喉科専門医、耳鼻咽喉科専門研修指導医 日本耳科学会耳科手術暫定指導医、小児滲出性ガイドライン委員会（委員長） 日本耳鼻咽喉科学会補聴器相談医、騒音性難聴担当医、難病指定医 身体障害福祉法第15条指定医（聴覚・平衡、音声・言語、そしゃく機能障害）
指導医	附属病院	藤澤 琢郎	准教授	頭頸部癌 顎顔面外科	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定耳鼻咽喉科専門医、耳鼻咽喉科専門研修指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医・認定医 身体障害福祉法第15条指定医（聴覚・平衡、音声・言語、そしゃく機能障害） 光免疫（アルミノックス）治療指導医、JCOG頭頸部がんグループ施設研究責任者
指導医	附属病院	鈴木 健介	准教授	頭頸部癌 甲状腺腫瘍 唾液腺腫瘍	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定耳鼻咽喉科専門医、耳鼻咽喉科専門研修指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医・認定医 日本気管食道科学会認定医 身体障害福祉法第15条指定医（聴覚・平衡、音声・言語、そしゃく機能障害） 難病指定医、光免疫（アルミノックス）治療指導医
指導医	附属病院	阪上 智史	講　師	頭頸部腫瘍 経口的咽喉頭手術	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定耳鼻咽喉科専門医、耳鼻咽喉科専門研修指導医 ICD（インフェクションコントロールドクター）、頭頸部がん専門医、頭頸部アルミノックス治療指導医
指導医	附属病院	河内 理咲	助　教	鼻科学全般 免疫アレルギー疾患 睡眠時無呼吸	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定耳鼻咽喉科専門医 耳鼻咽喉科専門研修指導医、日本アレルギー学会専門医 身体障害福祉法第15条指定医（聴覚・平衡、音声・言語、そしゃく機能障害）、日本睡眠学会専門医
指導医	附属病院	三谷 彰俊	助　教	耳鼻咽喉科全般、耳科学 遺伝性難聴 （遺伝子検査担当）	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定耳鼻咽喉科専門医、日本抗加齢医学専門医 日本耳科学会認定医、身体障害福祉法第15条指定医（聴覚障害・平衡機能障害） 騒音性難聴担当医、難病指定医
指導医	総合医療センター	宇都宮 敏生	助　教	耳鼻咽喉科全般	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定耳鼻咽喉科専門医 日本耳鼻咽喉科専門研修指導医
指導医	香里病院	濱田 聡子	病院准教授	鼻副鼻腔手術 免疫・アレルギー 難聴 めまい	日本耳鼻咽喉科学会専門研修指導医、日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本アレルギー学会専門医・指導医、鼻内内視鏡手術暫定指導医、補聴器適合判定医 めまい相談医、身体障害者福祉法第15条指定医、ICD（インフェクションコントロールドクター） 大阪府難病指定医

本研修修了により、耳鼻咽喉科・頭頸部外科専門医試験受験資格を取得するのに十分な経験を積めるだけでなく、どこへ出ても恥ずかしくないプロ意識の高い耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師を育てることを目標としています。また妊娠・育児休暇などの個人の状況に応じてフレキシブルに対応します。

放射線科専門研修プログラム

放射線科の特徴は技術的進歩の速さと診療における守備範囲の広さです。関西医科大学附属病院では日進月歩の技術革新に対応するため、最新の医療機器を導入し、最先端の画像診断、IVR、放射線治療を行っています。

広い守備範囲が特徴の放射線科で、あなたの個性と特技を生かせます！

附属病院での放射線科

画像診断科、血管造影IVR科、核医学科、放射線治療科の4つの診療科に分かれています。そのそれぞれに専門家を配置し独自性を発揮し最先端の医療を提供すると同時に4つの診療科間で密接に連携を取り各診療科からの多様な要望に対応しています。このように放射線科の業務はそれぞれの診療科で内容が異なるため、さまざまな個性を持った医師が自分の特技を生かして働くことのできる診療科です。

専攻医に対する教育体制

それぞれの診療科ごとに放射線診断専門医、放射線カテーテル治療専門医(IVR専門医)、核医学専門医、および放射線治療専門医の資格を有するスペシャリストを配置し、これら4つの診療科間でローテートすることで、各領域の専門家から最先端の知識や技術の伝授が行われるよう心がけています。研究面でも各領域で専攻医の個性を生かしつつ、臨床研究にも参加していただきます。さらに医学部棟内に設置された最新の設備を備えたイメージングセンターを利用して基礎研究も行っています。若い諸君の参加を期待しています。

専攻医に対する研修基本方針

放射線科を専攻する専攻医に対して放射線診断あるいは治療専門医を取得できるよう以下のカリキュラムで研修を行います。最初の2年間で画像診断科、血管造影IVR科、核医学科、放射線治療科の4つの診療科をローテーションし、放射線専門医としての基礎的知識および技量を習得。放射線専門医取得後は、診断あるいは治療のいずれかを選択し、その専門領域の診療科に配属し、診断専門医あるいは治療専門医の取得に向け研修を行います。研修の初期段階より国内外の学会での学術発表、および論文作成の指導を行っています。

放射線科プログラム統括責任者
放射線科学講座 教授

谷川 昇

昭和60年 鳥取大学 卒業
平成13年 テキサス大学
MD Anderson Cancer Center 留学
平成24年 関西医科大学 放射線科学講座 教授
主要な専門領域:IVR、放射線診断学

講座サイトはこちら

放射線科 診療教授

中村 聡明

平成 8 年 神戸大学 卒業
平成14年 大阪大学大学院 修了、シカゴ大学研究留学
令和 5 年 関西医科大学 放射線科学講座 診療教授
主要な専門領域:高精度外部放射線治療(特に頭頸部がん、膵がん、小児がん)
AI放射線治療

がんの放射線治療を担当しています。全身すべてのがんを対象に、根治治療から緩和治療まで、幅広くがん医療を勉強しましょう!

総合医療センター放射線科 診療教授

鶴﨑 正勝

平成 7 年 神戸大学 卒業
平成16年 神戸大学大学院修了、ノースカロライナ大学チャペルヒル校 留学
令和 3 年 近畿大学放射線診断学部門 教授
令和 6 年 関西医科大学 総合医療センター放射線科 診療教授
主要な専門領域:腹部画像診断(特に肝胆膵領域)、IVR

画像診断、IVRを担当しています。あらゆる部位の画像診断や、血管系・非血管系を問わず様々なIVRを習得できるように指導します。

1 専門研修の目標

- 画像診断:画像診断に必要な解剖、正常所見を習熟する。CT、MRIなどの各種撮像条件によって、正常構造がどのように見えるかを理解する。病的所見では形態の特徴と、なぜそのように見えるかなどを理解しながら読影の基本を身につける。
- IVR:放射線カテーテル治療専門医(IVR専門医)レベルの知識と技術を身につける。困難なIVR症例に対しても独りで解決できる診療能力を習得する。
- 核医学:核医学の診療全般に必要な知識を習得し正確な画像判定とわかりやすい診断報告書の作成法を習得する。
- 放射線治療:放射線療法、化学療法、緩和療法などの知識と診療技術を習得し、がん治療専門医として各部位のがん診療に従事できる能力を身につける。

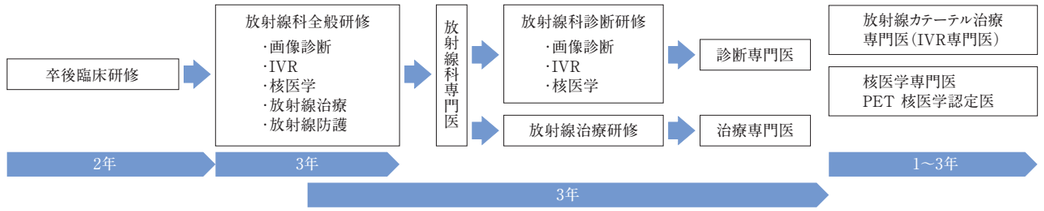
2 専門研修修了後に得られる資格

- 放射線科専門医、放射線診断専門医、放射線治療専門医

更なる専門研修後に取得できる資格

- 放射線カテーテル治療専門医(IVR専門医)、核医学専門医、PET核医学認定医

3 専門研修プログラム概要



4 専門研修プログラムでの症例数

	CT	IVR	放射線治療
基幹病院での症例数	53,065	2,596	1,040

(令和6年度)

5 専門研修後の進路

- 大学院(がんプロを含む)入学
- 大学病院での専門的診療
- 地域がん基幹病院(関連病院)での勤務
- がんセンターなどの専門病院(国内施設)での研修

6 評価・支援制度

- 随時、専攻医と指導医、研修指導責任者との面接を行い、研修状況を確認、指導する。
- 日本医学放射線学会、日本IVR学会、日本核医学会が専門医取得のために求める施設基準とプログラムを満たした研修ができる。
- 国内外での学会参加における旅費支援。
- 専門医取得のための講習参加における旅費支援。
- 英文論文作成のための経済的支援。
- 臨床研修と並行して基礎研究を進めるためのアドバイスと実験支援(リサーチミーティングへの参加)。

研修医への読影指導

7 専門研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	谷川 昇	教 授	IVR	放射線診断専門医、日本IVR学会専門医
指導医	附属病院	中村 聡明	診療教授	放射線治療	放射線治療専門医、がん治療認定医
指導医	附属病院	狩谷 秀治	病院教授	IVR	放射線診断専門医、日本IVR学会専門医
指導医	附属病院	小塚 健倫	講 師	画像診断	
指導医	附属病院	香西 雅介	診療講師	画像診断	放射線診断専門医
指導医	総合医療センター	鶴﨑 正勝	診療教授	IVR	放射線診断専門医、日本IVR学会専門医、肝臓専門医
指導医	総合医療センター	吉田 謙	准教授	放射線治療	放射線治療専門医
指導医	総合医療センター	何澤 信礼	講 師	画像診断	放射線診断専門医
指導医	総合医療センター	丸山 薫	診療講師	核医学	放射線科専門医、核医学専門医

産婦人科専門研修プログラム

産婦人科では、専門医をめざす専門研修に必要なすべてのカリキュラムをカバーし、京阪沿線の枚方にある本院、滝井にある総合医療センター、香里園にある香里病院の3つの大学附属病院の主要な診療科として、当該領域全般にわたる一般診療から高度な先進医療までを経験し、充実した研修を受けられるようになっています。産婦人科専門医取得後のSubspecialtyである婦人科腫瘍、周産期、生殖医療など専門医資格の習得に必要な指導体制やこれら三領域の指導医もそろっており、婦人科内視鏡専門医への修練が可能な技術認定医師もいます。患者数が多く多忙であることは否めませんが、非常に充実した専門医研修ができますので、熱意ある諸君の参加を待っています。

産婦人科プログラム統括責任者
産科学・婦人科学講座 教授
岡田 英孝

平成５年　関西医科大学 卒業
平成15年~16年 豪プリンスヘンリー医学研究所 留学
平成27年　関西医科大学
産科学・婦人科学講座 教授
主要な専門領域：生殖医療、臨床遺伝

講座サイトはこちら

周産期・婦人科腫瘍・生殖医療、すべての分野で超一流の技術を学べます

産婦人科の３領域すべてにおいて十分な症例数を経験できます。common diseaseから最先端の医療まで幅広くエキスパートから学ぶことができます。

研修の主体は本院の附属病院

- 附属病院産婦人科は、大学病院としても近畿圏では屈指の症例数があります。
- 大阪府下6カ所に指定されている総合周産期母子医療センターの一つです。
- 年間約950分娩以上（帝王切開は350例以上）があり、大阪北河内地区（人口100万人）で唯一の三次救急施設として、母体救急搬送を年間250件以上受け入れています。
- 婦人科は開腹、腹腔鏡、腟式合わせて年間約600件の手術（悪性腫瘍は180例）を行っています。
- 生殖医療センターでは年間170件の体外受精と80件の人工授精などを実施しています。
- 技術や知識を習得しながら学会発表をコンスタントに行い、専門医取得に必須の筆頭論文を書けるように指導しています。

総合医療センターでは婦人科研修が主体

- 婦人科疾患主体の診療で、多数の手術を主治医として経験できます。産科は35週以降で重篤な合併症のない分娩を取り扱います。
- 専門研修の間、手術経験を積むために一時期ローテートすることがあります。

香里病院は婦人科研修のみ

- 分娩は取り扱わず、婦人科疾患のみ診療しています。
- 手術の大多数が婦人科良性腫瘍に対する腹腔鏡下手術です。

研究内容

- 枚方キャンパスの8階に研究室があり、培養実験、蛋白や遺伝子の解析、特殊染色、病理組織、生理機能検査などを行っています。
- 研究テーマは、基礎研究では子宮内膜・子宮筋の機能解析、卵胞発育機序、生殖機能と脂質代謝など。臨床研究では婦人科悪性腫瘍の化学療法評価、胎児異常の超音波解析、早産の予防と治療などです。

産科 診療教授　森川 守

平成６年 旭川医科大学 卒業
平成６年 北海道大学 産婦人科 入局
平成19年 仏国CHI ポワシー サンジェルマン・アン・レイ産科 留学
平成28年 北海道大学大学院医学研究院産科 准教授
令和３年 関西医科大学 産科学・婦人科学講座 診療教授
主要な専門領域：周産期医学（産科合併症、内科疾患合併妊娠、胎児治療）

当科は、総合周産期母子医療センターとして、年間に950件以上の分娩、250件以上の母体搬送受入を対応しています。指導医の指導の下、ハイリスク妊娠・分娩から正常分娩（無痛分娩を含む）まで、たくさんの多彩な症例での周産期管理の研修が行えます。

1 専門研修の目標

- 正常および異常妊娠における初期から出産、産褥期までの管理。
- 超音波胎児検査、遺伝子検査などの周産期高度医療。婦人科腫瘍（良性、悪性）の診断と治療。不妊、不育症の検査と治療（体外受精含む）。思春期から老年期までの女性のヘルスケア（月経異常、性感染症、更年期・老年期障害）など。産婦人科全般の知識と診療技能を修得し、独立して診療できる実力を身につける。

2 専門研修修了後に得られる資格

- 日本産科婦人科学会専門医
- 母体保護法指定医

3 専門研修プログラム概要

卒後３年目	４年目	５年目	６年目
附属病院での専門研修開始	附属病院あるいは連携病院での専門研修	大学院入学または大学附属病院あるいは関連病院での臨床研修	
産婦人科学会に研修開始通知	学会発表、症例報告、筆頭論文の作成		産婦人科学会の専門医試験受験
指導医と1対1研修（3~4カ月）以後は独立し主治医として患者対応	独立した主治医として患者対応し、疾患や領域別の専門医指導		産婦人科の各領域についてさらに専門性を高める研修

研修のために参加する学会		
	■必須（専門医試験受験のため出席義務あり） ●日本産科婦人科学会、近畿産科婦人科学会	■希望により参加 ●日本婦人科腫瘍学会、日本周産期学会、日本生殖医学会、日本婦人科内視鏡学会、日本超音波医学会、日本受精着床学会、婦人科手術学会、臨床遺伝学会など ●産婦人科専門医取得後には母体保護法指定医資格も取得可能

4 専門研修プログラムでの関連病院の数と症例数

総合医療センター、香里病院、大阪府済生会野江病院、萱島生野病院、IVFなんばクリニック、IVF大阪クリニック、兵庫県立西宮病院、神戸市立医療センター中央市民病院、渓仁会手稲渓仁会病院

年間症例数	外来症例数（延べ）	入院症例数（延べ）	手術症例数
基幹病院での症例数	34,052	21,970	1,046

（令和６年度）

5 専門研修後の進路

● 大学院入学 ● 大学附属病院または関連病院で専門性を高める研修 ● 国内他施設（他大学含む）での研修 ● 臨床あるいは基礎研究室への国内外留学 ● 婦人科腫瘍専門医（婦人科腫瘍学会）、周産期医療専門医（周産期学会）、生殖医療専門医（生殖医学会）、超音波専門医（超音波学会）、内視鏡専門医（婦人科内視鏡学会）などを目指した修練

6 評価・支援制度

- 日本産婦人科学会の専門医研修内容に沿って婦人科、産科、生殖、ヘルスケア領域の症例を経験する。
- 研修責任者（教授）と定期的に面談し進捗状況や進路を相談する。
- 大学の専門研修支援チームと連携する。
- 指導医および施設責任者による専攻医の評価、専攻医による指導体制等に対する評価を活用してフィードバックを行い研修体制の改善につなげる。
- 基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する専門研修プログラム管理委員会をおき、プログラムの管理と継続的改良を行う。
- 連携施設には連携施設研修管理委員会を設置し、専攻医の情報を共有し施設内での改善に努める。

7 専門研修指導医

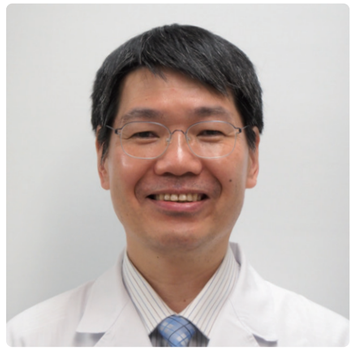
	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	岡田 英孝	教　授	生殖医療	日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本生殖医学会生殖医療専門医 日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医、女性ヘルスケア暫定指導医
指導医	附属病院	北 正人	特命教授	婦人科腫瘍	日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医・審査員 日本内視鏡外科学会技術認定医、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医・指導医、がん治療認定医
指導医	附属病院	森川 守	診療教授	周産期	日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本周産期・新生児医学会母体・胎児専門医・指導医 日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法インストラクター
指導医	附属病院	溝上 友美	講　師	婦人科腫瘍	日本産科婦人科学会専門医・指導医
指導医	附属病院	村田 紘未	講　師	婦人科腫瘍、女性のヘルスケア	日本産科婦人科学会専門医・指導医、がん治療認定医、女性ヘルスケア専門医
指導医	附属病院	中尾 朋子	講　師	生殖医療	日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本生殖医学会生殖医療専門医、難病指定医
指導医	附属病院	吉田 彩	診療講師	周産期	日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本周産期・新生児医学会母体・胎児専門医・指導医 日本超音波医学会専門医・指導医、臨床遺伝専門医
指導医	総合医療センター	吉村 智雄	病院教授	婦人科腫瘍、女性のヘルスケア	日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医、女性ヘルスケア暫定指導医
指導医	総合医療センター	久松 洋司	診療講師	婦人科腫瘍	日本産婦人科学会専門医・指導医
指導医	香里病院	生田 明子	病院教授	婦人科腫瘍	日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本臨床細胞学会専門医、日本超音波医学会専門医・指導医
指導医	香里病院	角 玄一郎	講　師	婦人科腫瘍	日本産科婦人科学会専門医・指導医

医局集合写真

麻酔科専門研修プログラム

麻酔科の診療は手術麻酔管理を中心とした周術期管理、重症患者の全身管理をになう集中治療、疼痛患者・癌末期患者の疼痛に対するペインクリニック（緩和医療）の３本柱から成ります。麻酔科診療の中心は全身管理であり、正常および合併症を持つ患者（生体）が手術侵襲を受けた場合の病態生理とその調節方法、モニタリングについて教育、研究を行っています。臨床研修では主に手術室での勤務に携わり、手術侵襲による生体機能変化とその調節に対する理解を深め、基本的手技、知識を習得することを目指しています。専門研修では麻酔科医として独り立ちできるように各種疾患、各種手術における麻酔管理を指導医と共に主体的に経験してもらいます。また、総合集中治療部（GICU）における重症患者の管理やペインクリニックの研修も可能です。

麻酔科プログラム統括責任者
麻酔科学講座 教授
上林 卓彦



昭和62年　　大阪大学 卒業
平成７年~10年 Stanford University 留学
平成28年　　関西医科大学 麻酔科学講座 教授
主要な専門領域：麻酔科学

講座サイトはこちら

時代の要請に応えた麻酔法の実践

附属病院においては年間7,000例を超える麻酔科管理手術が行われております。高齢者や多種多彩な合併症を有する患者の麻酔管理を行う機会も少なくありません。また、大学附属病院であるため手術法も年毎に進歩・変化してきています。それに対応するため各種生体モニタリング機器を駆使して時々刻々と変化する患者の状態を把握し科学的な全身管理を実施しております。また、pharmacokineticsに基づく各種静脈麻酔薬の血中・効果部位濃度のコントロールを積極的に行い、静脈麻酔法の進歩に貢献しています。他方、重症・合併症症例の全身麻酔管理のみならず、日帰り手術や無痛分娩にも対応しています。短期入院患者が増加する中で、術後痛、悪心・嘔吐など手術後の患者の生活の質が大きな問題となっています。これらの問題への取り組みも麻酔科診療では重要な課題です。例えば術後痛に対しては硬膜外麻酔の普及によって大きな改善が図られましたが、抗凝固薬の使用により硬膜外麻酔ができない患者には超音波ガイド下での神経ブロックなどによりフレキシブルに対応しています。このように時代の要請に応じた麻酔法を身につけていただくことを目標としております。平成27年4月に区域麻酔担当診療教授として中本達夫先生が、平成29年4月に呼吸器外科麻酔担当診療教授として萩平哲先生（現・理事長特命教授）が、また、令和７年には腎疾患・移植麻酔担当診療教授として井口直也先生が着任しました。さらに令和７年に梅垣岳志先生が総合集中治療部担当診療教授に昇進いたしました。麻酔の各種分野のエキスパートが研修指導を行います。

総合集中治療部で重症患者の全身管理が研修できます

附属病院では麻酔科を中心にclosed systemで集中治療診療を行っています。総合集中治療部（GICU）では内科系・外科系を問わず、呼吸・循環・代謝などの重要臓器の急性臓器不全に対し、総合的・集中的に治療・看護を行っています。術後患者とともに敗血症、重症肺炎、多臓器不全等による重症患者に対し、人工呼吸管理、血液浄化法、抗菌薬などによる全身管理・治療を行っています。

ペインクリニックの研修も可能です

麻酔科診療の第3の柱である疼痛管理に関しては従来総合医療センターで研修を行っていましたが、附属病院では、痛みセンターにおいてペインクリニックだけでなく集学的アプローチによる痛み診療の研修が可能です。

各種臨床研究、基礎研究ができます

麻酔科では臨床統計学を用いた患者予後に対する各種因子の影響の検討、各種伝達麻酔の有用性の検討、脳波解析による麻酔深度の判定など、多彩な臨床研究を行っています。また、基礎研究としては免疫担当細胞機能に対する各種麻酔薬の影響についての研究、ストレス反応が血小板機能に与える影響についての研究、micro RNAによる周術期の各種病態の解明についての研究、脳死モデルにおける心筋保護についての研究などを行っています。

区域麻酔担当 診療教授　中本 達夫

平成４年 大阪市立大学 卒業
平成12年 Austin and Repatriation Medical Centre 麻酔科 留学
平成27年 関西医科大学 麻酔科学講座 区域麻酔担当 診療教授
主要な専門領域：区域麻酔、ペインクリニック

超音波を用いた神経ブロックを中心とした区域麻酔を専門に、これらを利用した術後鎮痛ならびに痛みセンター（ペインクリニック）に関わっています。

腎疾患・移植担当 診療教授　井口 直也

平成11年 鳥取大学 卒業
平成27年 University of Melbourne(Florey Institute)、Austin Hospital 留学
令和７年 関西医科大学 麻酔科学講座 腎疾患・移植担当 診療教授
主要な専門領域：周術期管理、急性腎障害、急性血液浄化、医療機器開発

重症患者の麻酔・集中治療を主要な臨床領域として豊富な経験が有ります。急性腎障害の新規モニタリング・治療法の開発、さらには新しい循環管理を提唱しています。学びやすい環境を提供し、どんな状況でも通用する、生涯にわたって活躍できる麻酔科医を育成します。

総合集中治療部担当 診療教授　梅垣 岳志

平成15年 関西医科大学 卒業
平成24年 京都大学大学院医学研究科 博士課程 修了
令和７年 関西医科大学 麻酔科学講座 総合集中治療部担当 診療教授
主要な専門領域：集中治療、医療経済

これまでの経験を活かし麻酔・集中治療に取り組むとともに、日常の臨床データやビッグデータを用いた研究にも長年取り組んでいます。診療・教育・研究のさらなる充実に努めています。

1 専門研修の目標

- 安全かつ安心な周術期医療を提供できる麻酔科および関連分野の診療ができる医師となる。
- 十分な麻酔科領域、麻酔科関連領域の専門知識と技量を修練する。
- 刻々と変化する臨床現場における適切な臨床的判断能力、問題解決能力を身につける。
- 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度と習慣を身につける。
- 常に進歩する医療・医学に則して生涯研鑽を継続する向上心を身につける。

2 専門研修修了後に得られる資格

- 日本麻酔科学会専門医
- 日本集中治療医学会専門医
- 日本ペインクリニック学会専門医
- 日本心臓血管麻酔学会専門医

3 専門研修プログラム概要

- 麻酔科標榜医（厚生労働省）を取得：麻酔科認定病院での２年間の研修
- 麻酔科専門医：臨床研修修了後、日本麻酔科学会が認定した研修プログラムに則り、4年の研修の修了と認定試験の合格により専門医資格を得ることができる
- 経験必要症例数：小児（6歳未満）の麻酔（25症例）、帝王切開術の麻酔（10症例）、心臓血管手術の麻酔（25症例）、胸部外科手術の麻酔（25症例）、脳神経外科手術の症例（25症例）

4 専門研修プログラムでの関連病院の数と症例数

総合医療センター、香里病院、馬場記念病院、大阪府済生会野江病院、大阪府済生会茨木病院、大阪府済生会泉尾病院、国立循環器病研究センター、大阪大学医学部附属病院、国立病院機構大阪医療センター、石切生喜病院、大阪府立病院機構大阪母子医療センター、大阪けいさつ病院、関西ろうさい病院、神戸大学医学部附属病院、滋賀医科大学医学部附属病院、和歌山県立医科大学附属病院、奈良県立医科大学附属病院、大和高田市立病院、倉敷中央病院、千葉県こども病院、大阪市立総合医療センター　以上21病院

年間症例数	外来症例数（延べ）	入院症例数（延べ）	手術症例数
基幹病院での症例数	－	－	13,290

（令和６年度）

5 専門研修後の進路

- 大学院入学
- 大学附属病院又は関連病院での研修

6 評価・支援制度

- 日本麻酔科学会専門医研修プログラムに則った研修
- 女性医師が産休・育児休暇の後に復帰できるように支援体制を組んでいます。

7 専門研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	上林 卓彦	教　授	麻酔一般	日本麻酔科学会指導医、日本ペインクリニック学会専門医
指導医	附属病院	萩平 哲	理事長特命教授	呼吸器外科麻酔 麻酔一般	日本麻酔科学会指導医、日本集中治療医学会専門医、日本周術期経食道心エコー認定医
指導医	附属病院	中本 達夫	診療教授	区域麻酔 ペインクリニック	日本麻酔科学会指導医、日本ペインクリニック学会専門医 日本臨床麻酔科学会認定教育インストラクター、日本心療内科学会登録医 日本医師会健康スポーツ医、日本区域麻酔学会指導医
指導医	附属病院	井口 直也	診療教授	集中治療 急性腎障害 急性血液浄化	日本麻酔学会指導医、日本集中治療医学会専門医 日本心臓血管麻酔学会専門医、日本呼吸療法医学会専門医 日本急性血液浄化学会指導者、ICLSディレクター、ALS大阪認定コースディレクター
指導医	附属病院	梅垣 岳志	診療教授	集中治療医学	日本麻酔科学会指導医、日本集中治療医学会専門医、日本周術期経食道心エコー認定医 日本集中治療医学会インフェクションコントロールドクター、日本心臓血管麻酔学会専門医
指導医	附属病院	伊藤 明日香	講　師	心臓血管外科麻酔	日本麻酔科学会指導医、日本心臓血管麻酔学会専門医、日本心臓血管麻酔学会指導医
指導医	附属病院	内田 整	病院教授	小児麻酔 麻酔一般	日本麻酔科学会指導医
指導医	総合医療センター	増澤 宗洋	病院教授	ペインクリニック 緩和医療	日本麻酔科学会指導医、日本ペインクリニック学会専門医、日本緩和医療学会専門医
指導医	総合医療センター	阪本 幸世	病院准教授	麻酔一般	日本麻酔科学会指導医
指導医	香里病院	上村 幸子	講　師	麻酔一般	日本麻酔科学会指導医、日本小児麻酔学会認定医

救急医学科専門研修プログラム

関西医科大学の救命救急センターの開設は昭和54年にさかのぼります。附属病院高度救命救急センター（20床）、総合医療センター救命救急センター（60床）、総合医療センターGICU・HCU（17床）を救急医学講座が中心となり運営しています。それぞれの部門の特徴を生かし、Acute care surgery、ドクターカーによる病院前救護、Hybrid ERでの重症外傷診療、精神科身体合併症診療、重症熱傷、術後集中治療管理など多様な病態を、多様な場面で自らが中心となって経験することができます。

様々なSubspecialty・ダブルボードを持った救急専門医が指導にあたっています。多くの先輩は、救急専門医取得後2～3年間Subspciality研修に出て、一人前の救急医となり活躍してくれています。このように言うと体育会系を想像するかもしれませんが、2交代制勤務、子育て世代のフレキシブルな勤務など、誰もが働きやすい職場環境を目指していますので是非一度見学に来てください。そしてチームの一員に加わってください。

救急医学科プログラム統括責任者
救急医学講座 教授
中森 靖

平成７年 大阪大学 卒業
平成15年 大阪府立急性期総合医療センター 高度救命救急センター
平成25年 関西医科大学 救急医学講座 准教授
平成29年 同 診療教授
平成31年 総合医療センター副病院長
令和８年 関西医科大学 救急医学講座 教授
主要な専門領域：外傷学（特にHybrid ERを用いた初療システムの第一人者）

講座サイトはこちら

是非、地域住民の生命と健康を背負ってたつ人材、未来の救急医学をリードする人材になって下さい

専門研修プログラムの特徴

救急医学科専門研修プログラムの特徴は、救急科研修の主要な要素である高度医療、病院前診療、地域医療がいずれのコースを選択してもバランスよく研修できる点にあります。また、その延長線上にある外傷診療、集中治療、病院前体制の調整と制御、ER運用管理、災害医療などのエキスパートへの道を視野に入れて、学問的研究活動や、教育・指導力の素地・素養も身につけることができる環境を整備した専門研修プログラムとなっています。

救命救急とSubspecialty

- 救急医学科では、全診療科領域にわたって救急病態の診断と初期治療にあたります。すばやい診たてとともに、重症救急症例の救命・社会復帰を可能にするための基礎的技術（脳・呼吸・循環の機能維持、つまり生命維持を行う技術）は、すべての教室員に身につけてもらいます。
- 救急医自身が外科、脳外科、整形外科、消化器内視鏡、心血管・脳血管を含む血管内治療など、Subspecialtyとしての診療技術や、災害医療などの付加的技術も身につけてもらいます。

ダブルボード

- Subspecialty研修の延長線上にダブルボード取得があります。救急/集中治療、救急/外科、救急/整形外科、救急/内科、救急/精神科など様々なダブルボード研修の選択肢があります。関西医科大学内/他施設での専門医プログラムへの参加を積極的に支援します。

研究テーマ

- 侵襲時の心・循環機能評価
- Hybrid ER systemの臨床的評価
- AIを用いたHybrid ER支援システムの開発
- AIを用いたICU急変予測システムの開発
- 質量分析器を用いた薬物中毒診療
- マルチプレックスPCRを用いた肺炎診療
- 高度免疫不全患者のCOVID-19治療法の開発
- 重症患者管理におけるリフィーディング症候群
- リフィーディング症候群とオートファジー
- 熱中症の病態解明と予後予測
- 心肺停止患者の疫学調査

総合医療センター 救急医学科 診療教授 **吉矢 和久**

平成９年 大阪大学 卒業
平成９年 大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター
平成22年 米国ハーバード大学医学部ベス・イスラエル・デコネス・メディカルセンター留学
令和元年 関西医科大学 救急医学講座 准教授、総合医療センター総合集中治療部 部長
令和４年 関西医科大学 救急医学講座 診療教授
主要な専門領域：救急医学全般、集中治療医学、頭部外傷、神経集中治療

当院では救急医学科が救命救急センター、集中治療部を担っており、救急、集中治療両方のスペシャリストが目指せます。救急、集中治療、外傷、脳卒中、精神科救急など広く深く学びたい人、是非一緒に働きましょう。

1 専門研修の目標

本研修プログラムによる専門研修は、救急科領域研修カリキュラムに準拠し行われます。基本的診療能力（コアコンピテンシー）習得はもちろんのこと、1）様々な緊急度の傷病に対する適切な初期診療、2）複数患者の優先度判断、3）集中治療、4）多職種との連携、5）病院前診療、6）メディカルコントロール技能、7）災害医療における指導的立場、8）教育指導力、9）救急診療の科学的評価・検証などの能力獲得を専門的目標とします。

2 専門研修修了後に得られる資格

- 救急科専門医

3 専門研修プログラム概要

- 研修期間は3年間で、各年度の応募定員は5名です。原則的な組み立ては、附属病院（基幹）または総合医療センター（連携A）でのクリティカルケア、初療、メディカルコントロール研修が計1年半、信愛会交野病院（関連1）でのER・地域医療研修が3カ月～6カ月、そして希望に応じて兵庫県立西宮病院（連携B）での外傷外科、離島を含む地域救急（長崎大学病院：連携Cと上五島病院：関連2）研修、ER重点研修（連携D,E）などが選択可能です。

研修プログラムの例

病院群ローテーション研修の実際として、以下に専攻医4人（①、②、③、④）のプログラム例を示しています。専攻医数が5名の場合は、③または④を2名とします。いずれのローテーション群を選択した場合でも、3年目から臨床系大学院への進学が可能です。

施設類型	指導医数	施設名	研修内容	1年目	2年目	3年目
基幹施設	3	関西医科大学 附属病院	外傷・クリティカルケア・メディカルコントロール・病院前救護	① ②　② ④ ⑤	③	② ④ ⑤
連携	3	関西医科大学 総合医療センター	外傷・クリティカルケア・ER	③	④　④	① ③
連携	1	兵庫県立西宮病院	外傷・地域医療・病院前救護・ER		②	
連携	1	長崎大学病院（離島派遣を含む）	地域医療・僻地医療・病院前救護		①	
連携	0	社会医療法人信愛会交野病院	地域医療・ER	②　⑤	③　④	
連携	1	大阪けいさつ病院または静岡厚生病院	ER・外傷・クリティカルケア・地域医療		⑤	⑤・選択

4 専門研修プログラムでの関連病院の数と症例数

附属病院（基幹）、総合医療センター（連携A）、兵庫県立西宮病院（連携B）、長崎大学病院（連携C）、社会法人信愛会交野病院（関連1）（関連病院である交野病院、上五島病院の症例数は経験例数に含めません）、大阪けいさつ病院（連携D）、静岡厚生病院（連携E）

		必要数	病院群						合計	必要数との比
			基幹	連携A	連携B	連携C	関連1,2	連携D,E		
指導医数			6	4	1	1	0	1	13	13
傷病分類	心停止	15 以上	191	121	15	15	0	15	357	23
	ショック	5 以上	144	177	5	5	0	5	336	67
	内因性救急	45 以上	726	1,230	45	45	0	45	2,091	46
	外因性救急	20 以上	371	629	20	20	0	20	1,060	53
	小児および特殊救急	6 以上	66	70	6	6	0	6	154	25
	小計	91	1,498	2,227	91	91	0	91	3,998	
救急受入	救急車	500 以上	2,065	1,753	500	500	0	500	5,318	10
	うち救急入院患者	200 以上	1,221	1,137	200	200	0	200	2,958	14
	うち重症救急患者	20 以上	828	822	20	20	0	20	1,710	85

5 専門研修後の進路

専門医取得後には、数多くのポストに恵まれています。本学の2附属病院ばかりでなく、大阪大学、大阪公立大学、順天堂大学など全国11大学の救急医学教室に同門教授が在籍する関係を築いており、また大阪府立急性期・総合医療センター、大阪けいさつ病院、兵庫県立西宮病院など全国14の救命救急センター、6カ所のドクターヘリ運用施設、5カ所の大型ERが関連病院となっています。これらの施設とは人事交流を行っており、多彩なポストで臨床・研究の研鑽を積むことができます。また将来的には「地域の救急医療統括・調整業務」が厚労省より独立した救急科専門医の職能として求められていますし、一部同門大学では救急施設と地域を結ぶ組織的訪問診療施設設立の試行も行っています。あまり知られていませんが、このように救急科専門医を求める職能領域は巾広く、卒後経験年数に応じて多様な進路が開けています。

6 評価・支援制度

専門研修の1年目、2年目、3年目のそれぞれに、コアコンピテンシーと救急科専門医に求められる知識・技能の修得目標を設定し、各年度の中間（9月）および年度の終わり（3月）に、指導医からの他者評価と自己点検によって達成度を評価します。このことにより、基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮しています。また、各年度の1月に連携施設研修管理委員会を開催し研修プログラム運営状況を把握しています。

7 専門研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	中森 靖	教　授	救急	救急科専門医、日本救急医学会指導医
指導医	附属病院	池側 均	学長特命准教授	救急	救急科専門医、日本救急医学会指導医
指導医	附属病院	梶野 健太郎	准教授	救急	救急科専門医、日本救急医学会指導医
指導医	附属病院	室谷 卓	講　師	救急	救急科専門医、日本救急医学会指導医
指導医	附属病院	中村 文子	講　師	救急	救急科専門医、日本救急医学会指導医
指導医	附属病院	櫻本 和人	講　師	救急	救急科専門医、日本救急医学会指導医
指導医	総合医療センター	吉矢 和久	診療教授	救急	救急科専門医、日本救急医学会指導医
指導医	総合医療センター	齋藤 福樹	准教授	救急、整形外科	救急科専門医、日本救急医学会指導医
指導医	総合医療センター	吉原 智之	講　師	救急	救急科専門医、脳血管内治療専門医
指導医	総合医療センター	島崎 淳也	講　師	救急	救急科専門医、日本救急医学会指導医、外科専門医
指導医	総合医療センター	和田 大樹	講　師	救急	救急科専門医、日本救急医学会指導医

臨床検査医学科 専門研修 プログラム

臨床検査専門医の役割は、あまり知られていませんが、臨床医と検査室の懸け橋を担っており、病院運営に重要な役割を果たしています。具体的な仕事内容は、検査業務のマネージメントや診療各科からの問い合わせ業務などがその中心となりますが、新しい検査方法の研究、医療検査機器の開発、動線解析なども積極的に行っています。確かに患者様と接する機会はあまりありませんが、専門的なコンサルティング能力や膨大な収支バランス感覚を養ったりすることもできるため、他の診療科とは一線を画しています。また、臨床検査専門医は、その業務の特殊性から他の基本領域学会も同時に有することが出来るユニークな診療科です。しかし、臨床検査専門医の総数は、700名に達しておらず、全国的に明らかに不足しており、社会的にその人材育成が強く求められています。

臨床検査プログラム統括責任者
臨床検査医学センター センター教授

神田 晃

平成６年　関西医科大学 卒業
平成12年　秋田大学大学院医学系研究科（臨床検査医学分野専攻）
平成16年~23年　フランス・リール パスツール研究所 留学 phD fellowship
令和３年　関西医科大学附属病院 臨床検査医学/臨床検査医学センター 教授
令和４年　関西医科大学附属病院 臨床検査医学/臨床検査医学センター 教授
主要な専門領域:臨床検査医学、アレルギー学、耳鼻咽喉科学

講座サイトはこちら

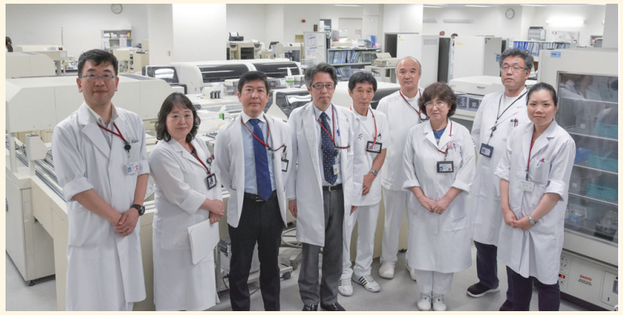
あなたも病院から 頼りにされる臨床検査の プロになれる！

- 研修する附属病院と総合医療センターはいずれも日本臨床検査医学会の研修指定病院で、それぞれの病院には指導に当たる専門医を配置しています。
- プログラム制研修だけでなく、カリキュラム制研修も採用しています。
- 他の基本領域学会の専門医を取得されている方のセカンドキャリア形成にも対応しています。
- 附属病院はISO15189という、臨床検査に特化した標準化の認定を取得しています。つまり、国際標準の臨床検査医学科です。
- 附属病院の臨床検査医学科は、最新の装置を完備しており、検体検査では30分~40分で約98%の検査結果を迅速に報告することができます。
- 検査結果が迅速に見られる診療環境では非常に安全な医療が実践できますので、附属3病院はいずれも高い評価を得ています。

研究テーマ

- 免疫・生化学自動化システムにおける導線解析
- ディバイスを用いた医工学連携によるシステム構築
- 非破壊診断検査法の開発
- 新しい遺伝子検査法の開発
- 免疫・アレルギーの解明、新規治療・診断法の開発

検査風景



検査医学科のメンバー写真

1 専門研修の目標

- 基本領域における知識と技能であり、Subspecialty領域での基本的な能力を習得
- 臨床検査室のマネージメントを最適に指揮することができ、臨床検査が適切に行われ、検査結果の質、臨床的妥当性、有用性を保証する能力を習得
- 診断のための検査法、検査の活用法、検査結果の解釈を理解し、医師にコンサルトできる能力を習得
- 生理機能検査を実施する場合、その管理を適切に行い、検査結果を検証し、医師にコンサルトできる能力を習得

2 専門研修修了後に得られる資格

- 日本臨床検査医学会専門医

3 専門研修プログラム概要

	卒後1~2年[1]	3年目	4年目	5年目	6年目
研修施設	附属病院、総合医療センターまたは他の基幹型臨床研修病院	附属病院または他の認定研修施設での専門研修			大学附属病院または関連病院での研修、または大学院への入学
学会	日本臨床検査医学会に研修開始を宣言	必修項目を含む独自の研修を終了し、経験した日常業務内容を証明する資料を準備して、専門医受験時に提出する			
研修体制	臨床検査部門を含む診療科での臨床研修指導を受ける	指導医（指導者[2]）と1対1の指導体制			指導医の下で独立した臨床検査医として業務を担当
		それぞれの領域での専門医（指導者[2]）の指導			
研修目標	幅広く医学一般の診療について見識を深める	1）専攻医が臨床検査に関する知識、技能を習得すること 2）専攻医が臨床検査を通して診療に貢献すること 3）専攻医が臨床検査の研究法を習得すること 4）専攻医が医師として適切な態度と高い倫理性を備えることにより、患者・メディカルスタッフに信頼され、プロフェッショナルとしての誇りを持つこと 5）臨床検査専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること			専門領域を決めて、基本的にはその領域の臨床業務をある程度の責任をもって担当する。同時に、臨床研究ならびに基礎研究にも着手する

1）臨床検査専門医を目指す最短コースでは、臨床研修から研修宣言することで5年後に可能となる。
2）臨床検査医学の指導者は、医師だけではないので、それぞれの専門的知識を有する職員の指導をあおぐ。

- 受験資格は、附属病院、総合医療センターのような認定研修施設で5年間以上の専門研修を終える必要があります。専門研修のカリキュラムは別に定めていますが、大変幅広い分野（総論、一般臨床検査学、臨床血液学、臨床化学、臨床微生物学、臨床免疫学、輸血学、臨床生理学など）で、それぞれの検査の実技も問われますので、実際に研修します。
- 学会の加入歴は問われませんが、受験時には日本臨床検査医学会の会員であることが求められます。

4 専門研修プログラムでの関連病院の検体数

	入院検体数		外来検体数	
	検体検査	生理機能検査	検体検査	生理機能検査
附属病院	2,184,257	9,672	4,054,616	61,946
総合医療センター	1,037,244	4,938	1,893,584	36,810

（令和６年度）

5 専門研修後の進路

籍がある場合は有給職（助教）として臨床検査医として勤務します。籍がない場合は、他の医療機関で勤務しながら研究生または専攻生として臨床検査医を目指した研修を積むことになります。また、大学院生となる道もあり、大学院募集要項に記載したとおりに指導します。また、Subspecialtyとして人間ドック専門医なども取得することが出来ます。

6 評価・支援制度

- 日本臨床検査医学会卒後研修カリキュラムに沿った独自の研修プログラムを用意しています。
- 少なくとも、毎月複数回、研修責任者（教授）と面談して進路や研修の進行状況を確認致します。
- 大学の専門研修支援チームとも連携します。

7 専門研修指導医

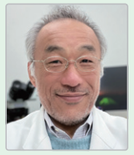
	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	神田 晃	教　授	臨床検査医学	臨床検査医学専門医・指導医、アレルギー指導医 耳鼻咽喉科専門医

病理
専門研修
プログラム

病理診断科の主な業務には組織診断、術中迅速診断、細胞診、病理解剖があり、質の高い医療を提供するためにはなくてはならない業務です。附属病院病理診断科では臨床各科の広い領域において多岐に渡る豊富な症例の診断業務を行っています。
令和6年度実績 病理組織診断18,711件/術中迅速診断896件/細胞診12,249件/年
現在3病院併せて、9名の病理医と17名の細胞検査士の資格を有する臨床検査技師で業務にあたっています。

診療チームの一員として
活躍できる病理医を育成

- 病理診断科は、ほぼ全ての診療科から提出される検体に対して確定診断を行い、治療方針の決定に重要な情報を提供しています。
- 臨床における必要性が増しているにもかかわらず、病理専門医数は絶対的に不足しています。
- 癌罹患者数の増加、医療の多様化に伴って、病理解剖による死因の究明や診療の検証などが必要となり、病理医の需要は確実に増加すると考えられます。
- 当科では消化器、呼吸器、婦人科、泌尿器カンファレンス、病理解剖症例など、常に臨床各科との症例検討を行っています。
- 個人の状況に応じ、様々なキャリアアップの方法があります。
- 幅広い知識と実践的な診断力を習得できるよう、充実した環境を提供いたします。



病理診断科 診療教授 **内田 克典**

平成６年 三重大学 卒業
平成12年 ワシントン大学 留学
平成23年 ジョンズホプキンス大学 留学
令和６年 関西医科大学 病理学講座 診療教授
主要な専門領域：病理診断、デジタルパソロジー

病理診断科では、病理診断を通じて治療選択や予後の推測の基盤となる情報を提供します。日々の診療を通してさらに専門性を高めることも出来ます。海外を含め他機関共同研究を積極的に行っており、世界で通用する病理医を育成します。皆さんの努力と献身が、未来の医療を形成することを確信しています。未来の医療のため、一緒に頑張りましょう！

香里病院 病理診断科 診療教授 **平野 博嗣**

平成３年 大阪医科大学 卒業
平成14年 兵庫医科大学病理学第二講座 講師
平成27年 札幌医科大学 病理診断科 准教授
平成29年 東京医科大学八王子医療センター病理診断部 教授
令和６年 関西医科大学 病理学講座 診療教授
主要な専門領域：病理診断、細胞診

病理は患者の治療に大きく寄与し、重要な役割を担っています。
私たちと一緒に病理診断をしてみませんか。

3病院 病理診断科・病理部 病理学講座スタッフ一同

病理プログラム統括責任者
病理診断科 教授

蔦 幸治

平成８年　関西医科大学 卒業
平成８年　聖路加国際病院
平成10年　関西医科大学大学院
平成14年　国立がん研究センター
平成20年~21年 M.D. Anderson Cancer Center 留学
平成21年　国立がん研究センター
平成27年　関西医科大学 病理学講座 教授
主要な専門領域：病理診断、細胞診

講座サイトはこちら

1 専門研修の目標

- 病理専門医として適切な医療に貢献するために、診断病理学全般に必要な知識・技能・態度を身につける。
- 病理解剖において病理医として必要な知識や手技を理解し、身につける。
- 的確な病理診断を下し、病理学的立場から臨床医に助言を行える技能を養う。

2 専門研修修了後に得られる資格

- 死体解剖資格
- 病理専門医
- 細胞診専門医

3 専門研修プログラム概要

	卒後３年目	４年目	５年目	６年目
研修施設	附属病院	附属病院	連携施設	病理専門医取得
研修内容	手術検体：各臓器をローテーションで全例研修 病理解剖		頻出症例を数多く経験する 週1日は附属病院で研修	
	術中迅速・生検検体の研修、 後半 細胞診の研修	生検検体、術中迅速、細胞診を 当番で担当		

研修のために参加する学会　●日本病理学会　●日本臨床細胞学会

4 専門研修プログラムでの関連病院の数と症例数

附属病院、総合医療センター、香里病院、済生会中津病院、
滋賀医科大学附属病院、国立がん研究センター中央病院

年間症例数	組織診	術中迅速診	細胞診
基幹病院での症例数	18,711	896	12,249

（令和６年度）

5 専門研修後の進路

- 専門性の高い病理医を目指す大学院入学
- 連携病院で病理専門医として活躍する
- 大学の高度医療人育成制度による臨床留学

6 評価・支援制度

日本病理学会専門医研修プログラムに沿って、到達目標とされた規定項目を履修できるように、指導し、評価する。研修責任者や指導医と進路や研修内容について協議し、大学の専門研修支援チームとも連携する。

7 専門研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	附属病院	蔦 幸治	教　授	病理診断・細胞診断	病理専門医・細胞診専門医
指導医	附属病院	内田 克典	診療教授	病理診断・細胞診断	病理専門医・細胞診専門医
指導医	附属病院	田中 亨	学長特命教授	病理診断	病理専門医
指導医	附属病院	仲矢 丈雄	准教授	病理診断	病理専門医
指導医	附属病院	中井 登紀子	准教授	病理診断・細胞診断	病理専門医・細胞診専門医
指導医	総合医療センター	植村 芳子	学長特命教授	病理診断・細胞診断	病理専門医・細胞診専門医
指導医	香里病院／附属病院	平野 博嗣	診療教授	病理診断・細胞診断	病理専門医・細胞診専門医

総合診療専門研修プログラム

総合診療は、少子高齢化など今後の地域社会の急激な変動をふまえ、「広く、多様な問題を扱う」「地域を診る視点をもつ」医師として、19番目の基本領域として設立されました。総合診療プログラムでは、ジェネラリストとして診療するための確かな基盤を修得しますが、その将来像は多様であり自由度が高いです。また新しい領域ではありますが、先達の多くの活動の歴史とサポートがあります。ぜひ未来を支えるこの領域に進んでください！

総合診療プログラム統括責任者
総合診療医学講座（地域医療学）
理事長特命教授
石丸 裕康

平成４年 大阪大学 卒業
平成４年 天理よろづ相談所病院レジデント
平成９年 同 総合診療教育部医員
平成23年 同 総合診療教育部副部長
平成30年 同 救急診療部長
令和３年 関西医科大学 総合診療医学講座（地域医療学）
理事長特命教授
主要な専門領域：総合診療、総合内科、リウマチ膠原病

講座サイトはこちら

診療所から大病院まで、どのような環境であっても総合的に診療できる医師を育成します！

身体面はもちろんのこと、心理社会的側面にも目を向け、解決できる力を修得できる研修プログラムとしております。

総合診療科カンファレンス

1 専門研修の目標

総合診療専門医に求められる7つの資質・能力の獲得を目標とします。
① 包括的統合アプローチ
② 一般的な健康問題に対する診療能力
③ 患者中心の医療・ケア
④ 連携重視のマネジメント
⑤ 地域包括ケアを含む地域志向アプローチ
⑥ 公益に資する職業規範
⑦ 多様な診療の場に対応する能力

2 専門研修修了後に得られる資格

- 総合診療専門医
- その後の研修に応じて→内科専門医、新・家庭医療専門医、病院総合診療専門医、合同心療内科専門医など

3 専門研修プログラム概要

〈総合診療専門研修Ⅱ 6~12カ月〉香里病院、附属病院
〈総合診療専門研修Ⅰ 6~12カ月〉
弓削メディカルクリニック、上野総合市民病院、
石垣島徳洲会、宮古島徳洲会病院（離島研修）
〈内科研修 12カ月〉香里病院内科、上野総合市民病院
〈必須研修 6カ月〉附属病院小児科、救急医学科

モデルコース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	総合診療専門研修Ⅱ（6カ月）						小児科研修（3カ月）			救急科研修（3カ月）		
	香里病院総合診療科						附属病院小児科			附属病院救急医学科		
2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	内科研修（12カ月）											
	香里病院内科											
3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総合診療専門研修Ⅰ（6カ月）						総合診療専門研修Ⅱ（6カ月）					
	弓削メディカルクリニック、上野総合市民病院、石垣島徳洲会病院、宮古島徳洲会病院より選択						附属病院総合診療科					

4 専門研修プログラムでの関連病院の数と症例数

- 基幹施設：香里病院（総合診療科、内科）
- 関連病院：附属病院（総合診療科、小児科、救急医学科、心療内科）
弓削メディカルクリニック、上野総合市民病院、石垣島徳洲会病院
宮古島徳洲会病院、大阪けいさつ病院

年間症例数	外来症例数（延べ）	入院症例数（延べ）
基幹病院での症例数	外来新患者数：6,620人 外来延患者数：66,890人 （内科・総合診療科）	入院新患者数：1,892人 （内科・総合診療科）

（令和６年度）

5 専門研修後の進路

- 内科専門医取得（ダブルボード）
- 家庭医、病院総合診療医、心療内科医など、希望に沿った進路を相談していきます。

6 評価・支援制度

評価

1. 振り返り

複数の診療科ローテートが必要な総合診療専門研修においては3年間を通じて専攻医の研修状況の進捗を切れ目なく継続的に把握するシステムが重要です。研修手帳の記録及び定期的な指導医との振り返りセッションを1カ月おきに定期的に実施します。その際に、日時と振り返りの主要な内容について記録を残します。また、年次の最後には、1年の振り返りを行い、指導医の評価を研修手帳に記録します。

2. 経験省察研修録（以下、ポートフォリオ）の作成

常に到達目標を見据えた研修を促すため、ポートフォリオ（学習者がある領域に関して最良の学びを得て、最高の能力を発揮できた症例・事例に関する経験と省察の記録）作成の支援を通じた指導を行います。指導医は定期的な研修の振り返りの際に、ポートフォリオ作成状況を確認し適切な指導を提供します。当科では日本プライマリ・ケア連合学会主催のポートフォリオ研修・指導が受けられる体制があります。

3. 研修目標と自己評価

専攻医には研修目標の各項目の達成段階について、研修手帳を用いて自己評価を行うことが求められます。指導医は定期的な研修の振り返りの際に、研修目標の達成段階を確認し適切な指導を提供します。また、年次の最後には、進捗状況に関する総括的な確認を行い、現状と課題に関するコメントを記録します。

支援制度

- 附属病院の就労支援を採用
- 本プログラムの管理運営体制として、「専門研修プログラム管理委員会」が設置されており、プログラム施行上の問題点の検討や再評価を断続的に行います。

7 専門研修指導医

	施設	氏名	職位	専門分野	資格
指導責任者	香里病院	石丸 裕康	理事長特命教授	総合診療 総合内科	総合診療専門研修特任指導医 日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 日本病院総合診療医学会特任指導医 日本内科学会総合内科専門医、日本リウマチ学会リウマチ専門医
指導医	附属病院	西山 順滋	講　師	総合診療 心身医学	総合診療専門研修特任指導医 日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 日本心身医学会指導医・専門医 日本心療内科学会登録指導医・登録医、日本医師会認定産業医
指導医	附属病院	水野 泰行	診療講師	総合診療 心身医学	総合診療専門研修特任指導医、日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 日本心身医学会心療内科学会合同心療内科専門医 日本内科学会認定医、総合内科専門医
指導医	附属病院	岡本 敬司	診療講師	総合診療 心身医学	総合診療専門研修特任指導医、日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 日本心身医学会心療内科学会合同心療内科専門医 日本内科学会認定内科医
指導医	附属病院	林 幹雄	准教授	総合診療 家庭医療	総合診療専門研修特任指導医 日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医・家庭医療専門医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、米国内科学会上級会員
指導医	香里病院	尾下 寿彦	講　師	総合診療 総合内科	総合診療専門研修特任指導医 日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会循環器専門医
指導医	附属病院	秋山 泰士	助　教	総合医療 心身医学	総合診療専門研修特任指導医